

特202
334



0048893-000

特202-334

漢文教科書教授用書

広島高等師範学校漢学会・編

六盟館

卷2

昭和2

AHJ

特 262

334

漢文教科書教授用書 卷二

特 202
334



二 卷

廣島高等師範學校
漢學會編



東 京

合 資 會 社

六 盟 館

漢文教科書卷二教授用書

前篇

第一課 國體

○教授要旨

本卷ハ卷一ニテ習得セル漢文ノ語法文法用字法ヲ基礎トシテ簡易ナル諸種ノ組織ニ曉通セシメ、文字ノ適切ナル運用法ニ習熟セシムルヲ主要目的トナシ徒ニ多ク漢字漢語ヲ教ヘントスルニアラズ。故ニ其教授ノ法ハ、專ラ一字一語ノ意義ノ講解ヲ以テ足レリトスベカラズ。宜シク時々簡易ナル和漢對照文ヲ課シ、其句法、字法ノ異同ヲ比較點檢セシメ、又時ニ臨ミ機ニ觸レテ、諸種助辭ノ性質用法ヲ曉得セシムベシ。而シテ其ノ之行フヤ、必ズ須ラク前後相參照對比シテ叮嚀反復、以テ十分明瞭ナル印象ヲ生徒ノ腦筋ニ留メ得テ而シテ後已ムベシ。且ツ此方法ハ獨リ本卷ニ限ルコトニアラズ、寧ロ上學年ニ進ムニ隨ヒ益々其精ヲ求メザルベカラザルモノナリ。特ニ最後學年ニハ、必ズ一タビ顧ミテ第一、二卷ニ提出セラレタル語法上、用字上ノ諸種知識ニ溯及シテ、之ヲ復活再現セシメ、以テ整理潤色ヲ加ヘ置クコトヲ要ス。從來ノ教授者ニ此ノ用意アルモノ稀ナルガ爲メニ、生徒ノ卒業後、タビニ應試受験ニ失敗スルノミナラズ、又實用上ニモ殆ンド何等ノ役ニモタ、スコト能ハズシテヤム

漢文科無用論ノ起ル亦宜ナラズヤ。(井上毅氏ノ梧陰存稿卷一、「學校ノ教科ニオケル漢文」ノ一篇ヲ參考セラレタシ)。又本卷ノ材料ハ務メテ我國ノ歴史及地理ノ中ニ取り、生徒ニ親切易解ナラシメ、兼ネテ其中ニ自然ニ國民的の道義上情操ヲ育成スルニ資セシメタリ。而シテ其ノ材料ノ排列ハ、先ヅ我國體ノ中心ヨリ端ヲ發シ、歴史及地理的事實觀念ノ聯絡ヲ追ヒ、畿内地方ヨリ次第ニ遠隔ノ地方ニ及ボシテ略ボ全國ヲ一周シ、終ニ復タ皇室ノ中心、忠孝ノ大義ニ歸セシム。

○坤輿 坤ハ易ノ乾坤ノ坤ニテ乾ノ天ニ對スル地ナリ。周易坤卦ノ辭ニ、坤元亨利牝馬之貞。象傳ニ、坤厚載物、德合無疆トアリ。輿ハ本ト車上ノ箱、人ヤ物ヲ載スル所、因ツテ萬物ヲ載スル大地ヲ輿地トイフ。地球全體、世界全體ヲ指スナリ。坤輿ハ即チ輿地ト同義。

○環 モト圓キ璧ノ名。此處デハ活字トナリ、「環周スルナリ」。

○國 此モ活字トナル。

○以十 十ヲ單位トシ、何十何十トカゾヘル。

○而 卷一第二十一課參照。

○大率 率ノ一字ヲ用キルコトアリ。史記ノ莊周傳ニ、大抵率寓言也ト見ユ。率ハ比率、比例ノ義ニテ、一般的ニ推シナラシテイフ意アルヨリ、大略、大概、ト同義ニ用キラル。

○抑制 強者ガ弱者ヲオサヘツケル。抑束、制縛。

○出……之餘 斯クカクシタ結果トシテ、更ニ餘義ナキ次第、已ムヲ得ザルニ出ヅトノ意。「出於」ノ「於」ハ「由」「從」ノ意ニテ、「ヨリ出ヅ」ト讀ムガ正當ナリ。

○他志 他ノ意志。異心。

○系 絲條ノ繼續。

○且 古ハ祖先ノ祖ト通ジ、又苟且ノ且ト同ジク、事物ノマダ、ナホ、ト、繼續シテ斷絶セザル義アリ。故ニ「ナホ」トモ、「ソノウヘニ」トモ、「シバラク」トモ、「マサニ何何セントス」トモ訓ゼラル。

○皇祖 天照大神、又神武天皇ヲ指ス。

○支裔 支ハ枝ノ字ノ本字、主體ヨリ分レ出デタルモノ。支流、支派、支線ノ如シ。裔ハ本ト衣ノスソ(衣裾)ナイフ。因リテ土地ノ邊境ヲ四裔トイヒ、家族ノ遠系ノ子孫ヲ苗裔、後裔トイフ。

○容 許容ナリ。

○義則君臣、情則父子

雄略天皇ノ遺詔ニ、義乃君臣、情兼父子トアリ。日本書紀卷十四ニ見ユ。又近頃ニテハ戊申詔書ニモ同義ノ語アリ。

○覬覦 己ニ卷一國史略鈔ニ見ユ。左傳桓公十二年ニ、下無覬覦トアルニ出ヅ。下ノモノガ、ムヤミニ上ノ事ヲ望ミ願フコト。

○卓越 卓絶トモイフ。卓ハ高立、越ハ度越。高クスグレテ、他ニ立チコエルコト。

○安可 「安」ハ「焉」「豈」ト同ジク反語トシテ用ユ。但「安」「焉」ハ主トシテ場處ノ上ノ氣味ヲ帶ブ。ドコヲ探シテモソナコトノ出來ル所ガアロウゾトノ意アリ。尙虛助

字ノ參考書ハ、己ニ卷一教授用書ノ初二通リ掲ゲ置キシガ、近頃上海印行ノ劉淇ノ助字辨略、孫經世ノ經傳釋詞補、吳昌瑩ノ經詞衍釋ナドモ、資益スル所無キニアラザレバ茲ニ附言ス。

○所自 所ニ由ナリ。所ニ由來一也。所ニ自來トモイフ。

○川北海山 名ハ長順、伊勢ノ人。齋藤拙堂ノ門人ニシテ津藩ノ督學タリ。明治初年徵サレテ内史トナリ、三十八年、八十四才ヲ以テ歿ス。

第二課 神武天皇東征

○次 宿舎ナリ、宿泊ナリ。其所ニ至リテ止マルナリ。單ナル「至ル」ニハアラズ。主トシテ軍陣ノ宿營ニイヘド、孟子ノ公孫丑篇ニ、夫志至焉氣次焉トイヘルガ如ク、廣ク用キラル。通俗註釋ニ、此ノ氣次ノ次ヲ、上ノ至ト同訓ニ讀メルハ非ナリ。

○軸轅相銜 後篇日本外史源平氏(十二)節及北條氏條參照。

○抵 廣義ニハ至ナリ。狹義ニハユキツクナリ。ハタトユキ當ルナリ。進ンデ目的ニ觸レルマデユクナリ。抵觸ガ原義タリト必得アルベシ。

○邀 音エウ。此方ヨリ要シ迎フルナリ、マチウケルナリ(求ムル意アリ)。逢迎ノ迎ハ、單ニ來ルノヲ出ムカヘルナリ。

○既出 「既」ハ「既而」トモ書ク。廣義ニハ「已而」ト通用スレド、「既」ト「已」ハ稍ヤ異ナリ、「既」ハ事ノ全ク十分ニ終リ了シタルニ用キ、「已」ハ終ルヤ否ヤノ際ヲ表ハス。孰レモ斯クカクノ事ヲ居ツテ、ヤンガテ其中ドウコウスルトノ意アリ。「既」ニテハ特ニ、斯クカクシテ置イテ、ソレカラ、ソレヨリ以上更ニドウコウスルトノ意アリ。「已」ハ斯クスルコトガ、モースムヤイナヤ、ハヤドウコウスルトノ心持アリ。

○旋 見ニ卷一第十六課。ヒキ反ヘス。進ンデ居ル方向ヲ轉廻スルナリ。

○會 想ハズモ、バタト出クハスコト。會ト同ジク、タマノト讀ム助字中、「偶」ハ「フ」ト「フイ」ト(思ヒツクヤウニ)トイフコト。又「適」ハ、「チヨウド」「チヨウド、ソコニ」「ユキアフ」ナリ。(第九課「適」字條參照)。

○雨 活字トシテ用ユ。降ナリ。

○榛

ハシバミ。榛荆、榛莽ナドト熟用シ、叢生セルイバラ、亂生セルクサムラナドヲ指ス。第五十二課「榛荆」條參照。

○啓行

啓ハ出發ナリ。

○以降

「以」ハ猶ホ「而」ノ如キナリ。

○岩桓松苗

卷一末ニ見ユ。

○和漢對照文

神武天皇、破ニ諸賊於大和、而定ニ中州。ニオイテ、和文ノ「破リテ」ノ「テ」ニ「而」ノ字ヲ充テ用ユ。若シ「而」ヲ用キズバ下句三字トナリ、短促ニテ腰折レトナル患アルノミナラズ、上下二句對立トナリ、恐クバ遞送一貫ノ文義モ明カナラザラシ。此處ハ、「破ツテオイテ、ソレカラヤツト中州ヲ定メルコト、ナツタ。」トイフ意ニテ、賊ヲモ破リ、又中州ヲモ定メタトイフ意ニアラズ。「而」ハ緩辭ナリトイハル。推移ヲ表ハスナリ。

第三課 金鷄勳章

○大作

作ハ起ナリ。

○鷄

音シ、鷄ニ同ジ。トビ(鷲)ナリ。

○恢弘

恢(クワイ)ハ大ナリ弘ナリ。又恢宏ニ作ル。弘、宏同ジ。

○隻

音ケイ、翅ニ同ジ、ハルカニ遠キナリ。

○登極

即位ナリ。極ハ至上ノ處、此處デハ帝位トナル。

○紀元

紀ハスヂミチヲ立テ、記スルコトニテ、紀元ハ建國ノ初メノ年ノシルシナリ。

○衆庶

庶ハモロノ、庶民。

○體此旨

體ハ吾ガ身ニツケルコト、體認シ體行スルコト。旨ハ旨意ナリ、旨趣ナリ。

○稱

適スル、ツリアフ。

○洪恩

洪ハ大ナリ。

○可以……矣

卷一第二十九課及三十一課等參照。

○負

孤負ナリ。背反ナリ。

○可不

上ニ「豈」ノ字アルモ差支ナキモ、既ニ下ニ「乎」ノ字アリテ、十分反撥ノ意アル(「乎」ハソウカ、ソウデナイカト推シツメル)ノミナラズ、此處ニテハ可不念乎、可不戒乎ト同様ノ句ヲ疊ミ用ユルガ爲メ、「豈」ナドヲ省キテ語勢ヲ輕捷ナラシメタルナリ。

○依田學海

名ハ朝宗、字ハ百川、佐倉藩士ナリ。藤森天山(弘庵)ニ學ビ、藩學都講タリ。明治十一年修史局修撰トナル。巧文達筆、千言萬語、立ドコロニ成ル。著ハス所ニ譚海アリ。四十二年、七十七歳ヲ以テ東京ニ歿シ、淺草金藏寺ニ葬ル。

第四課 北畠親房

○北畠親房

姓ハ源、貝平親王ノ後、五朝ニ歴事シテ時望アリ。元弘三年車駕隱岐ヨリ還ルヤ、從一位ヲ授ケラレ、大臣ニ准ゼラル。子ノ顯家陸奥守トナリ、義良親王ヲ奉ジ、出デテ陸奥出羽ヲ鎮スルヤ、親房之ガ輔タリ。後京師ニ還ル。延元三年、子ノ顯信、陸奥介鎮守府將軍トナルヤ、親房又之ガ輔トナリテ任ニ赴ク。海上大風ニ遭ヒ、常陸ノ東條浦ニ漂着シ、阿波崎・神宮寺ノ二城ニ據ル。敵兵來リ攻メ、二城尋デ陥ル。親房走リテ小田治久(ハルヒサ)ニ小田城ニ依ル。四年小田城ニテ神皇正統記ヲ著ハシテ吉野朝廷ニ獻ズ。興國二年親房又職原抄(官職ノ事ヲ記ス)ヲ著ハシテ之ヲ獻ジ、興良親王ヲ小田城ニ迎ヘテ之ヲ奉ズ。治久叛シテ高師冬ニ降ル。親房乃チ退キテ關城ヲ保ツ。師冬兵ヲ率キテ來リ圍ム。親房援ヲ結城親朝ニ請フ。親朝聽カズ。亦叛シテ足利氏ニ降ル。親房城ヲ棄テ走リテ吉野ニ歸ル。九年賀名生ニ薨ズ。

○遭 メグリアフ、遭遇。第五十四課「遇」字條參照。

○閒關 隔タリ塞ガルノ義ニテ、路險ニシテ行キナヤムコトニイフ。漢書ノ王莽傳ニ、閒關至ニ漸臺トアリ。

○流離 流浪ニ同ジ。アテドモナクサスラヒユクコト。毛詩邶風ニ、流離之子トアリ。(但シ毛詩ノ流離ハ、一説ニ鳥ノ名ナリトセラル)。

○未嘗 卷一第四十八課參照。
マダ一度モタメシガナイ。

○博洽 洽ハ遍通ナリ。

○垂 陞ニ同ジ。近ナリ。

○乃 卷一第四十一課參照。
ソノマ、デ居ラズ、ソコデ、一轉シテ。

○迄 及ナリ、至ナリ。

○掲 顯揚スルナリ。

○於 從ナリ、由ナリ、カラ。卷一第三十五課參照。

○有歸 歸スベキ所ノ處アルタイプ。一系ノ皇位ヲ指ス。

○扶 扶植ナリ。

○春秋遺旨 孔子春秋ヲ作ル。志ハ尊王、正國體ニアリ。故ニ君臣間ノ大義名分ヲ明カニシテ、後世ノ亂臣賊子懼ル。

○云 一般世論又ハ識者ガ爾カ云フナリ。

○青山延于

雲龍、又拙齋ト號ス。卷一ニ見ユ。大日本史編纂ニ與カル。天保十四年六十

○己、己、己

己ハ自己ノ己、戊己ノ己(ツチノト)、(卷一第十七課干支參照)。己ハ既己、
ノ己、而已ノ己、己甚ノ己、己上己下ノ己(以ト通用)。己ハ辰巳ノ己(ミ)、
時刻ニテハ晝ノ四ツ(午前十時)。但シ己ト巳トハ、實際上多ク通用セラレ。

第五課 芳野山

○十六七

十之六七ニ同ジ。十分ノ六七ナリ。

○漫

瀟漫ナリ。

○懊恨

懊ハ音アウ、懊惱ナリ。

○大塔王

護良親王。

○蒙塵

天子ノ難ヲ避ケテ身ヲ逃ル、コト、ミヤコオチ。左侍僖公二十四年ニ見ユ。事急ニ
シテ道路ヲ清ムルニ遑ナク、塵ヲ蒙ムルノ意。

○行在

又行在所トイフ、行宮ト同ジ。天子行幸中留住ノ處。行ヲ「アン」ト發音スルハ、
宋音ニヨルトイフ。

○正開

「正」ハ、「アツベキ處ヘアタツテ」、「ボツチリ」ノ意アリ。此處デハ、開クベキ處ニ、
チヨウド、「ボツチリ」開イテ居ルトノ意。

○銀河

アマノカハ。天漢、天河、河漢、銀漢、星漢、雲漢ナドノ稱アリ。李白ノ詩ニ、飛流
直下三千尺。疑是銀河落九天トアリ。

○縹緲

ハルカニ、ヒロクトシタル狀。縹ハモト薄キ藍色(ハナダ色)ノコトナリ。
第二十八課ニハ縹渺トセリ。

○豈唯

卷一第五十課參照。

○齋藤拙堂

名ハ正謙、字ハ有終、拙堂ハ其號、又鐵研ト號ス。伊勢ノ人。古賀精里ニ昌
平愛ニ學ビ、歸リテ津藩ノ學政ヲ總督ス。慶應元年、六十九歳ヲ以テ茶磨山
莊ニ歿ス。著ハス所、拙堂文話・月瀨記勝・拙堂文集等アリ。

○和漢對照文

「行イテ」ノ「テ」、「義光ノ」ノ「ノ」、俱ニ此漢文ニハ其字ヲ省ク。

○古野懷古詩二首

孰レモ古野ノ作トシテ有名ナルモノ。然ルニ非難スルモノハ謂ヘラ
ク、杏坪ノ殘紅飛向此ノ句ハ意義鮮明ナラズ。竹外ノ吼天颯ト春寂
寥トハ一致セズ。鐵兜ノ露臥ハ乞食ニ似タリト。

○押韻、平仄

近體詩(律及絶句)ノ平仄及押韻法ハ、古體ヨリハ頗ル嚴密トナレリ。此ニ
ハ三絶句ヲ示セルガ、第十一課ニハ律(琵琶湖上作)、第二十一課ニハ古體

(詠四十七士)ヲ出セリ。此等ノ事ハ未ダ生徒ヲシテ詳知セシムルコト能ハザランモ、教授者ニ於テハ先ヅ此等ノ心得アリテコソ、其諷誦講解ノ間、自然ニ其下字ノ妙機ニ觸レ、生徒ノ興味ヲモ惹起スルニ至ルナラン。且ツ詩ノ構造組織ノ概略位ハ生徒ニモ知ラセ置カズバ、如何ニ力ヲ一字一語ノ講釋ニ費ストモ、普通文章ト同一視セシメ、折角採用セル特種材料ノ價值ヲ失ハシメン。第十一課「迭高下」條參照。

○叢 音ソウ、徂紅切、東。此ハ一般教授者ノ便利ノタメ、普通字書ノ記識法ニ從ヒテ音韻ヲ示スナリ。圍ノ中ニハ其屬スル韻ヲ示シ、其左下隅ノ白圈ノ平聲(上下平字)ヨ

リ起リ、上ニ右ニメグリテ、黑點ノ上去入(三者皆仄字)ニ至ル四聲ヲ表ス。

上	去
●	●
○	○
平	入

是ナリ。以下之ニ倣フ。此處デハ、叢、同、風、皆上平一東ノ韻ニ屬ス。以下諸詩押韻法皆此例ヲ以テ示ス。

○人 而真切、眞。起句第二字ガ平字ナレバ、此詩平起格タルコトヲ示ス。下、之ニ倣フ。

○攪 古巧ノ切、音カウ、慣用音カク。カキ亂ス、攪亂ナリ。

○恨殺 殺ハ俗ニ煞ニ作ル。笑殺、忙殺、惱殺ナド、用キラル。太(ハナハダ)シ、非常ダトノ意。音サツ、或ハ「サイ」ト讀ム。

○殘紅飛向此 或ハ京都ノ方ヲ想望セラル、ノ意アルカ。

○賴杏坪 名ハ惟柔、安藝ノ人、山陽ノ叔父。天保五年、七十九歳ヲ以テ歿ス。

○颯 普通切、蕭。

○陵 力膺切、蒸。亦平起ナリ。

○吼天颯 颯音ヘウ、又颯ニ作り颯ニ作ル。狂風ナリ、暴風ナリ。

○輟 止ムナリ。

○帚 止唇ノ切、音シウ。俗音サウ。ハウキ、帚ト通用。

○藤井竹外 攝津ノ人。名ハ啓。家世々高槻藩ノ名族タリ。竹外特ニ七絶ノ詩ヲ以テ著ハル。竹外詩鈔・竹外二十八字詩等ノ著アリ。慶應二年、六十歳ヲ以テ歿ス。

○寥 落蕭切、蕭。右竹外ノ作ト同韻、俱ニ下平二蕭ニ屬ス。

○禽 渠今切、侵。

○河野鐵兜 名ハ羅、字ハ夢吉、鐵兜ハ其號、又秀野ト號ス。播州網干村ノ人。梁川星巖ニ就キテ詩ヲ學ビ遂ニ名家トナル。詩鈔アリ。

第六課 京都名勝

○名勝 名ハ有名、高名、卷一第三十三課ニ「名區」トアリ。勝ハ優勝、勝秀。勝境名山ノ語アリ。

○又 京都ガ既ニ本名ナルニ、更ニマタ重ネテ西京ノ名アリ。故ニ「又」ノ字ヲ用ユ。スベテ、有ルモノ、上ニ、カサネテ有ルニ「又」ヲ用ユ。

○以 ソレデ、西京ト稱スルコトデ。

○清冽 冽ハ清澄。音レツ。但シ冽風トイヘバ、ツメタキ風トナル。

○明媚 鮮明ニシテ艶麗。風光明媚トモイフ。

○爲全國之冠焉 コノ焉ノ字ハ上ノ「全國之」(全國ニテ)ヲ受ケ、(全國ニテソコデ)、上來ノ文勢ヲ收束シテ一段落ヲ作レルナリ。然ルニ此文ニテハ寧ロ

「焉」ト「焉」ノ字ヲ刪リ、「山水」ヲ「風光」ト改ムル方佳ナルガ如シ。要スルニ依田氏ノ文ハ暢達ヲ主トシテ助字ノ用法ナドニハ稍ヤ精細切當ヲ缺グノ憾ナキ能ハズ。學者其心シテ看ルベシ。

○奠都 奠音テン、定ナリ、安置ナリ。

○車駕 卷一第四十課ニ「駕」トアルニ同ジ。天子ノ御車。風輦、鸞輿トモイフ。

○距 隔離ナリ。

○兵燹 兵火ナリ。燹ハモト野火ナリ。

○佛刹 刹ハ初八ノ切、音サツ。慣用音セツ、刹那ナドイフ。刹ハモト旛ヲタテタル柱ヲ指ス字ナレド、後世寺院・佛塔ヲモ刹トイフ。蓋シ沙門(僧侶)ガ既ニ一法ヲ得レバ、旛ヲ建テ、遠方ニ告知セルヨリ、旛柱ノ義ハ一轉シテ僧寺ノ稱トナリシナラントイフ。

○古雅 高古、高雅。雅ハミヤビヤカ、高尚優美。

○舊典 古代ノ典例、典型、模型、ヒナガタ、カツカウ。

○往迹 迹ハ實地ニヤツテキテ、殘シテアルアトカタ。往時ノ形迹、遺迹、痕迹。

○舊址 基址、基礎、ドダイ。主トシテ故址、遺址ナド、ムカシノアトカタニ用キラレ、趾ト通用シ又分用ス。第四十九課「城址」「山趾」参照。

○泉石 山石流水、山水ノ景色。此處デハ主トシテ庭園ノ假山水ニ就イテイフ。

○爲最焉 コノ「焉」ノ字モ無クテヨロシ。有ル以上ハ上ノ「遊賞之地」ヲ受ケテ之ヲ收ムルモノト心得ベシ。「ソノ地ノ中デ」ノ意。

○不……矣 「不」ハ「ジ」ト讀ムヲ可トス。

○勝數 舉ゲテカゾフトモ讀ム。孟子梁惠上ニ見ユ。

第七課 織田信長營皇居

○季 末ナリ。末ノ世ヲ季世、澆季トイフ。季ニ似タル季字ニアリ。季ハ音デン、ネン。年ニ同ジク、トシ、ミノリト訓ズ。

○宮闕 天子ノ宮居。闕ハ宮城ノ御門、禁門。兩側高く、中央低ク缺ゲタルニヨリ闕トイフ。

○搏 音タン。手デマルメル。禮記ノ曲禮ニ搏飯トイフコトアリ。搏ノ字ト似テ異ナリ。莊子ノ逍遙遊ニ、搏扶搖而上者九萬里トアリ。其處デハ專ト同義。世俗通行本ニ搏ニ作ルハ非ナリ。

○闕 音ケキ、慣用音ゲキ。周易ノ豐卦上六ノ爻辭ニ闕其戶、闕其无、人トアリ。此字門ニ从ヒ、見ニ从フ。見ハ目ニ從ヒ、犬ニ從フ。犬驚イテ顧視スルナリ(説文)。論語ノ鄉黨篇ノ末ニ、三臭(ケツ)而作トアリ。後世訛シテ臭ニ作り、更ニ誤リテ嗅ニ作ル。門内犬驚キテ顧視ス。其靜寂知ルベキナリ。

○窮阨 阨ハ道路塞ガリテ通ゼザルナリ。孟子公孫丑上ニ、柳下惠ノ阨窮而不憫チイヘリ。

○盛 此字「サカン」ト讀ムトキハ去聲(二十四敬韻)、高ク積ミアグ、モリアゲルト讀ムトキハ平聲(八庚韻)トナル。モリモノトイフトキモ同ジ。榮盛ノ如シ。

○養團 養音シ、モチ、稻餅、米ヲ蒸シテツイテ作ル。團トイヘバ、マルメテ團子トシタルナリ。

○三寶盤 正シクハ三方盤トスベシ。大槻氏ノ言海ニ曰ク、三方ナルモノハ、食物ヲ載スル器、神供、貴人ノ膳部或ハ儀式ノ用トス。檜ノ白木ニテ作レル方形ノ折敷(ヲシキ)ニ、臺ヲ重ネタルモノニシテ、コレヲ衝重(ツイガサネ)トイフ。臺ノ傍ニ孔ヲ穿ツ。コレヲ、クリカタトイフ。其三面ニ孔アルモノ即チ三方ナリ。孔ノ四面ニアルヲ四方(シハウ)トイフ。又孔ナキテ供饗(クギヤウ)トイフ。佛經ニ、佛ト法ト僧ノ三者ヲ併セテ三寶トイヒ、音ノ似タルニヨリ、其字ヲ借り用キタルナリ。

○煤蝕 ス、ガクヒコム。蝕ハ、ムシバム、侵ス。侵蝕。

○深墨 孟子滕文公上ニ黻、粥、面深墨トアリ。趙岐ノ註ニ、深墨、甚黑色也トアリ。深ト甚ハ音近クシテ相通ズ。

○禪衣 禪音タン。ヒトヘモノ、單衣、涼衣、袂。

○煥然 光リ耀ク貌。論語泰伯篇ニ、煥乎其有文章ト見ユ。

○始有 「始」ノ字「初」トノ相違、第十七課「始」字條參照。

○大槻盤溪

卷一第五十五課ニ見ユ。名ハ清崇、字ハ士廣、仙臺藩ノ人。今ノ如電、文彦(兄弟)ニ氏ノ父、洋學家盤水(玄澤ト稱ス)ノ次子、盤里(玄幹ト稱ス)ノ弟ナリ。昌平變ニ學ビ藩學ノ儒員トナル。明治十一年、七十八歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、孟子約解、古經文視、近古史談、寧靜閣詩文集等アリ。

○藤孝 細川氏、忠興ノ父。

○甲子 エト、干支。卷一第十七課參照。甲午、キノエウマノ歳。

○同庚 同甲トモイフ。同年、同齡ナリ。同ジエトノ意。

○日本智囊

卷一ニ見ユ、中村栗園ノ著。栗園名ハ和、豊前中津ノ人。近江水口侯ニ仕ヘテ儒員トナル。明治維新ノ際、頗ル王事ニ勤ム。著ハス所智囊ノ外、詩文稿アリ。明治十四年、七十六歳ヲ以テ歿ス。卷五第十七課、送島田見山序參照。

○傳 音フ。輔佐ナリ、附着ナリ。

第八課 稻葉一徹誦詩

○稻葉一徹

初ノ名ハ貞通、又長通トイフ。後一徹ト號ス。美濃ノ人。土岐氏ニ屬シ、父還俗シ、曾根城ニ居リ、齋藤氏ニ屬ス。永祿中信長ニ歸シ、屢、戰功アリ。天正三年髮ヲ剃リ入道シテ一鐵仙齋ト號ス。後豊臣秀吉ニ屬シ、三位法印ニ叙セラル。十三年、七十三歳ヲ以テ歿ス。卷一第四十二課蒲生氏郷ノ條參照。

○釋然 ウチトケル貌。莊子ノ齊物論篇ニ、南面而不ニ釋然トアリ。

○茗宴 茶會。茗ハ第五十一課參照。

○延 延引ナリ。

○伴接 正客ノオ供、相伴(シヤウバン)、陪從ナリ。接待ノ意トモナル。

○從容 シヨウヨウ。ウチクツロギ、オチツキテサワガヌ貌。中庸ニ、從容中道、聖人也トアリ。第五十四課ニモ出ヅ。

○挂 掛ナリ。

○雲橫

此詩原ト題シテ左遷至藍關、示ニ姪孫湘トアリ。按ズルニ唐ノ元和十四年、韓退之、邢部侍郎タリ。上表シテ天子ノ佛骨ヲ迎フルヲ極諫ス。帝大ニ怒リ將ニ死ニ抵ラン

トス。宰相ノ崔羣、裴度、力救シ、死ヲ免ジテ潮州ノ刺史ニ貶セラル。此ノ詩其途上ノ作ナリ。西陽雜俎、青瑣高議ナドノ書ニ傳フル所ニヨレバ、雲横ノ二句ハ實ハ其姪(オヒ、甥)ノ湘ナルモノ、作ナリトイフ。是ヨリ先キ、湘、江淮ヨリ來リシニ、年少狂率ナリシカバ、退之之ヲ責メケルニ、謝シテ某ニ一藝アリトテ、堦前ノ牡丹ヲ要求ノマ、ノ色ニ花サカシタリ。而シテ其ノ葉ノ間ニ小サキ金字ノ一聯句アリ。即チ雲横云々ノ二句ナリ。退之此時未ダ此句ノ意ヲ曉ラズ。後潮州ニ貶セラル、途ニテ、アル人雪ヲ冒シテ來ル。誰カト視レバ即チ湘ナリ。湘曰ク、サキノ花上ノ句ヲ憶ハレンカト。退之此ノ地名ヲ詢ヘバ即チ藍關ナリ。嗟嘆シテ筆ヲ援リ續ケテ全篇ヲ成ス。乃チ左ノ七律一首ナリト。

一封朝奏九重天。夕貶潮州路八千。欲爲聖明除弊事。豈將衰朽計殘年。雲橫秦嶺家何在。雪擁藍關馬不前。知汝遠來應有意。好收吾骨瘴江邊。(好ハ宜又ハ可ト訓ズ)。

○典 典故、典據、出典、來歴、故事、故實。

○今乃 「乃」ハ上文ノ「乃設」ノ「乃」ト同様今迄ノ通りナラズ、一轉スル意アリ。此處デハ「カヘツテ」トイフニ近シ。

○猜疑 邪推シウタガフ。

○頓首 周禮ノ大祝ニ、稽首、頓首等ノ九拜アリ。首地ニ至ルヲ稽首、頭地ヲ叩クヲ頓首トイフ。故ニ頓首ハ又叩頭トイフ。

○匕首 短劍、アヒグチ。其頭、匙ニ似タルガ故ニ此名アリ。史記ノ荆軻傳ニ見ユ。

○於懷 「於」ハ「ヨリ」ナリ、由ナリ、從ナリ。從懷取ニ匕首ナリ。

○孔子家語 此二句、相魯篇ニ見ユ。孔子ノ定公ニ告ゲシモノ。此書モト孔氏ヨリ出ヅルモ舊本傳ハラズ。今存スルモノハ王肅ノ注本ニテ、本文ニモ増損アリ。然ルニ孔子ノ言行ヲ詳記セル、此書ニ若クハ無シ。

○佯 音ヤウ。詐ナレド、多クハウハベニ、マコトノモノデアル如ク裝フコトニ用ユ。陽裝ナリ。佯狂、佯愚ナドイフ。

第九課 伊藤仁齋化賊

○伊藤仁齋

名ハ維楨、字ハ源佐、仁齋ハ其號、又古義堂ト號ス。平安ノ人。寛永四年堀河ニ生ル。中江藤樹ヨリ少キコト十九歳、山崎闇齋ヨリ少キコト九歳、熊澤蕃山ヨリ少キコト八歳、山鹿素行ヨリ少キコト五歳、木下順庵ヨリ少キコト四歳、貝原益軒ヨリ長ズルコト四歳、物徂徠ヨリ長ズルコト三十九歳。古學派ノ中堅ナリ。其學說、宋元以來ノ

偏理觀ヲ一變シテ其纏絆ヲ擺脫セシム。孟子ノ四端論、良知良能論等ノ如キハ識見ノ卓拔ナル程朱陸王等ノ窠臼弊實ヲ打破スルニ足ル。最モヨク活潑潑タル日本國民性ノ代表的發露ヲ見ルナリ。寶永二年三月十二日、七十九歳ヲ以テ歿シ、洛西小倉山ニ尊院ニ葬ル。五子アリ、長ハ長胤字ハ元藏、東涯ト號ス。次ハ長英字ハ重藏、福山藩ニ仕フ。次ハ長衡字ハ正藏、高槻藩ニ仕フ。次ハ長準字ハ平藏、久留米藩ニ仕フ。次ハ長堅字ハ才藏、蘭嶋ト號ス。紀州藩ニ仕フ。世ニ此ヲ伊藤ノ五藏ト稱ス。仁齋ノ著述中必讀スベキハ、語孟字義、童子問、孟子古義ノ三書ナリ。清ノ戴東原、清朝考證訓話ノ學ノ結果ニヨリ孟子字義疏證ヲ著ハシ、宋元以來ノ研究法ヲ一變ス、頗ル仁齋ニ似タル所アリ。宜シク對照シテ觀ルベシ。然ルニ仁齋ノ長ズル所ハ、大本ノ識見ニアリテ、其ノ訓話ノ如キハ殆ンド觀ルニ足ラザルナリ。

○劫賊

劫音ケフ、コフ。又刼ニ作ル。オビヤカス。脅迫スルナリ。劫掠、劫略、劫奪ト用キ、劫盜トモイフ。

○酒資

資ハ「シロ」、資料。

○腰纏

腰卷、金ヲ入レテ下腹部ニマキツケル袋。

○適

チヨウド。此處デハ生僧(折アシク)ノ意。第二課ノ會ノ字ト參照セヨ。「會」ハ兩方ヨリ出アフ。「適」ハ此方ガ、向フノモノヘ、ユキアフナリ。

○敝緼袍

破レタルドテラ、ヌノコノ綿入。論語子罕篇ニ子路ガ之ヲ着シコト見ユ。敝又弊ニ作り、緼又緼ニ作ル。

○遺

贈遺ナリ。

○常以何

此文ハ日常何爲業カ、常有何業トカスレバヨシ。以何ノ「以」ノ字、「邪」ノ字、俱ニ下シ得テ冗慢ニ失ス。下ノ是其業ノ三字モ不必要ナリ。「邪」ハ「耶」ト通用。

○輒

音テフ。ハヤスグ、スグモウ、トリアヘズ、モウハヤ。「則」ヤ「乃」ナドノ如キ上下ノ語意ノ關係ナシ。「即」ノ字ト近キ所アリ。卷一第二十八課義經ノ條參照。

○儕

音サイ、セイ。トモガラ、同輩ナリ、等類ナリ。左傳成公二年ニ、文王猶用衆、況吾儕乎トアリ。儕輩、儕類ナド、用キラル。又タ齊ト同ジク、ヒトシク、トモニ、ノ義トモナル。

○草竊

コススビト、草賊トモイフ。尙書ノ微子篇ニ見ユ。草ハ草間ノ義ニテ、クサブカキ山野ニ出沒スルタイプ。

○舉止

舉措、行止ニ同ジ。アゲオコナフト、ヤメオクト。舉動トイフモ同意ニ用キラル。

○客

客子トモイフ。旅客、行客ニテ、ミチユク人タイプ。賓客ノ客トハ異ナリ。

○抑

抑制ノ語ナリ。上來ノ語意ヲ、一寸抑ヘテ、ソレハサテオキ、ソレデハサテモト、更ニ次ノ語意ヲ起スニ用ユ。通俗ニハ、徒ニ「ソモノ」ト讀ミ習ヒテ、「抑」トイフ字

義ニ無頓着ナルハ、ウハスベリヲ免レズトイフベシ。恰モ「夫」ノ字ハ多クハ「彼」ト同ジク、「カノ」、「アノ」ト指示スル語ナルニ、俗ニハ徒ニ「ソレ」ト無意義ニ讀ミ習ハシ、文章ノ死活ニ顧慮セザルガ如シ。

○**儒** 鄭康成(玄)ノ三禮目錄ニ曰ク、儒之言優也、柔也、能安人、能服人ト、又曰ク儒者、濡也、以先王之道能濡其身ト。周禮ノ天官冢宰ニ儒、以道得民トアリ。鄭康成ノ註ニ、儒ハ諸侯ノ保氏ナリトアリ。周禮ノ地官司徒ニ、保氏ハ王ノ惡ヲ諫メ、國子ヲ養フニ道ヲ以テシ、之ニ六藝(禮、樂、射、御、書、數)ヲ教ユトアリ。

○**不可一日無者** 此句ハ

- (一)不可一日無者
- (二)一日不可無者
- (三)一日無者不可
- (四)不可無者一日

ナドノ形式ニ變化シテ、意義上別段違ヒモナキモ、「不可」トイフ否定ノ詞ヲ、頭ヨリ眞向ニカブセテ、重ク其ノ「不可」ノ意ヲ表ハスナリ。方正學ノ有名ナル文句ニ、國家可使數百年無才智之士、不可一日無氣節之臣トアルガ如キ以テ見ルベシ。

○**禽獸焉耳**

孟子ノ滕文公篇ニ、人之有道也(王引之曰ク、「有」ハ「爲」ノ一聲ノ轉、人ノ道タル此ノ如キヲ言フナリト)飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸トアリ。此ノ「焉耳」ハ猶ホ「是已」(コレノミ)トイフガゴトシ。「焉」ヲ「是」ト讀ムコト王引之ノ經傳釋詞ニ詳ナリ。又此「焉」ヲ「然」ト同ジク視得ザルニアラザルモ、「是」ト讀ムノ切當ナルニ如カズ。

○**頓首** 第八課ニ見エタリ。

○**鈞** 古ハ均ニ通用ス。ヒトシク。分ケテイヘバ、「鈞」ハ重量三十斤ノ稱。「均」ハ均一、均平、均等ナリ。

○**迴** 音ケイ。遙ナリ、遠ナリ。

○**宥** 宥怒、宥免。

○**今而後** 自今而後、自今以後トモイフ。

○**奉教** 承教ナリ。奉ノ字ヲ俗ニタテマツル(上、捧)トノミ訓ジテ、ウクル(承)、ツカヘル(事)ノ讀ミヲセザルハ偏セリ。此字ニハ兩意ノ用アリ。

○**遂** 目的通り遂行スルトイフ字義ニテ、兎ヤセン角ヤセント、右左ニタメラフコトアリトモ、トウドウイツノ意向ヲ定メテ、段々其方ヘ爲シトゲテユク意ニ用ユ。始終ノ「終」ヤ、究竟ノ「竟」ヤ、卒業ノ「卒」ヤ、ナドト比較シテ其相違ヲサトルベシ。第十五課卒字参照。

○原念齋 名ハ善、字ハ公道、雙桂ノ孫ナリ。山本北山ニ學ビ、徳川幕府ニ仕フ。著ハス所ノ先哲叢談一書、嘗テ旨ヲ奉ジテ幕府ニ獻ジ、銀錠ヲ賜ハル。文化三年、四十七歳ヲ以テ歿ス。

○先哲叢談・念齋ノ著ニ續ギテ、諸家ノ著左ノ如シ。

- (一) 先哲叢談 八卷 原念齋撰
藤原惺窩、林羅山等ヨリ、武梅龍、原雙桂ニ至ル、共ニ七十二人、五百五十條。
- (二) 先哲叢談後編 八卷 東條琴臺(名耕)撰
此後編ニ對シ念齋ノ著ヲ前編ト稱ス。後編收ムル所、谷時中、三宅寄齋等ヨリ、那波魯堂、紀平洲ニ至ル、共ニ七十二人。六百七十九條。
- (三) 先哲叢談續編 十二卷 東條琴臺撰
吉田了以、吉田素庵等ヨリ、西山拙齋、源琴臺ニ至ル、共ニ七十二人、八百七十二條。
- (四) 先哲叢談年表 一卷 東條琴臺撰
- (五) 近世先哲叢談 二卷 松村春風(名操)撰
中井竹山、古賀精里等ヨリ鹽谷宕陰、安井息軒ニ至ル、共ニ二十二入。
- (六) 續近世先哲叢談 二卷 同右

皆川洪園、西依成齋等ヨリ、藤森弘庵、大槻盤溪ニ至ル。共ニ二十二入。

第十課 好學一事

○少時 「少」ニ二聲アリ。多少ノ少(スクナシ)ノ時ハ書沼ノ切、上聲、篠韻。「シヨウ」ト發音。老少ノ少(ワカシ)ノ時ハ、式照ノ切、去聲、嘯韻。「シヨウ」ト發音。又「セウ」ト書ク。

○好學 「好」ニモ二聲アリ。良好(ヨシ)ノ時ハ上聲、皓韻、コウウ(又ハカーウ)ト發音ス。欲好(コノム)ノ時ハ去聲、號韻、コウ(又ハカウ)ト發音ス。此等ノ區別ハ必ズシモ生徒ニ教ヘ込ミテ記憶セシメザルモ、教師タルモノハ是非トモ辨識シ居ラザルベカラズ。

○忘寢食 論語述而篇ニ、發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至トアリ。

○唯學之耽 此ノ「之」ハ、「コレニ」ト讀ムガ正當ナリ。或ハ單ニ「ニ」ト讀ムモ妨ゲズ。「コレ」ト讀ムハ俗讀ノ習慣ニヨルノミ。上ニ「唯」トカ、「獨」ナドノ字來ラバ多ク此ノ用法アリ。但シ「コレヲ」又ハ「ヲ」ト讀ムベキ場合アルコトアリ。又「之」ハ「是」ノ字ヲ用ユルモ同ジ。孟子ノ告子篇ニ、惟弈秋之爲聽、盡心篇ニ、知者無不知也、當務之爲急トアリ。韓退之、方正學好シテ此文法ヲ用ユ。退之ノ原道ニ惟怪之欲聞。答李翊一書ニ、惟陳言之務去、憂憂乎其難哉。上于襄陽書ニ、愈今者芻米僕賃之資是急トアリ。左傳ニ

君人者將禍是務去、而速之、無乃不可乎トアリ（隱公三年）。論語直解ニ、樊遲不_レ此之務、而願請_レ爲_レ圃トアリ。「是」ノ字ヲ用キタル場合ハ何人モ「コレ」トバカリニハ讀メド、「之」ノ字ヲ用キタルガ爲メ、ウカト、「ノ」ト讀ンデ、其誤ヲ覺ラザルモノ往々ニシテアリ。氣ヲツクベキナリ。又通例ヨク出ル、此之謂也、是之謂也ノ「之」モ、多クハ「ノ」ト讀ミ習ハセド、上述ノ意味アリ。考ヘ合ハスベシ。第三十課「百憂之終」參照。

○耽 耽溺、耽湎、耽嗜ナド、過度ニ樂シミスサブタイフ。但シ耽耽トイヘバ、大廈耽耽、玄陰耽耽ナドト用キ、奥深キ意ニテ、虎視耽耽ノタンクトハ異ナレリ、混同スル勿レ。

○望瞰 望ハ遠望、遙望。瞰ハ下瞰、俯瞰ナリ。

○里巷 邑里街巷、民間トイフ義。

○歌謠 ウタ。分ケテ言ハバ、樂器ニ合セテウタフヲ歌トイヒ、スウタヒヲ謠トイフ。

○戲場 芝居、遊技ノ場所。

○舉 悉皆ナリ、残り無キナリ。

○以爲 或ハ「以」ノ一字ヲ用キ、或ハ「爲」ノ一字ヲ用キ、又、「謂」ノ字ヲ用キルコトアリ。「謂」ハ心中ニスルコト。「爲」ハソウスルナリ。「以」ハ理由ヲツケルナリ

○讓焉 「讓」ハモト責讓ノ讓ニテ、セムルトイフ字。ユヅルハ「讓」ナリ。後世兩者通用ス。此ノ「焉」ハ「ソレニ」ニテ、聖人ヲ指ス。

○此學 「此」ハ「斯」ト同ジク、斯文トイフガ如シ。吾人ノ當ニ修學スベキ其様ナ學問、聖人ノ道ヲ學ブ事。

○負擔 背ニ肩ニ。

○斃而後已 禮記ノ表記篇ニ、俛焉日有_レ孳孳、斃而后已トアリ。論語ニハ、曾子ノ語トシテ、死後後已、不_レ亦遠_レ乎トアリ。諸葛亮ノ後出師表ニモ、鞠躬盡瘁、死而後已トアリ。

○佐藤一齋 名ハ坦、字ハ大道、通稱ハ捨藏、一齋ハ其號、マタ愛日樓主人ト稱ス。岩村侯ノ家老ノ家ニ生レ、後幕府ニ仕ヘ、林述齋ニ繼ギ、七十歳ヲ以テ昌平賢儒員トナル。安政六年、八十八歳ヲ以テ歿シ、麻布深廣寺ニ葬ル。著ハス所、四書、傳習錄、近思錄、周易等ノ欄外書、言志錄、詩文集等アリ。

○言志錄 一齋精力絶倫、氣象老イテ益_レ壯。文政六年、五十二歳ニテ言志錄ヲ作りテヨリ、次デ言志後錄ヲ成シ、嘉永二年、七十八歳ニ至リ言志晚錄ヲ成シ、嘉永四年八十歳以後ニ記スルモノヲ言志臺錄ト爲ス。併セテ言志四錄トイフ。

○吾方 「吾」ハ、自分、單獨ニ自己ヲ指ス。「我」ノ對他的ト異ナリ。「方」ハ、恰モノノ時、サイチユウ。

○體魄 魄ハ陽氣ノ魂ニ對シテ陰氣、又魂ノ精神の神靈的ナルニ對シテ肉體的物質的ノモノ。魂ハ天ニ上リ、魄ハ地ニ歸ストイフ。

○愴 悲愴、傷愴ナリ。

第十一課 望琵琶湖

○早發 早朝出發。早ハ古文ニ^子ニ作ル。陽氣ノ萌ヘデル上ニ日ガ出テ來テ、夜アケトナルニ象ル。

○適 第九課ニ見ユ。

○驚濤 猶ホ翻濤、狂濤、奔濤ナドイフガ如シ。

○洶洶 洶ハ洶涌(湧ニ同ジ)(キョウウヨウ)、水ガワキアガルコト。

○抵 第二課ニ見ユ。

○恠 怪ノ俗字。

○磴 音トウ。石階(イシダン)ナリ。石磴トモイフ。石磴ノツケル道路ヲ磴道トイフ。第二十八課ニ、曲磴ト見ユ。

○影像 影ハスガタ、形容、オモカゲニテ、影像ハ此ヲ畫ニ寫シアラハセルモノ。

○臨 瞰臨、見オロスナリ。瞰ト區別スレバ、瞰ハ專ラ目ノミニテイフモ、臨ハスベテ上ヨリ見オロス風ニ、其ノ場所ニノゾミ出ル事ニツイテ用ユ。臨幸、臨席ナドノ如シ。又引申シテ、其時ニナリカ、ル意ニモ用ユ。臨時、臨戰、臨別ナドノ如シ。

○尤 尤ハ説文ニ異也、从乙、又聲トアリ、左傳昭公八年ニハ、夫有尤物ト見エ、杜註ニ、尤ハ異也トアリ。莊子ノ徐無鬼篇ニハ、夫子ハ物之尤也トアリ。小爾雅ニハ、尤ハ怪ナリトアリ。要スルニ目ニタツテヒドクスグレタ、非常ナサマニツキテ用ユ。「尤」ニ似タル「最」モ、同ジク「モットモ」ト讀メド、「最」ハ多クノ中デ一等、最優等ノ意ニテ、古ヨリ「イト」ト訓ジ來レルハ當レリ。東涯ノ操觚字訣ニ曰ク、白集(白氏文集)ノ古キ點ニ、最字ニ、「イト」トカナ付ケアリ。和歌ノ詞ニ、「イトモカシコシ」トイフハ、最長トイフコトナリト。今按ズルニ、白氏ノ冷泉亭記ニ、東南山水、餘杭郡爲最。就郡言、靈隱寺爲尤。由寺觀、冷泉亭爲甲トアリ。マタ史記ノ枚乘傳ニ、梁客皆善屬辭賦、乘尤高。嚴助傳ニ、其尤親幸者、東方朔、枚臯云々。匡衡傳ニ、尤精力過絶人トアリ。大典ノ文語解ニ曰ク、最ハ物ニカ、リ、尤ハ事ニカ、ル。史記ノ律書ニ、六律爲萬事根本焉。其於兵械尤所重トアリ。此レ尤ノ字ナレバ所重ニカ、ル。モシ最ノ字ナラバ六律ニカ、ルナリ。又悼惠王世家ニ、大臣誅呂氏、朱虛侯功尤大トアリ。尤ノ字、大ノ字ニカ、ル。モシ最ノ字ナラバ、功ノ字ニカ、ルナリト。

○反 返ト同用、往返ノ返、ヒキカヘス。

- 訪 訪求、尋訪、探訪、顧訪ナドノ訪ナリ。人ヲタヅヌルトキハ、訪問、存問トイフ。
- 致死 致ハ、我が身ニ招致スルナリ。論語ノ士見危致命(子張)ノ致ハ君ニ送致スルナリ、捧ゲ致スナリ。孟子ノ效死而民弗去(梁惠下)ノ效モ猶ホ致ノゴトキナリ。大學ノ致知ノ致モ同ジ。通俗ノ解釋ニ、「致」ノ字ヲ、單ニ窮メ盡スナド説キ、招致又ハ送致ノ意ヲ失ヘルハ非ナリ。
- 負 孤負ナリ、背反ナリ。
- 所事 奉事スル所ナリ。
- 志 志ハ心ノユク(之)所トイフ、意志ナリ、意向ナリ、志向ナリ、志操ナリ、此處デハ、内部眞實ノ心バセテ指ス。
- 哀 哀憫ナリ、哀憐ナリ。
- 躡 フミツケル。登躡ノ語アリ。
- 級 階級、階段。
- 閑 寛ナリ、大ナリ、虚廓ナリ。
- 勝 第六課ニ見ユ。
- 一覽 一目デ。

- 在掌 如レ指掌トモイフ。明瞭、見易キ意。
- 齋藤拙堂 第五課ニ見ユ。
- 室鳩巢 名ハ直清、字ハ師禮、江戸ノ人。木下順庵ニ學ビ、元祿中加賀侯ニ仕フ。義人録ヲ著ハス。始メテ赤穂遺臣ヲ斷ジテ以テ義士ト爲ス。正徳中、江戸ニ還リ、將軍家ノ學職タリ。駿河臺ニ居リ、駿臺雜話ヲ著ハス。享保十九年、七十七歳ヲ以テ歿ス。コレ近體七言律詩、第二十九課「丁巳東遊」、第四十課「筑前城下作」ナド、同類。
- 詩體 第五課ノ近體絶句ヤ第二十一課及第四十四課ナドニ出セル古體ト區別スベシ。
- 空 苦紅切、東。下ノ中、東、虹、同皆一東韻ニ屬ス。記識法ハ第五課「叢」ノ條参照。
- 琶 浦把切、麻。記識法ハ第五課「人」字條参照。「琶」既ニ平字タレバ、里、浪、尺、獨ノ仄字タル、山、村、知ノ平字タル知ルベキノミ。
- 虚無 白樂天ノ長恨歌ニ、忽聞海上有仙山。山在虚無縹緲間トアリ。虚無ノ字面ハ、史記ノ自序ニ、道家無爲、其術以虚無爲、本ト見ユ。此處デハ、冥冥茫茫デ、遠クヒロクシテ、何モ見ワケラレヌ狀、雲海冥茫トイフコトアリ。
- 目擊中 一寸一目デ盡ス。擊ハ觸ナリ。莊子ノ田子方篇ニ、目擊而道存トアリ。後世ニハ、實地ニ其物ヲ見ルコトヲ目擊トイフ、誤リニハアラザルモ義狭シ。
- 疊浪 疊ハ重疊ナリ。疊疊、疊韻ノ如シ。又疊ニ作ル。

○涵 渾涵ナリ。

○迭 更迭ナリ。タガヒニ、カハリアツテ。

○迷圖畫

迷ハ迷離、低迷ナドイヒテ、チラ／＼スル狀ニテ、此處ハ遙望セル孤村遠樹ノ微カナル影ガ、圖畫ノ様ニ、チラリ／＼ト見ユルヲイフ。畫ハ俗ニ畫ニ作ル。音ハ胡卦ノ切ニテ、「クワイ」ナレド、「グワ」ト慣讀ス。又「エ」トイフハ、「クワイ」ノ訛音ナリ。此二句一聯ハ實ハ孤村遠樹畫圖迷、百尺長橋彩虹飛、トスルガ本體ナレド、平仄及押韻ノ都合ニテ、迷、飛ヲ倒置シタルモノト知ルベシ。

○彩虹

虹ハ霓ト共ニ、皆「ニジ」ト讀マル、モ、分ケテ言ハバ、虹ハ雄ニシテ陽ニ屬シ、西方ニ現ハレ、晴ヲ主ドリ、形ノビ／＼シテ色鮮紅ナリ。霓ハ雌ニシテ陰ニ屬シ、西方ニ現ハレ、雨ヲツカサドリ、形屈曲シテ色白闇ナリ。孟子ニ、大旱ニ雲霓ヲ望ムガ若シトアルハ、此ノ雨ヲ主ル雌霓ガ、雲トトモニ出現セシコトヲ望ムナリ。通俗ノ註釋ニ、霓ヲ虹トセルハ非。

○遠樹長橋

遠樹ハ唐崎ノ松、長橋ハ勢多ノ長橋ヲ指セルナラン。

○芳洲

崔顥ノ詩ニ、芳艸萋萋鸚鵡洲トアリ。

○逸興

流俗ヲ超越セル、高雅ノ趣。王勃ノ滕王閣ノ序ニ、遙吟俯暢、逸興遄飛トアリ。
(遄ハ連ナリ、頻ナリ)。「興」ノ字ハ興起ノトキハ平聲ニテ蒸韻ニ在ルモ、興味、興

趣ノトキハ去聲ニテ徑韻ニ入ル。

○迭高下

此詩第三句ノ第六字目ニ仄字來ルベキニ、「高」ナル平字ヲ用キタルニヨリ、孤平トシテ拗體ヲ成サシメタルナリ。「浪」ハ波浪(流レル貌)、滄浪(川名)ナドノ時ハ平聲(陽韻)トナレド、波浪ノトキハ仄字タリ。故ニ此ノ一句ノ平仄ハ●○○●●トナル。此等ノ事ハ固ヨリ大家諸君ノ爲メニハ言フニ足ラザル所ナレド、念ノ爲メニ、聊カ附言シテ初學者ノ注意ヲ喚起スルコト此ノ如シ。世上或ハ押韻ノ法、平仄ノ並ベカタノ大略ヲモ心得ズシテ、鐵面皮ニモ堂堂ト詩ノ講釋ヲナシ、ソレニテ、十分自カラ趣味ヲアヂハヒ、マタ人ニモ傳ヘ得タリト思ヘル漢文學上ノ沒常識者モ、ボツ／＼ハ無キニアラズトカ聞ク。漢文教授ノ衰ヘタル故アリトイフベシ。願クバ今後ノ漢文教授界ヨリハ、此等低級劣等ノ教師ノ一掃シ盡サレンコトヲ。

第十二課 無手勝流

○塚原卜傳

名ハ高幹、下總國香取ノ鹿島祠官卜部覺賢ノ二子ナリ。出デ、常陸ノ人塚原土佐守(神道一心流ヲ傳フ)ノ嗣トナル。劍法ヲ下總ノ人、飯篠長威(天真正傳神道流ヲ傳フ)ニ學ビテ擊刺天下ニ名アリ。劍ヲ仗ツキテ諸州ヲ周遊ス。元龜三年、八十三歳ヲ以テ歿ス。

- 仗 音チャウ、杖ト通用、ツエツク。魏徵ノ述懐ノ詩ニ、仗策調天子トアリ。
- 獐猛 音ダウモウ。ワルゾヨキコト。獐ハ凶惡ナリ。
- 鬚髻 音シユゼン。總ベテ言ハバ、顔面ノ毛ヲ皆鬚トイヒ、分ケテ言ハバ口ノ上ニアルヲ髻、下ニアルヲ鬚トイフ。髻ハ俗ニ髻ニ作ル頰鬚ナリ。
- 睥睨 音ヘイゲイ。ネメツケル。
- 吾子 ワガ子トイフ義ニテ、ナレ親ミテ人ヲ呼ブ稱。オマヘ、ソナタトイフガゴトシ。
- 盍 音カフ。「何不」ノ切音、疑問ノ反語ナリ。卷一第五十六課ニ見ユ。
論語先進篇ニ、盍各言爾志トアリ。孟子梁惠王篇ニ、盍亦反其本トアリ。盍ノ何不ノ切音タル、猶ホ叵(音ハ)ノ不可ノ切音タルガトシ。叵ハ可ノ字ヲ倒ニシタルモノニテ、「可」ニ對スル否定ノ「不可」ヲ表ハス。後世、之ヲ「カタシ」ト訓ズルハ引申ノ義ノミ。
- 佩 帶ナリ。
- 作色 作ハ動カシ起ス。
- 無手勝流 徒手空拳ヲ以テ敵ニ勝ツ流義。
- 私心 私意、公平ナラヌ偏頗ノ心、利己心。
- 子 オマヘ、ソナタ。

- 徒手 空手(カラテ、スデ)、赤手。手ニ何物モモタヌコト。
- 格闘 ツカミアヒ、タ、キアフコト。格ハ格ト通用、手ニテ搏ツナリ。
- 付 ワタス。
- 棹 音タウ。サテ。
- 盪 音タウ。動ナリ。

第十三誅 日本刀 其一

- 練習 凡ソ練習ノ課ハ、生徒自身ノ通讀達讀ヲ主トシ、字句ノ講釋詮議ハ、ナルベク省略ニ從フベシ。但シ生徒ノ質問ニハ丁寧親切ニ應答スルヲ要ス。
- 可以 卷一第二十九課及二十六課參照。
- 不可不 卷一第二十五課參照。
- 蠹 又蠹ニ作ル。音ト。當故切。遇。木ノ心ヤ又衣服書物ヲ食フ蟲。木ニアルヲ「キクヒムシ」、衣書ニアルヲ「シミ」トイフ。「シミ」ニハ、衣魚、紙魚、銀魚ナドノ稱アリ。凡ベテ物事ヲ害スルヲ蠹害、蠹毒トイヒ、蠹賊、國之蠹ナドノ稱アリ。

○戮 力竹切、**屋**誅戮、殺戮ナドイヒテ、罪人ヲ刑シ殺スコト。又古ハ戮ニ通用シテ、力ヲ合ハスコトニ用ユ。戮力トイフガ如シ。第六十一課ニ見ユ。

○奏功 詳見第五十課。

○致德 徳ヲ十分ニ成就シ得ルナリ。

○蛟龍 蛟ハ「ミヅチ」、龍ノ類ニテ四足ヲ具ヘ、ヨク大水ヲ起ストイフ。吳ノ周瑜、荊州ノ劉備ヲ評シテ、恐蛟龍得ニ雲雨、終非ニ池中物也トイヘリ。(見ニ十八史略、東漢)。

○不……矣 卷一第十一課及三十一課參照。「不」ハ「ジ」ト讀ミ、「ズ」ト讀ム勿レ。無クテハナルマイ。無クテハイクマイ。

○儼然 オゴソカニケダカク、侵犯スベカラザル貌。論語ノ堯曰篇ニ、儼然人望而畏之トアリ。儼ハ嚴ト通用ス。禮記ノ曲禮篇ニ、儼若_レ思トアリ。又儼格ト嚴格トヲ通用シ、儼然ト嚴然トヲモ通用スルコトアリ。

○畏 畏懼、畏憚、畏敬、畏服ナドイヒテ、單純ナル恐怖ヨリハ、大分深ク大事大切ニ用心スル所アリ。

○有以 「以」ハ「所以」ノ「以」ニ當リ、「由」ナリ。「由縁」ナリ。故ニ「所以」ヲ「所由」ニ作ルコトアリ。孝經ノ、夫孝、教之所_ニ由生也ノ如シ。王引之曰ク、「由」「以」ハ一聲ノ轉ノミト。

○南摩羽峯 名ハ綱紀、字ハ士張、會津藩ノ人。若松ニ生レ、藩學日新館ニ入り、江戸ニ出デ昌平黌ニ學ブ。明治維新ノ際、奥羽諸藩連盟シテ西軍ニ抗スルヤ、羽峯

危ヲ冒シ、隣藩ノ間ニ往來ス。會津城陷ルニ及ンデ、高田ニ鋤セラル。年ヲ越エテ赦サレ、淀藩、京都府等ノ學職ヲ歴テ、東京大學教授トナル。明治二十一年高等師範學校ニ轉ジ、三十六年官ヲ辭シ、四十二年、八十七歳ヲ以テ歿ス。谷中ニ葬ル。公職ノ餘日、日本弘道會ノ副會長ノ職ニ當リ、又斯文學會ノ講師タリキ。著ハス所、内國史略、追遠錄、瓊碧樓遺稿等アリ。

第十四課 日本刀 其二

○精銳 精緻、銳利。

○天瓊矛 アマノヌボコ。卷一後篇國史略抄參照。

○細戈千足國 クハシホコチタルノクニ。

○大已貴命 オホアナムチノミコト。出雲ニ在リ。即チ大國主神ナリ。

○幣 ヌサ、シデ、ニギテ、ミテグラ。神ニサ、グル禮物ノ帛。此處デハ、矛ヲ幣帛トシテ捧グルナリ。

○八尋矛 古事記ニ。比比羅木ノ八尋矛ヲタマフトアリ。

○賞 行賞ノ等級。

○偃月刀 偃ハ横ニ伏スナリ。乙蹇切、**阮**。

○叢雲劍 卷一第五十三課參照。

○三種神器

八咫鏡(ヤタノカガミ)、八尺瓊曲玉(ヤサカニノマガタマ)、叢雲劍(ムラクモノツルギ)。天孫天津彦彦火瓊瓊杵尊ノ降臨ノ時、天照大神ヨリ賜ハリシモノ。日本書紀ニハ三種ノ寶物トアリ。

○崛起 堀ハ山ノ聳チ起ルコト。

○髯切 ヒゲキリ 膝丸ヒザマル 小鳥コガラス 拔丸ヌキマル

○鍛冶 鍛錬治鑄ナリ。此ヲ「カヂ」トヨムワケハ、言海ニ、カヂトハ、古言、金打(カナウチ)ノ約轉ナリトアルニテ知ルベシ。

○虎徹 越前ニ生レ、近江ニ居ル。寛文、延寶間ノ人。

○日本史 編者ノ支那ニ在リテ編譯セルモノ。馮國璋、北洋武備研究所ヨリ之ヲ印行セリ。

第十五課 中江藤樹

○藤樹

卷一第二十四課參照。夫ノ徳川幕府、程朱ノ學ヲ以テ官學トナセシヨリ後、民間ニ在リテ別ニ自家獨得ノ學說ヲ立テシモノ數人相接踵シテ出デシガ、藤樹ハ殆ンド其ノ先容ヲナスモノタリ。藤樹ノ寛永十七年(元和元年ヨリ一十六年目)、三十三歳ニシテ始メテ陽明學ヲ唱出セシ時、他日古學ノ唱首タリシ山鹿素行ハ年十九、伊藤仁齋ハ十四ノ年少ノミ。本邦儒學ノ極盛時期ハ固ヨリ元祿享保ノ間ヲ推サバ、ルヲ得ザルモ、元祿元年ヨリ遡リテ元和元年ニ至ル七十三年ノ間ハ、實ニ其醞釀準備ノ時期ヲナスモノニシテ、而モ大體ノ結構ハ略ボ已ニ其間ニ成リシガ如シ。即チ山崎闇齋ノ如キモ已ニ元祿ノ六年前(天和二年、年六十四歳)ニ歿シ、程朱ノ學說ハ最早遺憶ナク攝取シ盡サレテ殘ス所ナカリキ。而シテ素行ノ聖教要錄ヲ發表シ、程朱ヲ斥ケタルニヨリ赤穂ニ謫サレシハ、藤樹ノ陽明學ヲ唱出セシ後十三年目(即承應二年)ニ在リ。又其後十年ニシテ仁齋ノ語孟字義ノ草定アリ。元祿ノ前五年(天和三年)ニ完成シ、其ノ童子問ハ元祿ニ入りテ間モナク(六年)刊行セラレタリ。且ツ素行ハ元祿ノ前三年(貞享二年)ニ已ニ歿セリ。是ノ如キ情勢ニテ徳川時代ノ民間儒學ノ暗流ハ段々ト最高潮期ニ達シタリ。又以テ凡ソ時勢ナルモノノ、暗移默運ノ迹ト人爲努力トノ關係ヲ考ヘ合ハスノ資トスベキナリ。藤樹ノ重キヲナスハ、主トシテ其ノ學德兼備ノ點ニアリ。故ニ聖人トマデ稱ヘラレタリ。其學說

ノ如キハ一ニ王陽明ヲ奉ズルコト猶ホ闇齋ノ程朱ニ於ケルガ如キノミ。然ルニ闇齋ノ神道獨得ノ境ヲ立テシガ如ク、藤樹モ、孝論ニ於テ特種ノ別天地ヲ、先儒未到ノ地ニ開拓シタリ。即チ孝經ノ思想ニ基キテ推窮シ、孝ヲ以テ一切萬物成立ノ原理トシテ闡明シタリ。陽明モ及バザル所アリ。亦一獨立ノ學者タルニ愧ヂズトイフベシ。

藤樹名ハ原、字ハ惟命、藤樹ハ其號、マタ默軒願軒、天君等ノ別號アリ。與右衛門ト稱ス。近江高島郡小川村ノ人、祖父ノ吉長、伯耆侯加藤貞泰、(一ニ泰興ニ作ル)ニ仕フ。父ハ近江ニ在リテ農ニ隱レ、祖父ニ先ツテ歿ス。藤樹乃チ祖ニ從ツテ伯耆侯ニ往ク。後泰興封ヲ伊豫大洲ニ徙サル。藤樹モ亦祖父ト共ニ之ニ移ル、時二年甫メテ十一。事蹟ノ詳ハ、近世叢語、先哲叢談等ニ見ユ。慶安元年、歲四十一ヲ以テ歿ス。著述ハ藤樹全書ニ收メラル。翁問答ハ最モ有名ナリ。孝經啓蒙等、孝ニ關スル諸著ハ特ニ觀ルベキモノナリ。

○異稟

常人トチガツタ天性。稟ハ音ヒン。筆錦切、**寢**。受ナリ。天稟天性。音「リン」ノ時ハ、官ヨリ俸給トシテ賜ハル米ニテ、説文ニ、賜穀也トアリ。力錦ノ切。韻ハ「ヒン」ニ同ジク寢ニ屬ス。

○童卯

卯音クワン、古患切、**諫**。童兒ノ總角(アゲマキ)。象形字ナリ。幼稚ナルコトヲイフ。

○成人

論語ノ憲問篇ニ、子路問成人トアリ。凡ソ一個獨立ノ人格ヲ成セル者、一人前トナレルモノヲイフ。通俗ノ説ニ或ハ學德兼備、完全無缺ノ人ト解スルハ非ナリ。此

義、仁齋、徂徠ニ至リテ始メテ明ナリ。徂徠曰ク、古者二十而冠、曰成人、則成人猶言成器也ト。按ズルニ、禮記ノ曲禮篇ニ、二十曰弱、冠トアリ。マタ、男子二十、冠而字トアリ。冠義篇ニ、已冠而字之、成人之道也。成人而與爲禮也。成人之者、將責成人之禮也トアリ。併セ考フベシ。又二十歳以上ノモノヲ成年、成丁トモイフ。

○至焉乎

「焉」ハ、聖人ノ境地ヲ指ス。

○因

上ノ事ノ次第デ、ソウイフワケデ、ソウイフコトガ基調トナツタ上ニ、ソレガタメニ、同ジク「ヨリテ」ト讀メド、「依」ヤ「據」ヤ「仍」ヤ「由」ヤナドトハ、少シヅ、ノ違アリ。因襲、因循ノ語意ヲ味ヒテ知ルベシ。東涯ノイヘルガ如ク、「因」ハ前ノ事ノ下地アル上ニタヨルコトナリ。「仍」ハ甚ダ「因」ニ近キモ、「仍」ハ「マダナホ」ノ意アリテ、後ヨリ前ヲ顧ミ、「因」ハ前ニヨリテ後ニ及ボスノ差アリ。但シ、場合ニヨリテハ相通用スルコトアルベシ。第五十七課「因移」條參照。

○斥

シリゾケ遠ザクル。排斥。

○挑

掲ナリ。カ、グ、カキタテル。別ニ挑戰ナドニ用ユル、誘ヒ起スノ義アリ。音ハ同ジク、「テウ」トイヘド、聲韻ハ異ナリテ、挑燈ノ挑ハ、土彫切、**挑**。挑戰ノ挑ハ徒了切、**挑**。

○淬厲

淬勵ニ同ジ。ツトメハゲムコト。戊申詔書ニ淬礪ニ作ル。一卷一第三十九課參照。

「不」ハ「否」ト通ジ、單純ノ否定ナレド、「弗」ハ「拂」ト通ジ、拂戻ノ意アリ。故ニ韻會ニ、弗ハ不可ナリ、不然ナリトアリ。公羊傳ノ何注ニハ、弗ハ不ノ深キモノナリトアリ。

○因請 因ノ字、上文ニ見ユル如シ。

○致仕 致ハ、モチツケルノ意アリ。仕ヘタル職ヲ、上ヘマデ返ヘシトバケルナリ。

○歸養

論語ノ爲政篇ニ、今之孝者は謂ニ能養トアリ。孟子ニモ、不顧ニ父母之養トアリ。又孟子ニ、八家皆私ニ百畝、同養ニ公田トアリ。凡ソ其事ノ爲ニ勤メテ力ヲ盡スヲ養トモイフ。單ニ飲食ヲ以テ口腹ナドヲ養フノミチイフニハアラズ。然シ、父母ノ爲メニ勤勞ストモ、敬セズンバ、犬馬ノ人ノ爲メニ勤勞スルト何ヲ以テ別タンヤト孔子モイハレタレド、此處ハ藤樹ガ謙遜デ、家ニ歸ツテ父母ヲ省シテ養ダケデモ致シタシトイフ意ナリ。(論語ノ至ニ於犬馬ニ能皆有養ヲ、通俗ノ註解ニ、人ガ犬馬ヲ飼育スルトシテ、犬馬ト父母ヲ同視セルハ非ナリ。犬馬ノ如キモノデモ、人ノ爲メニ養ノ功ガアルトノ義ニテ、犬馬ノ勞ハ人ノ子ノ勞ト同視スルヲ可トス。)

○乃 ソノマ、デハ過サズ。一轉シテ。

○鬻

三音アリ。此處デハ音イク、餘六切、**屋**、ヒサグ、物ヲ賣リテ代價ヲ得ルナリ。別ニ、音シユク、之六切、**屋**、カユ、粥ト通用。マタ音キク、居六切、**屋**、養フナリ。

○家什

家中ノ日用道具。什物、什器トモイフ。什ハ十ト同ジク、日用道具ハ其數多キガ故ニ什トイフト、史記ノ註ニ見ユ。毛詩ノ雅頌ノ卷八十篇一卷トナレルニヨリ、此卷ヲ什ト稱シ、更ニ轉ジテ凡ソ詩又ハ詩篇ヲ什トイフニ至レリ。

○償債

償ハ集韻ニ辰羊切、音常、還ノ所値也トアリ。債ハ側賣切、齊ノ去聲。説文ニ、負也、今俗ニ負財ヲ債ト曰フトアリ。通ジテ責ニ作ル。通俗ニ多ク債務、債權、債人、債主、債鬼ナド、スベテ金錢財産ニ關シテイフモ、詩債、讀書債ナドトモイヒ、凡ソ濟マシ果スベキ責務ニ通ジテイヒ得。

○還

行キ先キヨリ、クルリト引キカヘシ來ルコトニテ、同ジ「カヘル」デモ、前ノ「歸」ノ、トクト自分ノ宅ヘカヘリツクヤ、「返」ノ、モドツテ再ビ本ノ通リニナルナドトハ異ナル所アリ。此ノ「カヘル」ノ三字ヤ、前ニ指摘セル、「スナハチ」ノ四字ノツカヒワケヤ、サスガニ賴山陽ヲモ凌グトイハレタル宿陰ノ文章ダケアリテ、短篇中ニアツテモ、其文字ノ使用法ノ變化自在ナルコト是ノ如シ。學者ノ宜シク玩味スベキトコロナリ。

○行誼

行ハ行爲、誼ハ義ト通用。高誼、交誼、情誼ナドイフ。行誼トハ、正シキ行(行ノ誼ヲ得タルモノ)ノ意ニ用キラル。漢書董仲舒傳ノ對策ノ中ニ、民秉ニ行誼、而死ニ財利。是以犯法而罪多トアリ。

○醇篤

醇厚ナリ。醇ハモト酒ノ味ノ濃厚ニテ、マジリケナキコト、或ハ「純」及「淳」ト混用スルコトアリ。篤ノ字ハ説文ニ、「馬行頓遲也。從馬竹聲トアリ。冬毒ノ切。

「竹」ハ恐クバ籀(居六ノ切、音菊、キク、窮ナリ詰籀ト用キラル)。ノ省聲ニテ、窮屈ニ曲ガ
 リカ、ム意アリ。故ニ其轉義ハ、爾雅ニ、篤ハ困ナリトアリ。又固ナリ、厚ナリトアリ。禮記
 ノ儒行篇ニ、篤行而不倦ト見ユ。スベテ手アツクシテ、輕薄ナラザルニツキテイフ。又篤ノ字
 ハ竺ノ字ト通用スルコトアリ。説文ニ、竺ハ厚也、从二竹聲トアリ。此竺ノ字ハ、恐クバモト管ノ
 字ニテ、説文ニ、管ハ厚也、从音、竹聲、讀若篤トアリ。音ハ説文ニ、獻也、从三高省、日象ニ
 孰(古熟字)物形トアリ。許兩ノ切、音カウ。烹タル供物ヲ高ク積ミアゲテ神ニ捧ゲテ、之ニ饗
 スルナリ。故ニアツキノ意アリ、又饗ノ字ト通用ス。然ルニ管ノ字ニ「竹」ノ聲アルニヨリ、
 之ヲ假借シテ「竹」ノ字トシテ用キタルガ、廣韻ニイヘル所ニヨレバ、後漢ノ頃ニ至リ、擬陽
 侯ノ竺晏ナルモノハ本姓竹ナリシニ、仇ヲ避ケルタメ、二ヲ加ヘテ竺ノ字トナシ、伯夷叔齊ノ
 義ヲ表ハシタリ。是ヨリシテ竺ノ字ヲ管ト通用シ、管ハ篤ト音義相通ズルニヨリ、竺ト篤トヲ
 モ通用スルニ至レルガ如シ。マタ、毒ノ字ト通用スルコトアリ。周易ニ、毒ニ天下トアリ。又
 老子ニ、亭之毒之トアリ。説文學ハ漢文研究ノ基礎ヲ成スモノナレバ、茲ニツイデテ以テ其一
 端ヲ示シ、學者ノ注意ヲ喚起シ、眞面目ナル研鑽ヲ望ムト云フ。参考書ハマヅ、段玉裁ノ説文
 解字注、徐灝ノ説文解字注箋、朱駿聲ノ説文通訓定聲、高田竹山翁ノ漢字詳解、及ビ國定漢字
 諺解等ハ是非トモ入用ノモノナリ。文字ニ通ゼズバ、訓話ニ通ゼズ。訓話ニ通ゼズバ、文章ニ
 通ゼズ。文章ニ通ゼズバ、思想ニ通ゼズ。日ビニ思想ト云ヒ、思想トイフモ、畢竟、游談無根、
 其實學ヲ去ルヤ遠カリ。

○愛敬

孝經第二章ニ、愛敬盡フルニ於事親、然後德教加フルニ於百姓トアリ。

○懇懇

懇ハ説文ニ、惻也トアリ。集韻ニ誠也トアリ。漢書ノ顔師古ノ註ニ、款誠之意トアリ。ネンゴロニ、親切叮嚀ナルコト。

○每

説文ニ、艸盛上出也、从艸母聲トアリ。左傳ニ、原田每每ト見ユ。艸ガアトカラ〜ヒキツギ〜盛ニ出テクルコトナリ。段氏ハ、今俗語ニ每每トイフハ、不二端之辭トイヘリ。ツネ〜、タビ〜、イツモ〜。

○鹽谷宕陰

卷一第二十九課參照。名ハ世弘、字ハ毅侯、甲藏ト稱ス。宕陰ハ其號、一ニ九里香園ト號ス。江戸愛宕山下ニ生ル。十六歳ニシテ昌平齋ニ入り、又松崎慊堂ニ學ブ。二十一歳ニシテ關西ニ遊ビ、頼山陽ヲ訪ヒ、千里單行、文章囊ニ滿ツ。濱松侯、水野越前守ニ仕ヘ、尋デ幕府儒官トナル。慶應三年五十九歳ヲ以テ歿シ、谷中ニ葬ル。本邦ノ漢文創作ハ、古時ハシバラク措キ、徳川時代ニ入りテヨリ、物徂徠始メテ文格ヲ一變シテ雅正ニ歸セシメシモ、擬古ノ弊アリ。柴野栗山等ヨリシテ漸ク平易達意ヲ主トシ、遂ニ山陽、宕陰等ニ至リテ、殆ト全盛ヲ極メタリ。宕陰著ハス所、昭代記ノ外、丙丁炯戒錄、阿芙蓉遺聞、隔靴論、籌海私議、大統歌、視志緒言、宕陰存稿等アリ。重野先生(見第四十七課)其碑文ヲ作ル。事蹟ハ近世先哲叢談ニ見ユ。

○致良知

陽明ガ大學ノ致知ノ知ノ上ニ良字ヲ加ヘ、孟子ノ良知ト同ジク視テ、其新説ヲ標榜セル語。致ノ字ハ宋元以來ノ纏見ヲ承ケテ極盡、窮盡ト解スルモ、大學本文

ノ正義ニアラズ。タゞ後世ノ一種見解トシテ參考ニ供スベキノミ。第十一課致死ノ條參照。

○倉稟 音リン。上文異稟ノ條參照。米グラ。ムカシ人ニ支給スル米穀ヲ倉ニ藏シタリシヨリ此稱ヲ得タリ。「稟」ハ俗ニ「稟」ニモ作ル。

○資 取ナリ。

○伊藤東涯 名ハ長胤、原藏ト稱ス。東涯ハ其號、又慥慥齋ト號ス、仁齋ノ長子ナリ。沈靜寡默、博聞強記、一生仕ヘズ。著述等身、學界ニ裨益スル甚ダ大。其中主要ナルモノハ、周易經翼通解、復性辨、古學指要、辨疑錄、古今學變、用字格、助字考、名物六帖、盍簪錄、制度通、操觚字訣等ナリ。

○江西 藤樹ノ郷里小川村ハ、近江琵琶湖ノ西ニアルヲ以テシカイフ。此詩、平起格（「西」平字）。

○久、方 「方」ハ分房切、陽。即チ「堂」ト共ニ七陽ノ韻ナルニ、「久」ハ上聲仄字ナレバ、是レ第一句韻踏落トセルナリ。

○訓 教フルナリ。

○義方 左傳ノ隱公三年ニ石碯曰ク、愛子、教之以義方ト。義ノ在ル所ナリ。方ハ論語ノ遊有方、可使三有勇且知方、周易文言傳ノ義以方ノ方ニテ、猶ホ方隅ノ方ノゴトク、東ハ東、西ハ西ト一定シテ守ルベキ所ナリ。其意、道トモ通ズ。

○絃誦 琴ヲ彈キ詩ヲ歌フコトナルガ、ソレガ禮樂ヲ習フトナルニヨリ、凡ソ學問徳教ニ勵精スルコトヲ絃誦トイヒ、又絃歌トモイフ。絃ハマタ弦ニ作ル。論語陽貨篇ニ、子之武城ニ聞ニ弦歌之聲。夫子莞爾而笑曰、割雞焉用牛刀トアリ。

○桂林莊 廣瀨淡窓ノ家塾咸宜園ノ別稱。卷三第四十三課參照。莊ハ田舎、別墅、莊園、別莊、別邸等タイフ。

○諸生 漢頃ヨリ學生、書生ヲ指シテイフ。

○廣瀨淡窓 名ハ建、字ハ子基、求馬ト稱ス。淡窓ハ其ノ號、別ニ峇陽ト號ス。豊後日田ノ人。筑前ノ龜井昭陽ニ學ビ、後家塾咸宜園桂林莊ヲ開キテ徒ニ授ク。前後籍ニ上ルモノ四千餘ニ至ルトイフ。淡窓其規約ヲ嚴ニシ、其課程ヲ密ニス。人材彬彬、一時知名ノ士、多ク其門ヨリ出ヅ。大村、府内ノ二侯皆禮ヲ厚ウシテ之ヲ延キ、待ツニ賓師ヲ以テス。安政二年、七十四歳ヲ以テ歿ス。著ハス所析玄、義府、老子摘解等アリ。弟、謙、旭窓マタ梅墩ト號ス。兄弟共ニ最モ詩ヲ以テ著ハレ、各詩鈔アリ。

○情 音セイ、ジャウ、慈盈切、庚。「成」「驚」同ジク八庚ノ韻。因ニ云フ。萬一韻書ヲ持タザルモノハ、佩文韻府ナラズトモ、韻府一隅或ハ詩韻含英クライノモノハ座右ニ必備ノコト。

○倚門情 母ガ其子ノ外ヨリ歸ルヲ待チワビル情。戰國策ニ、王孫賈ノ母ガ、女（汝）朝出晚來、則吾倚門而望。女暮出而不還、則吾倚閭而望トイヘル故事ヨリ出ヅ。

○孤窻

孤ハ、ヒトリボツチデ、タヨリナキコト。孤立ナリ。孤城、孤帆、孤客ナドノ孤ト同ジ。窻ハ窓ト同ジク皆窗ノ俗字。窗ハ古クハ囿ニ作り、マドノ象形ナルガ、後ニ囿ニ作り、マタ穴ヲ加ヘテ窗トナリシナリ。囿ノマドタルコトハ、黑(古文巽)ノ字ノ、炎ノ上ニ囿アリテ、煙ノタメニクスボリテ、クロクナリタルニテモ見ラル。

○歎

音イ。歎側ナリ。カタブク、ソバダツ。

第十六課 孝經

○孝經

孝經ノ作者明定セザレドモ、曾子ガ孝ヲ孔夫子ニ問ヒ、退キテ其門弟子ト之ヲ言ヒ、其間ニ遂ニ此書ヲ成スニ至リシナラン。今文古文ノ二種アリ。今文ハ漢初ヨリ世ニ傳ハル。古文ハ武帝ノ時ニ至リ、孔子ノ宅ノ壁中ヨリ出デタル蠅斗古文ナリ。今文ニ鄭氏注アリ、古文ニ孔安國傳アリ。梁代ニ至リ今古文共ニ學官ニ立テラレシガ、梁末ノ亂ニ古文孔安國傳ト稱スルモノ亡佚セシニ、隋ニ至リ劉炫再ビ之ヲ世ニ出セシモ、人多ク之ヲ疑ヘリ。唐ノ玄宗帝、劉知幾、司馬貞等ヲシテ二本ノ是非ヲ質サシメ、遂ニ今文ヲ主トシ、所謂孔傳本ヲモ參酌シテ其ノ注ヲ作り、一定本ヲ成ス。所謂御注孝經是ナリ。我國ニテハ、孝謙天皇ノ天平寶字元年ニ天下ニ詔シテ、各戸孝經一本ヲ藏シテ誦習セシム。淳和天皇ノ天長十年ニ、皇太子ノ御讀書始ニ孝經ヲ進メ、爾來久シク此制ニ徒ヒ、孔鄭二注本ヲ傳フ。清和天皇ノ貞觀二年ニ至リ、

孔鄭二注本ヲ廢シ、玄宗ノ御注本ヲ用フ。其後鄭注ハ亡佚セシニ、寛政中ニ至リ、岡田挺之、群書治要中ヨリ鄭注孝經ヲ抄出シ刊行シテ支那ニモ傳ハリ、洪頤煊之ガ補證ヲ爲ル。是ヨリ先キ、古文孔傳本モ、足利學校ニ傳ハレルモノ、大宰氏ノ刊行ニヨリ彼ニ傳ハレリ。此處ニ出セルハ一般通行ノ御注本ニ據レリ。今其孔傳本ト此御注本(今文鄭注本モ同ジ)トヲ比較スルニ、仲尼居ヲ、孔本ハ仲尼間居ニ作り、侍ヲ侍坐ニ作り、子曰ノ下ニ參ノ字アリ。順ヲ訓ニ、無ヲ亡ニ作り、二汝ノ字ヲ皆女ニ作り、足以知之下ニ乎ノ字アリ。由ヲ繇ニ作レリ。

○古讀法

今參考ノ爲メ、弘化三年、憎一桂ノ刊行セル菅家傳來本御注孝經ニ據リテ、古讀法ノ一端ヲ示サン。

仲尼居。

曾子侍。

子曰先王有至德要道。

以順

天下。

民用和睦。

上下無怨。

汝知之乎。

曾子避

席曰。

參不敏。

何足以知之。

子曰。夫孝。

德之本

也。

教之所由生也。

復坐。

吾語汝。

身體髮膚。受

之父母。不敢毀傷。孝之始也。立身行道揚名於後世。以顯父母。孝之終也。夫孝。始於事親。中於事君。終於立身也。

按ズルニ、最後ノ立身也ノ「也」字、通行御注本、孔傳本ニ皆無シ。右訓點ハ、蓋シ古ノ袁乎止點ヲ假名字ニ書キ改メタルモノナラン。

○順 古、訓ト通用ス。故ニ教ユト訓ズ。順ト訓ハ皆「川」ニ從フ。教言教化ノ川流ノ如ク順ニ布キ行ハル、ノ意。

○不敏 不才ナリ、魯鈍ナリ。ニブク、サトカラヌコト。論語學而篇ニ、敏於事而慎於行。公冶長篇ニ、敏而好學トアリ。不敏ハ謙辭ナリ。曾子、孔夫子ヨリ少キコト四十二歳。孔夫子ガ、嘗テ參也魯ト評セラレシ人ナレド、終ニ夫子ノ大道ヲ後世ニ傳ヘタル、尤モ意志ノ堅固ナル弟子ナリキ。

第十七課 熊澤蕃山

○熊澤蕃山

本課ハ意味ノ上ヨリハ藤樹ノ教道ヲ接受シ、地理ノ聯絡ノ上ヨリハ畿内地方ヨリ中國筋ニ入ルノ轉關ヲナス。

蕃山、名ハ伯繼、字ハ了介(介或ハ海ニ作ル)、蕃山ハ其號、又息遊軒ト號ス。通稱ハ次郎八、後、助右衛門ト改ム。本ト野尻氏。父ノ一利、嘗テ加藤嘉明ニ仕ヘ、後京師ニ寓居シ、元和元年蕃山ヲ生ム。正ニ野中兼山ト同庚タリ。外祖熊澤守久、養ヒテ子トス、因リテ其ノ氏ヲ冒ス。寛永十一年、板倉重正等ノ薦ヲ以テ備前岡山ノ芳烈公(光政)ニ仕フ。時ニ年十六。後五年ニシテ致仕シ、江州桐原ニ寓ス。年二十二ニ及ビテ、始メテ書ヲ讀ミ、朱註ニヨリテ四書ヲ研究ス。尋デ藤樹ニ從ヒテ陽明學ヲ修ム。本課ハ即チ此事ヲ記セルナリ。芳烈公屢、之ヲ招クニヨリ正徳二年、再ビ備前ニ至ル。公大ニ喜ビ委スルニ國政ヲ以テシ、祿三千石ヲ賜フ。時ニ年二十七。田地ヲ開墾シ、溝洫ヲ疏通シ、學校ヲ興シ、國內大ニ治マル。其ノ津田氏(永忠)ト共ニ經營セシ閑谷校及新建校ハ其舊觀今猶存スルモノアリ。(新建校ハ今ノ女子師範校ニテ、本堂、門塾、及洋池皆舊ノ如シ。今人多クハ之ヲ省ミズ、怪シムベキナリ)。津田氏ノ蕃山ニ於ケル、恰モ小倉氏(三省)ノ兼山ニ於ケルガ如シ。明曆二年、蕃山狩シテ馬ヨリ墜チ手足ヲ傷ケ、祿ヲ辭シテ京師ニ還ル、年三十九。是ヨリ雅樂ヲ學ビ、國典ニ習フ。就テ道ヲ問フモノ多シ。京尹牧野氏讒ヲ信ジテ蕃山ヲ惡ム。寛文六年、乃チ潛ニ芳野ニ隠レ、又播州明石ニ棲遲シ、息遊軒ニ居ル。

城主松下信之ノ殊遇ヲ受ケ、遂ニ從ツテ下總ニ移ル。時事ヲ論ジテ將軍綱吉ニ上書シ、旨ニ忤ヒテ禁錮セラル。元祿四年、七十三歳ヲ以テ歿ス。蕃山政治經濟ノ外、藤樹ノ孝論ヲ推衍スルコト至レリ。其著、集義和書ニ就イテ見ルベシ。又四書小解、三輪物語等ノ撰アリ。

○主翁 主人公。

○齋 賸西切、齋。物品ヲ持チ來ス、モタラス。

○驛馬 宿驛、宿場ノ馬繼(ウマツギ)。

○始 今トナツテハジメテ。(ハジメルコトヲシテノ意)。「初」ノ字モ「ハジメ」トヨメド、多クハ「時」ノ上ノ「ハジメ」又ハ「ハジメニ」トイフ場合ニ用ユ。後ニ段々ト續クコトアレド、其起リノ第一番ニ(サイショニ)トノ意ナリ。「始」ハ、今マデナカッタ事ガ、今コレカラハジメテクルナリ。又「終」ニ對スル「ハジマリ」トシテ用キラル。「初」ハ後カラ段々前ニ遡ツテ「ソノカミ」「當初」トシテ用キラル。「始」ハ子供ノ台(胎)中ニ生リハジメルトイフ字、「初」ハ先ヅ一刀ヲ衣ニ加ヘタ其ノ裁チハジメ、二者ノ別是ノ如ク明ナリ。然ルニ此二字ハ往々ニシテ通用スルコトアレバ、古文ヲ解スルニ當リテ、アマリニ拘泥スルハ不可ナリ。第五課「蒙塵之初」、第六課「明治之初」、第七課「始有可觀」、第五十八課「初」「始」條、第十課「始築」、「中興初」ナド參照スベシ。

○覺 悟ナリ、知ナリ。

○謝之不受

「之」ノ字ハ「彼」ナリ。故ニ「彼不受」トハイハズ。若シ上ニ「以十六金爲謝」トアラバ、「彼」ノ字ガ入用ナリ。是レ修辭法ノ一端タリ。

○遺物

遺ハ、忘ナリ(卷一第五十二課ニ見エタリ)。棄ナリ、落ナリ。塗不拾遺トイフコトアリ(史記孔子世家)。マタ拾遺補藝トイフコトアリ(太史公自序)。唐ニハ拾遺ノ官アリ。マタ書錄ニモ拾遺アリ。「遺」一字ニテ遺物ノ義トナル。先人(死者)ノ遺留セル、カタミノ類ナドハ明ニ遺物トイフ。遺留、ノコシト、メル、ノ義ニ用キタルモノハ第二十一課ノ遺臭ノ條及卷一第五十三課叢劍氣ノ條參照。又遺贈ノ義ニ用ユルコトアリ。第五十七課ノ「見遺」條參照。此ノ遺遺物耳ノ一句ハ、稍ヤ生硬不雅ナル所アルニ似タリ。或ハ宕陰故ニ馬夫輩ノ口氣ヲ直寫センガ爲メニ然ラシメシカ。敢テ改作スルトニハアラネド、試ミニ「遺而復歸」トシテハ何如。又若シ上ノ「還」ノ字ガ是非トモ肝要トナラバ、「得主而還」トシテ、「遺」ノ字ヲ割愛セザルベカラズ。然ルニ「還」ノ字ノ重複ハ、反ツテ煩ニ失スルノ嫌アリ。

○何報之有

第十課ノ「唯學之耽」ノ條參照。彼ニハ「之」ノ「ニ」又ハ「ヲ」トナル場合ヲ舉ゲタルガ、今此處ハ「ガ」ノ場合ニテ「之」ハ上ノ「報」ヲ再ビ覆シテ、何ノ報ナドイフ「ソナナコトガ」トノ意。何難之有、何遠之有ナド同ジ。此ノ句ハ、

- (一) 何報之有
- (二) 何有報之(那兒有報的)
- (三) 有何報之(有甚麼報的)

ト變形シウルモ、(二)(三)ハ俗語ノ形式ニ近ク、(一)ハ俗語ニ遠ク、且ツ勢ヨク頭ヨリ「何報」ヲ打チ出シ、「有」ヲ末尾ニ置キ、常語ト違フダケソレダケ、文トシテ勁拔、奇警ヲ覺ユルナリ。

○但 普通「タゞシ」ト讀ミテ適當スル場合多キモ、「又單ニ「タゞ」ト讀ムベキ所アリ。茲ニ序ヲ以テ「タダ」ト讀ム字ヲ列舉シテ比較ニ便ニスルコト左ノ如シ。學者、ヨロシク平素看書ノ際、實例ニ就キテ攷究スベシ。

(一) 但 外ノ方ハ置イテ、偏ヘニタゞニ此ノ事ダケデ(外ノ事ガアツテモ外デハナクテト前後ノ抑揚アリ)。

(二) 唯(惟) 專ラコレダケ、コレノミタゞ。

(三) 特 此ダケハ特別ニタゞ。

(四) 只 外ハソウデモナイニ、ココダケハタゞ。ワヅカニ、ヤット、タダコレダケハ。公此文一出、名世。只一字未安(嚴先生祠堂記、記事)。日獨入地、而星河只在天

耶(代辭篇)。

(五) 祇 ソレデモ、ヤツバリタゞ。

(六) 止 タゞコレキリ。以上モ、以後モナイ。

(七) 第 ドウナロウトモ、宛ニ角マアタゞニ(ナニカナシニタゞマア)。陛下第出、僞遊ニ雲夢(漢書陳平傳)。

(八) 徒 空シク何ニモ無シデ、ソノマ、デタゞ。

(九) 直 其ノ有ル通りニ、タゞ其レバカリ。直不百步耳(孟子、梁惠王上)

(十) 番 タゞソレ位(タゞソレバカリ)(程度ヲ示ス)。此ハ「何番」「豈番」「不番」ト必ズ二字連用ス。

(十一) 適 「番」ニ同ジ。孟子ニ、口腹豈適爲尺寸之膚哉トアリ(告子上)。

(十二) 翅 亦「番」ニ同ジ。古字通用ス。奚翅色重(孟子、告子、下)。

此外「直」「除」「除非」ナドアレド、急用ナキヲ以テコ、ニハ略ス。

○平居 平日居常。

○訓誨 誨ハ説文ニ曉トシ教ユ也トアリ。丁寧ニオシヘサトスコト。

○負 第十一課ニ見ユ。

○噫 音イ、於其切、**支**。一字一句ニテ、短促急切。吁、唉ナドト等シク、單獨ニ句ノ頭ヤ尾ニ附ケラレ、「嗚呼」ヤ「於戲」ナドノ一句中ニ組ミ込マレ居ルト異ナリ。論語子張篇ニ、噫、言游過矣トアリ。

○澆世 澆音ゲウ。堅堯切、**蕭**。薄ナリ輕ナリ。澆季之世、澆末トモイフ。第七課ノ季ノ字ノ條參照。

○斯人

論語ニ「若人」トアルゴトク、此ノ如キ人ノ意、中ニ歎美ノ情アリ。又「斯人也而有斯疾也」トイヒ、「天之未喪斯文也」トイヘルガ如キ同例。

○良久

良ハ、ヤ、カナリ、シバラクシテ。此字ハ、良有以也ナドノトキハ、マコトニ(信)トナル。

○賤隸

隸又隸ニ作ル。隸屬者、奴隸、僕隸。

○釋官

釋ハ捨ナリ、去ナリ、罷ムナリ、廢ナリ。

○趨庭

趨ハ小足ニテハヤクハシルコト。貴人ノ前ヲ通ルトキノハシリカタ。論語ノ季氏篇ニ、鯉(孔子ノ子)趨而過庭、曰學詩乎。對曰未也。不學詩、無以言、鯉退而學詩。云々トアルヨリ出ヅ。藤樹ノ庭訓(家庭教育)ヲ施セル中へ入レテモラヒテ教ヲ受ケントスル意。

○縱、竟

縱ハ手バナシ、ユルスナリ。「假」ノ假ニコウト設ケテイフトハ異ナリ。竟ハ第九課ノ「遂」ノ字、第十五課ノ「卒」ノ字ノ條參照。

○未足

「足」ノ下ニ「以」ノ字アルガヨケレド、上ニ既ニ「以」ノ字ヲ用キシ故、修辭法トシテ、下ニ之ヲ略ス。

第十八課 猿 說

○猿之演劇也 「之」ハ「ガ」、「コノモノガ」。「也」ハ「ニハ」ノ意。

○且立且坐 立チツ、坐リツ。

○周旋 事ヲトリアツカフ、トリマワス。舉措ナリ。禮記ノ内則ニ、進退周旋慎齊トアリ。又人事ニ斡旋盡力媒介スル意ニモ用キラル。第五十九課ニ、竭心周旋朝暮間トアリ。

○依倣 依循倣倣ナリ。

○儼然 第十三課ニ見エタリ。

○菓 果實、木實。本邦ニテ俗ニ菓子トイフハ、果實ニアラザルモ、昔ハ茶菓トシテ果實ヲ出セシニ、後糖製ノモノヲ出スニ至リテモ、本ノマ、ノ名ヲ使用セルナリ。

○自失 氣ヌケシテ、ボンヤリスルコト。史記ノ賈誼ノ傳ニ、爽然自失矣トアリ。

○故態 ムカシノ狀。舊態。

○頓 ニハカナリ。列子ノ天瑞篇ニ、一形不頓盡トアリ。頓死、頓悟ナドノ語アリ。頓挫ノ頓ノゴトク、アル進行中ノモノガ、急ニ止マツテ、別ノ狀態トナル意ナリ。第五十課俄字條參照。

○側 傾側ナリ。

○嗤笑 嘲笑、冷笑、アザワラフナリ。「嗤易、嗤侮、嗤輕」ナドノ語アリ、皆輕蔑シ、アナドルナリ。

○弗自知 弗ハ「ザラン」ノ意アリ。「不」ト少シ異ナリ。

○節 節操。

○齋藤竹堂 名ハ馨、字ハ子德、通稱ハ順治、仙臺ノ人。昌平黌ニ學ビ、江戸ニ在リ、帷ヲ下シテ教授ス。羽倉簡堂、推シテ益友トス、仙臺侯擢ンデ、藩ノ儒員トセントセシモ、偶々病ニ罹リ、三十八歳ヲ以テ歿ス。文名一時ニ高カリキ。詩文集アリ。

第十九課 池田光政

○光政

利隆ノ長子、輝政ノ孫ナリ。新太郎ト稱ス。父卒シテ、封播摩ヲ襲グ。元和三年封ヲ徙シテ因幡伯耆二州ヲ領ス。九年將軍徳川家光、諱字ヲ賜フ、因テ光政ト稱ス。寛永九年又封ヲ備前ニ移ス。天和二年、七十四歳ヲ以テ歿ス。光政學ヲ好ミ、學校ヲ設ケ、蕃山ヲ舉ゲテ大ニ教化ヲ布ク。時ニ名君ノ稱アリ。

○初謁 第十七課ノ「始」ノ字ノ條參照。其後ノ再謁ニ對シテ初トイフ。第一番目ナリ。

○鬢 結髮ノワゲ。

○觀之退 正シクハ、「觀之」デ句ヲ斷リ、「退」ハ一字句ト看ルベシ。「觀之退」ナリ但ダ俗ニ從ヒ、譯讀ノ流暢ナランガ爲メ、今ノ如ク連接セシムルノミ。

○用天之道、因地之利

庶人章第六。此レ朱晦庵ノ刊誤本ニ據ル。玄宗御注本ニハ「因」ヲ「就」ニ作ル。又古文孔傳本ニハ、「用」ヲ「因」ニ、

○神采

精神風采。采ハ形貌。采ノ字ニ似タル「采」ハ音ベン、辨ノ本字ニテ辨別スルナリ。采ハ説文ニヨレバ爪ニ从ヒ木ニ从フ。爪ハ手先ニテ執リ持ツ義、即チ良材美材ヲ選擇スル意ニテ、採ノ字ノ義トナリ（「採」ノ手ヘンハ不必要）、又選擇セル良材美材ノ立派ナル形相ノ義ヲ表スルモノトシテ、彩色、色彩ノ字ノ義トナル（「彩」ノ彡ハ不必要）。采ハ獸類ノ足迹ノ象形、足迹ニヨリテ其物ヲ辨別スルニヨリ、此ヲ以テ辨ノ字トシテ用キシナリ。小篆ニ崇ニ作ル。

○秀徹 清秀朗徹、スグレテ、スキトホル。神采煥發トカ、精彩秀發トカイフハ、皆是ニ近シ。

○爭臣章 諫爭章第十五ノコト。次課ニ見ユ。

○匡 匡救ナリ。正シタスクルナリ。

○逮 及ナリ、至ナリ。

○忠益 忠諫輔益ナリ。

○鯁言 剛直ニシテ正言憚ラザルコト。鯁ハモト魚ノ骨ニテ、ソレガ喉ニタツコトヲモ鯁トイフ。君ヲ諫ムルニ正義ヲツキトホシ、人ニ阿諛セザル士ヲ骨鯁トイヘリ。韓退之ノ争臣論ニ、朝廷有ニ直言骨鯁之臣トアリ。

○中川謙叔

權右衛門ト稱ス。藤樹ノ高足ニシテ、芳烈公ニ仕へ、所領二百石ヲ賜フ。著シテ全人論アリ。

第二十課 諫争

○諫争 此レ諫争章ノ全文ナリ。争ハ諍ト通用。

○聞命 普通ハ多ク聽命トイフ。命ハ教命ナリ。

○令名 令聞、令譽、令稱、善キ評判、好評ナリ。

○焉得 安得ニ同ジ。

第二十一課 大石良金死義

○成童 禮記ノ内則篇ニ見ユ。

○始學 第十九課ノ「初謁」、十七課ノ「始覺」ト對照セヨ。

○莫 「ナカロウ」ニテ、「無シ」ヨリハ一層念ヲ推シテイフ。「ナカラム」ト讀ムモ可。

○大於 「於」ハ卷一第三十六課參照。

○義 宜ナリ。義理ナリ。人ノスベキ本務。

○僕隸 第十七課賤隸ノ條參照。

○大矣 此「矣」下文ノ「吾子矣」ノ「矣」ト皆「ナリ」、「ニテアル」、「デアアル」ナリ。「也」ノ「チャ」、「ダ」ト稍ヤ異ナリ。

○捐 音エン、與專切、**先**。棄ナリ。義捐、捐軀ナドイフ。

○苟 イサ、カデモ。

○遺臭 遺ハ遺留(ノコシトゞメル)ナリ。第十七課ノ遺物ハ義ヲ異ニス。臭ハ汚名ナリ。下ノ「流芳」ノ條參照。

○孰若 猶ホ「何如」ノゴトシ。又「孰與」「何與」ニ作ル。「與」ハ「如」ナリ(廣雅)。又「與其」ト通用スル場合アリ。通常「與其」ヲ「ヨリハ」ト讀ミ、「孰若」「孰與」ヲ「イヅレゾ」ト讀メルモ、左傳閔公元年ノ、猶有ニ令名、與[△]其[△]及[△]也ノ如キハ、王肅ノ注ニ、雖[△]去猶有ニ令名、何與[△]其坐而及[△]禍也トアルガ如ク、「與其」モ「イヅレゾ」ト讀ムベキナリ。

第五十二課「與其」參照。

○流芳

流ハ傳、芳ハ美名ヲイフ。晋ノ桓溫陰ニ不臣ノ志ヲ蓄ヘ、管テ枕ヲ撫シ歎ジテ曰ク、男子不能流芳百世、亦當遺臭萬年ト(十八史略、東晋)。

○從母歸豐岡

赤穂城内、復讐ノ盟約定マルノ後、良金母ト共ニ外祖父石東氏ニ依リ、豊岡ニ在リ。後、山階ニ移ル。

○力闘

良金、身長五尺七寸、性剛毅ニシテ材藝アリ。復讐ノ日、後門攻入ノ隊長タリ。其發スルヤ、父ノ側ニ在リテ假寢セシニ、鼾聲雷ノ如シ。一座其沈勇ニ驚ケリ。其夜(元祿十五年十二月十四日)吉良義央ノ邸ニ入ルヤ、義央ノ子義周出デ、拒グ。良金激闘シテ其額背ヲ斫ル。明年二月、自盡ノ命下ルノ日、父ノ書簡ヲ刀ニ卷キ、坦然トシテ死ニ就ク。

○室鳩巢

第十一課ニ見ユ。

○阪井虎山

名ハ華、字ハ公實、通稱ハ百太郎。藝藩儒員阪井東派ノ子、頼山陽ヲ以テ父執トシ、文ヲ以テ關西ニ鳴ル。嘉永三年、五十三歳ヲ以テ歿ス。廣島本照寺ニ葬ル。著ハス所、詩文集及佳樓日記アリ。

○茲事獨許赤城士

赤穂諸士ノ大舉復讐ノ事ノ如キハ特種ノモノニテ、唯一タビアルベクシテ、タビノアラスコトハナラヌトノ意。

○韻脚

此ノ詩ノ韻ハ「立」「法」ハ、入聲ノ十四緝ト十五洽ヲ通用シ、第五句ヨリ一轉シテ換韻シ、上聲ノ四紙(已、士)トナレリ。換韻ノ法ニ就キテハ、武元登々庵ノ古詩韻範

ヲ參考ノコト。又此類古體ノ平仄ニ關シテハ、森槐南ノ古詩平仄論ヲ參考スベシ。

第二十二課 武士道之發達 其一

○形 顯ナリ、表ナリ。

○遞傳 遞ハ説文ニ、更易也、廣韻ニ遞代也トアリ。順グリニ次ヘ次ヘト傳ヘル。

○尙 上ナリ、尊ナリ。

○卽 トリモノホサズ、コウイフモノ。

○廉潔 廉ハ側偶ナリ、稜角ナリ、嚴利ナリ、正直ナリ、清白ナリ。

○調伊企儼 ミツギノイギナ。新羅王我が髀肉ヲ食ヘト豪語セシ勇士。

○錚錚 錚錚トモイフ。モト金ノ聲ノヨキサマニテ、借リテ人物ノ優レタルヲ形容ス。鐵中錚錚、庸中佼佼トイフ(十八史略、東漢)。多クノ鐵ノ中デモ、ヨキ響ヲスルモノ。

○游散 游放散漫、氣マ、ニアソブコト。

○莫有 莫ハ、ナカルベクスルナリ。

○廉恥 恥ハ恥ヲ知ルコト。耻ハ恥ノ俗字。

○名節 名義節操。

○然諾 承諾、ウケアフ、ヒキウケルコト。史記ノ張耳傳ニ見ユ。

○相託 相互ニ寄託シ、委任スルナリ。

○藉 借ト通用。

○倫 等倫、匹倫、タグヒ。

○掬 兩手デスクフ。一掬ノ水トイフコトアリ。

○抵 第二課ニ見ユ。

○渝 音ユ、容朱切、虞。變ナリ。

第二十三課 武士道之發達 其二

○成憲 憲法ヲ作成スルコト。徳川氏百個條。

○光圀 家康ノ第十一子タル頼房水戸ニ封ゼラル。光圀ハ其ノ第三子ナリ。小字ハ千代松、後子龍トイフ。日新齋ト號シ、又常山人、梅里等ノ別號アリ。明曆三年、彰考館ヲ

開キ、大日本史ヲ修メ、南朝ヲ以テ正統トス。元祿五年八月、碑ヲ湊川ニ建テ親ラ題字ス。十三

年西山ノ閑居(第五十四課參照)ニ歿ス、時ニ年七十三。其ノ中納言ニ任ゼラレシヲ以テ、世ニ水戸黃門ト稱ス。黃門ハ禁門ノ稱ナリ。諡シテ義公トイフ。圀ハ國ノ別字、唐ノ則天武后ノ作りシモノ。

○砥勵 又砥礪ニ作ル。砥音シ、又テイ。トイシ。又活字トシテ、トグ、ミガクト用ユ。

○當行 當爲ナリ。

○闇齋 名ハ嘉、字ハ敬義、垂加ト號ス。通稱嘉右衛門。野中兼山ニ學ビ、京師ニ教授シ、會津ニ仕フ。天和二年、六十八歳ヲ以テ歿ス。神道ヲ修メ、一家ノ學ヲ成ス。

○綱齋 名ハ安正、靖獻遺言ヲ著ハス。一生足關東ノ地ヲ踏マズトイフ。

○強齋 名ハ進居、又寬齋ト號ス。綱齋トトモニ闇齋ノ門人ナリ。

○竹内式部 京都公卿ノ師匠役タリ。尊王論ヲ唱フ。越後ノ人。亦闇齋學派ニ屬ス。

○素行 第二十五課ニ見ユ。

○權化 ゴンゲ。神佛ナドガ、カリニ人間ノ形ヲナシテ、此世ニ現ハル、コト。又權現(ゴンゲン)トイフ。

○仗義 仗ハ倚ナリ。依ナリ。第十二課、仗劍對照。

○須知 心得(コ、ロエ)。

第二十四課 格言四則

○格言 猶ホ法言トイフガゴトシ。正シクシテ、ノツトルベキ訓言ナリ。

○四則 「則」ハ猶ホ「條」又ハ「條例」ノゴトク、列舉シテ記載セルモノ。

○見義 論語爲政篇。

○死或 司馬遷ノ任安ニ報ズル書ニ見ユ。續文章軌範ニ載セラル。鴻ハ、オホドリ、水鳥ノ一種ニテ、雁ノ大ナルモノ。

○生亦 孟子告子上。此文ノ上ニ、魚我所_レ欲也。熊掌亦我所_レ欲也。二者不可_レ得_レ兼、舍_レ魚而取_レ熊掌也トアリ。

此等ノ格言ノ實踐ハ、我國ニ在リテハ武士道ノ發達ニ大ニ資益スル所アリシヤ疑ナキモ、支那ニテハ漢代以後、士氣頹廢、風俗壞亂、人心偏ニ利ニ趨ムキテ懦弱死ヲ怕ル、ノミ。聖經賢傳モ虛飾タルニ似タリ。

第二十五課 山鹿素行

○山鹿素行

第九課伊藤仁齋ノ條參照。素行ノ復古學ヲ發表スルヤ、稍ヤ仁齋ノ前ニ在リ。又其ノ之ヲ主張スルヤ、仁齋ヨリモ嚴烈ノ態度ヲ以テセリ。故ニ其ノ貶謫禁

錮ノ難モ亦尋常學者ノ上ニ出デ、其學說モ當時ニ行ハレズ。百數十年ヲ經、吉田松陰、乃木將軍等ニヨリテ復活サレタリ。故ニ其ノ長年月ノ間ハ、世人徒ニ一兵學者トシテ之ヲ知ルノミ。近年乃木將軍、松浦伯等ニヨリテ、其久シク禁書トナレル遺編ノ出版サル、ニ及ンデ、素行ノ儒學ニ關スル著述モ始メテ世ニ出ヅルヲ得タリ。其中主要ナルモノハ、有名ナル聖教要錄ノ外、童子問、山鹿語類、四書句讀大全、中朝事實等ナリ。兵學書ハ、兵法神備武雄集、武教小學、武教要錄、武家事紀、七書諺解等甚ダ多シ。貞享二年、六十四歳ヲ以テ歿ス。其赤穂ニ在ルヤ、大石良雄年少ヲ以テ其家ニ出入シ感化ヲ受ク。後吉良邸ヲ襲フヤ、山鹿流ノ陣太鼓ヲ用キシトイフ。素行、會津ニ生レ、江戸ニ歿シ牛込宗參寺ニ葬ル。今素行會ニヨリテ、毎年一回祭典ヲ營マル。傳記ハ松浦伯邸ニテ刊行セル「山鹿甚五左衛門」ニ詳ナリ。

○英邁 邁ハ莫敗切、**[卦]**。遠行ナリ。遠ク過グルナリ。邁進、邁往ナドイフ。

○其：他 「也」ハ「ニハ」、「ノニハ」。

○立決 立ハ字典ニ速意也トアリ。史記ノ平原君傳ニ、錐之處ニ囊中、其末立見ト見ユ。タチドコロニ、ソノマ、スグ。

○執贄 禮記ノ士相見禮ニ見ユ。贄ハ脂利ノ切、人ト初對面ノ時ヤ教ヲ乞フ時差出ス禮物。

○不啻 第十七課「但」ノ字ノ條參照。

○東條琴臺

第九課先哲叢談ノ條參照。江戸ノ著述家ナリ。嘗テ越後ノ高田藩ニ仕ヘ、後江戸龜戸神社ノ祠官タリ。明治十一年八十四歳ニテ歿シ、向島蓮華寺ニ葬ル。上總ノ經學者、東條一堂(名ハ弘、安政四年八十歳ヲ以テ歿ス)トハ別人ナリ。本文ハ原文ニ稍ヤ刪修ヲ加ヘタリ。

第二十六課 謁楠公墓

○蓐食

早朝寢床ニテ食事ヲスルコト。左傳文公七年ニ、秣馬蓐食トアリ。蓐ハ、シトネ、茵席ナリ。

○碑面八字

第二十三課參照。水戸義公光閉隸書ヲ善クス。此自書嗚呼ノ八字ニテモ知ラルベシ。コノ文句ハ、昔孔子ガ書セシト傳フル「嗚呼延陵季子之墓」ニ倣ヒシナランカ。碑陰ノ文ハ、當時水戸ニ賓師タリシ明ノ遺臣朱舜水ノ撰ニ係ル。參考ノタメニ左ニ掲グ。

忠孝著乎天下、日月麗乎天。天地無日月、則晦蒙否塞。人心廢忠孝、則亂賊相尋、乾坤反覆。餘聞楠公諱正成者、忠勇節烈、國士無雙。蒐其行事、不可概見。大抵公之用兵、審強弱之勢於幾先、決成敗之機於呼吸。知人善任、體士推誠。是以謀無不中、而戰無不克。誓心天地、金石不渝。不爲利回、不爲害懼。故能興復王室、還於

舊都。諺云、前門拒狼、後門進虎。廟謨不臧、元凶接踵、構殺國儲、傾移鐘簾。功垂成而震主、策雖善而弗庸。自古未有元帥妒前、庸臣專斷、而大將能立功於外者。卒之、以身許國、之死靡佗。觀其臨終訓子、從容就義、託孤寄命、言不及私。自非精忠貫日、能如是整而暇乎。父子兄弟、世篤忠貞、節孝萃於一門、盛矣哉。至今王公大人、以及里巷之士、交口而誦說之不衰、其必有過人者。惜乎載筆者、無所考信、不能發揚其盛美大德耳。(鐘簾ハ傳國ノ器、神器ヲ指ス。妒前ハ嫉妒讒言。之死靡佗ハ至死無他ナリ。)

凡ソ此類ノ碑文ノアル處ハ、修學旅行ノ際ナドニ、教師ハ其前ニ立チ、生徒ノ爲メニ、ナルベク高聲ヲ以テ、朗々ト讀ミ聽カスヤウシタキモノナリ。印象感動ハ、平日ニ倍スルモノアラン。

○訛

音シン。齒ヒニ從フ。ヒハ化ナリ。俗ニ七ニ作ルハ誤ナリ。又比ノヒトヒトヲ混同スルモヨシカラズ。齒ノヌケカハルコト、又ソノ年頃。七八歳ノ幼時。髻亂ノ語、卷一第五十六課ニ見エタリ。

○欽

欽慕ナリ。

○今始

第二十一課、十七課參照。

○頓首

第八課ニ見エタリ。

○哺

クレガタ(申ノ刻、今ノ午後四時)。

○乃就 「乃」ハ、サキへ進ミユカウトセルヲ轉ジテナリ。「就」ハ、上ノ兵庫ノ瓦屋ニツク。下ノ「焉」ノ字、之ヲ示ス。

○纍纍 連續セル貌。禮記ノ樂記ニ、纍纍乎端如貫珠トアリ。

○墟 墟、故墟、舊墟。

○鐵柺 テラカイ 鉢伏 ハチフセ 柺ハ老人ノツク杖。柺腹(ケウフク、空腹)ノ柺ト異ナリ。


○源判官 壽永三年六月三日、義經自カラ熊谷直實、平山季重等以下三千騎ヲ帥キテ鉢伏峯ニ登リ、鷲尾經春ヲ嚮導トシテ夜山徑ヲ進ミ、晨ヲ侵シ、魚貫シテ鴨越ノ險ヲ下リ、一谷ノ城後ニ出デタリ。後篇、源平氏(十一)谷之戰參照。

○可 バカリト讀ム。「ホド」ナリ。史記滑稽傳ニ、飲可五六斗、徑醉矣。吳王傳ニ、東越兵可三萬餘人トアリ。又「可」ノ下ニ「所」ヤ「許」ノ字ヲ受用シテ「可一里許」トナスコトアリ。詳ハ第五十一課「可町許」條參照。

○隱隱 分明ナラザルモ、カスカニアル貌。隱約トモイフ。

○人丸 柿本人丸。

○高敞 敞ハ土地廣潤ナル貌。敞豁トモイフ。

○髻髻 髻ハ已ニ上文ニ見エタリ。髻音テウ。田聊切、ウナキ。兒童ノ垂髮ニテ、垂髻トモイフ。小兒又ハ小兒時代ノ意ニ用ユ。

○拙堂 第五課ニ見エタリ。

○廠 モト四方ニ壁圍ノナキ假屋ヲ云ヘド、今ハ職人ナド多數聚リテ仕事スル所ヲイフ。

第二十七課 瀬戸内海

○度 ワタル、通達スル。古、渡ト通用セリ。

○黛 モト眉墨ナレド、其青黒キ色ニ取リテ、山ノ青々トシタル色ヲモ、黛トイフ。青黛、翠黛、遠山黛ノ如シ。

○巉峭 ケハシクキリタツ。

○茵 音イン。シトネ、シキモノ。苔茵、錦茵、芳茵ナドノ如シ。

○矮 音ワイ、又アイ。タケ低シ。矮屋、矮人ノ如シ。

○矗立 矗音チク、又シユク。慣用音チヨク又シヨク。直立スル貌。

○數仞 數ヒロ、周尺ノ八尺ノ稱。

○援攀 攀援トイフガ普通ナリ。攀ハ下ヨリ上ノ方ニツカマリノボルコト。援ハ引ナリ、牽ナリ。故ニ援攀ハ、ヒキツカマリノボルコトトナル。卷一第十六課ニモ見エタリ。

- 廈 大キナ家屋。音カ。
- 桑麻雞犬 桑麻ノ間ニアリテ、鳴キ吠ヘル雞犬ノ聲。
- 篠 音セウ。シノダケ、ヤダケ、小竹。
- 彌縫 繕ヒヌヒ合ス、ツヅクル。
- 星斗 一切ノホシヲ通ジテイフ。斗ハ星ノ中ニテ、南北ニ在ル星ノ宿(ヤドリ)ノ名。

第二十八課 嚴島

- 七里 七里ニ七浦七景アリ。
- 絶頂 彌山(ミセン)トイフ。
- 曲磴 磴ハ第十一課ニ見エカリ。
- 盤旋 グル／＼メグリマガル。又盤回、盤紆、盤析ナドイフ。但シ、人ノメグリアルクニモ用ユルコトアリ。
- 淙淙 水ノドン／＼急ニ流ル、聲。
- 雜沓 マジリカサナリアフ。

- 層累 層疊重累ナリ。
- 詭形 奇異奇怪ノ形狀。
- 眺 遠ク見ワタス。眺望ナリ。
- 嶂 高峻ニシテ連續セル山峯。連嶂、層嶂、疊嶂、嶂壁ナドイフ。
- 洲渚 第四十一課參照。
- 歷落 歴歴落落ナリ。歴歴ハ、ナラビテキラタク貌。落落ハ、ボツ／＼トマバラナ貌。
- 縹渺 第五課ニハ渺ヲ縹ニ作レリ。又渺ニ作ルコトアリ。又浩渺トイフコトモアリ。第十一課參照。
- 激濤 音レンエン。波ノ滿チテ靜カニ漂ヒ動ク貌。
- 伶人 樂人、樂工、樂官。昔黃帝ノ時、伶倫トイフ者音樂ヲ作り、世世樂官トナリシヨリ、凡ソ樂人ヲ皆伶又ハ伶人トイフ。
- 嘹唳 音レウリヤウ。遠ク鳴リ聞ユル貌。
- 竹堂 第十九課ニ見エタリ。
- 一島未去 次ノ兩岸ノ文ト共ニ、小學讀本ヨリ譯出セルモノ。

第二十九課 賴山陽

○賴襄

ライノボル。卷一第十九課參照。父ハ惟完。母ハ梅飄ト號シ、日記アリ。

○惟完

杏坪、春風ノ兄。藝藩儒員。モト竹原ノ人、春水ト號ス。又霞崖、拙巢、和亭等ノ別號アリ。彌太郎ト稱ス。文化十三年、七十一歳ヲ以テ歿シ、比治山ニ葬ル。著ハス所、春水遺稿、在津紀事、藝備孝義傳等アリ。舊宅今猶ホ廣島袋町ニ存ス。家系、春水―山陽―聿庵―誠軒―今ノ古梅氏―成一氏ニ至ル。

○高籬

籬ハ額ト同ジ。巨員切、音權。ホホボネ。輔骨ナリ。

○眼采

采ハ光彩ナリ。

○炯炯

炯音ケイ、又キャウ。光明ナリ。本字炯、炯ハ俗體。或ハ通ジテ耿ニ作ル。

○峻峭

嚴厲、キビシクキツイ。

○氣節

意氣節操、又氣概トイフ。概ハ節概ナリ。

○既不能

此說已ニ卷一第五十五課ニ見エタリ。「既」ハ「モウ、コウナツタ以上、カウナツタカラハ」トイフ意。

○三本木

京都鴨川ノ西岸ニアリ。

○水西莊

莊ハ田舎、別墅ナドノ稱。第十五課ニ見エタリ。

○喀血

喀音カク、嘔吐ナリ。俗ニ誤リテ喀ニ作ル。喀ハ雉ノ聲ナリ、又訟言ナリ。

○時方

方ハ、チヨウド其サイチュウ。第七課ニ見エタリ。

○乃日夜

「乃」ハ喀血ヲ患フルニモ拘ハラズ、ソレヲ外ニシテ居イテ、カヘツテ此方ヘ轉向シテ熱心ニナルトノ意アリ。

○是月

「是」ノ字ハ無クテヨキ處故、「斯」ヤ「此」ナドノ、專ラ事物ヲ指示スル文字ヲ用キズ、只ダ下ノ日ヲ上ノ月ニ連結セシムルタメニ、上ノ歳ヲウケテ、輕ク「是」ノ字ヲ用ユ、「ソノ」トイフガ如シ。東坡ノ後赤壁賦ニ是歳十月之望トアルハ、前赤壁賦ノ壬戌之秋ヲウケテ、ソレニ結び付ケテ定メルナリ。

○無慮

又亡慮トイフ。凡ナリ、大略ナリ。「慮」ト同用スルコト、「無寧」ノ「寧」ト同用シ、「不顯」ノ「顯」ト同用スルガゴトシ。

○松平定信

越中守ト稱シ、安永中幕府老中トナリ、大ニ弊政ヲ革ム。寛政中柴野栗山、賴春水、尾藤二洲、古賀精里、赤崎海門等ヲ民間ヨリ拔擢ス。文化九年致仕シテ樂翁ト稱ス。文政十二年、七十二歳ヲ以テ歿ス。子定永繼グ。文政中封ヲ桑名ニ移サレ、子孫相傳ヘタリ。

○者也、者矣

「者也」ハ「モノヂヤ」「モノダ」。「者矣」ハ「モノデアル」ナリ。

○菊地三溪

名ハ純、字ハ子顯、紀伊ノ人。幕府ニ仕ヘ、徳川家茂ノ侍講タリ。後京都ニ住ス。詞藻ニ富ミ、殊ニ戲文ヲ巧ニス。明治二十四年、七十二歳ヲ以テ歿ス。

○爲人

作爲ノ爲(ナル、ナス)ハ平聲。因爲ノ爲(タメ、ニ)ハ去聲。或ハ此ノ去聲ノ「ニ」ト讀ムベキ所ヲ「ナル」トカ「ラル」トカ讀ムニヨリテ、コレヲ平聲ト看ルモノアルモ是ニアラス。(第五十七課「見遺」條下、十「爲」參照。

○方正、將、當

- (一) 方 今ゾ其時ニ向ヒアタツテ。其ノ最中。
- (二) 正 アツベキ處ニチヨウドアタツテ。ボツチリ。マサシク。アタカモ。
- (三) 將 欲然也、甫始之辭。
- (四) 當 應當ナリ、當然ナリ。

此外「適」ノ字ハタマノト讀メド(第二課「會」字ノ條、第九課「適」字ノ條參照)、マタ「マサニ」ト讀ミテヨキ所アリ。臣自ニ出身以來適十數年(史記枚乘傳)、文帝改法、除ニ肉刑之罪、至今適三百歲(後漢書、郎顛傳)ノ如キ、マサニ、アタル、ノ意ナリ。

○丁巳

寛政九年、山陽時二年十八。叔父杏坪ト同行、江戸霞ヶ關ノ藩邸ニ着キ、尾藤二洲ニ就キテ學ブ。第三十課末附記參照。

○押韻

一東。即チ東、通、紅、雄、風是ナリ。

○五十二亭

東海道ノ驛亭。此詩起首二句、實地行程。前聯、目前景色、後聯過去ノ追憶。結末二句、感懷抱負。

○故關

近江逢阪ノ關。第十一課ニ古關トアリ。

○湖南

琵琶湖南岸地方。

○畿内峯巒

比良、比叡ヨリ南ニ連ナル諸山ヲ指ス。

○流峙

琵琶湖ハ南流シテ宇治川トナリ、諸峯巒ハ西ニ峙立ス。

○閱

歴ナリ、經過ナリ。

○賈誼風

風ハ風度、風槩、風格。賈誼ハ西漢(前漢)ノ洛陽ノ人、年十八ニシテ已ニ文章ヲ能クスルヲ以テ郡中ニ聞ユ。文帝召シテ博士ト爲ス。時二年二十餘。朝ニ在リテ最モ年少ナリ。治安策ヲ上リ、又過秦論ヲ作ル。著ハス所ノ書ヲ新書トイフ。後漢ニ遭ヒ長沙ニ遷サレ、鵬鳥賦ヲ作リテ屈原ヲ弔フ。三十三歳ヲ以テ歿ス。

○像贊

此ニ挿入セルハ山陽ノ自贊ヲ其第三子鴨崖ノ書セシモノナリ。鴨崖、名ハ醇、字ハ子春、三樹三郎ト稱ス。王事ニ奔走シ、安政六年、刑セラル。時二年三十五。躬儻仰一室、而心關百代之失得。弗恤己已鹽齏、而憂人家國。文章滿腹、不濟饑。曲尺直尋、則所不爲。噫是何物迂拙男兒乎。雖然、烏知無念此迂拙者之時哉。

右先人畫像自贊。謹錄、爲^{オニス}清華金田元馮。不肖賴醇。

畫ハ音セイ又サイ。ナマス、アヘモノ。人ハ他ナリ。曲尺直尋ハ、孟子ノ滕文公下ニ見ユ。是レ像贊ノ文タルニヨリ、特ニ押韻セリ。「得」ハ多則切、「職」ニテ、下ノ「國」ノ字、此ト同ジク、入聲十三職ニ屬ス。「饑」ハ居依切、「微」「爲」ハ、于嬌切、「支」下ノ「兒」「時」二字トモニ四支ニ屬シ、五微ト異ナレド、此ニハ古通韻ノ法ニヨリテ、皆一ツトシテ用キシナラン。

第三十課 示游學者

○游 遊ト通用。遠ク出カケテユクコト。史記荀卿傳ニ、荀卿游ニ學於齊トアリ。

此文ハ、多分杏坪ガ山陽ニ示スコトヲ主トシテ作りシモノト思ハル。篇末附記參照。

○負笈 他所ニ游學スルコト。笈ハ、オヒ、書笈トモイフ。書物ヲ入レテ背ニ負フモノ。史記蘇秦傳ニ、負笈從師、不遠千里トアリ。

○水天之角 角ハ隅ナリ、遠端ナリ。天涯地角トイヒ、又、天之一角トイフガゴトシ。

○匱 音キ。トボシ、缺乏ナリ。匱乏、匱竭ナドイフ。毛詩大雅ニ、孝子不匱トアリ。此字モト、「ヒツ」「ハコ」ニテ、説文ニ、匣也、一日乏也トアリ。六書故ニ、今通ジテ、

藏器ノ大ナルモノヲ匱トシ、次ヲ匣トシ、小ナルヲ匱トストイヘリ。此ヲ缺乏ノ意ニ用ユルハ、蓋シ假借シテ「潰」トナシ、遂ニ竭トナシ、空トナシ、盡トナスニ至レルナリ。

○音問 オトヅレタツネルコト。音訊、音信、通信。

○動 動輒ト連用スルコト多シ。動クトスグ、動クタビニ、動ク其折ニ、ナドノ意アリ。故ニ、シバく、タビく、毎毎、往往、間間、折折、マタシテハ、ヤ、モスレバ、ナド

、訓ゼラル。但場合ニヨリ多少ノ輕重アリ。「動」一字ニテ「動必」ト連用スルト同ジク「カナラズ」「ツネニ」ノ意トナルトキアリ。又「動而」「動便」「動輒」「動即」等ノ如ク、連用スルト同ジク、寧ロ、「而」「則」ト通用ヤ「便」「輒」「即」ナドニ多クカ、リテ、「ヤ、モスルト」「トモスルト」「ハヤ此様ニナリ易イ」トノ意トナルトキアリ。今ノ此文ニテハ、後者ニ屬スルモノナリ。大典ノ文語解、卷一參考。

○歳年 歳ハ説文ニ、木星也、越^ニ歷二十八宿、宣^ニ徧陰陽、十二月一次。從^ニ步戌聲トアリ。音セツ、セイ、サイ。歩ハ即チ越歷ノ意、戌ハ恤ナリ。陰陽ヲ宣^ニ徧クシテ萬物ヲ恤

養スルナリ。歳星ノ歩ミ行クコト、一年ニ一次(ヤドリ)。十二年ニシテ天ヲ一周ス。其ノ一次ノ間ニ四時(春夏秋冬)一終ス。此ヲ歳トイフナリ。年ハモト季ニ作ル。説文ニ、穀孰(ジユク)也トアリ。段注ニ曰ク、年者取^ニ禾一孰也ト。四時ヲ經テ穀物ノ一度成就スル間ヲ一年トイフ。故ニ歳ト年トハ、共ニ四時十二月間ノ「トシ」ノ義ニ用キタル。夏ニハ歳トイヒ、商(殷)ニハ祀トイヒ、周ニハ年トイヒ、唐虞ニハ載トイフト爾雅ニ見ユ。歷歳年ハ猶ホ「歷年所」トイフガゴトク、歳月、星霜、年數ヲ經過スルノ意。「年所」ノ「所」ハ、「ホド」「トシノホド」ナリ。「約二里所」トイヘバ、約二里ホド、二里バカリ也。詳キハ第五十一課「可町許」ノ條參照ノコト。

○瞻望 瞻ハ仰視ナリ。遠ク慕ヒ思フナリ。毛詩邶風ニ、瞻望不_レ及、泣涕如_レ雨トアリ。

○歔歔 涙ニムセビナク、ス、リナキスル。歔歔流涕トイフ。

○耿耿然 耿音カウ。暗キ中ニ明ルミノアル貌ニテ、其ノ光明ガ暗黒ニ蔽ハレ、ハッキリセズ、チラ／＼ト不安定ノ中ニアル心狀ヲ耿耿トイフ。毛詩衛風ニ、耿耿不_レ寢トアリ。

○侍養 父母ノ傍ニ奉侍シテ勤勞スルコト。養ハ單ニ食物ヲ供スル事ダケナラズ。第十五課參照。

○耗 音カウ、虛到切、減ナリ、消ナリ。消耗、虛耗、耗散ナドイフ。

○成器 教育勅語ニ、德器ヲ成就ストアリ。器ハ器量、才能、物事ニヤクダツハタラキ。論語ニ、管仲之器、小哉トアリ。然ルニ又、君子不_レ器トアリ。此時ノ器ハ、日用各種ノ家具ノ如ク、其作用ガ、一ツ一ツニ部分的ニナリ、全體トシテ統一ノ作用ヲ缺グタイフ。

○霑 霑潤ナリ。

○惠澤 仁惠恩澤ナリ。

○加民 上ヘ布キ施スナリ。

○優優焉 寬裕平和ノ貌。ユタカニウチクツツログタ。『焉』ハ『然』ト通用。

○沒世 吾ガ一世ヲ終ヘルコト。

○令名 善名。

○庶 近ナリ。

○凶人 凶ハ惡ナリ。凶ハ地中ニ穴アル形、メハ、交叉狀ニ深ク掘リ込_レンデ、此中ニ陷ラシメントスル形、大不吉ノ意ナリ。

○百憂之終 「之」字、「之」ハ「ニ」ナリ。「コレニ」ナリ。第十課「惟學之耽」條參照第五課參照。

○上澣 上澣、上旬ニ同ジ。漢唐ノ制度ニ、朝臣ハ十日ニ一度歸休沐浴セシム。故ニ一箇月中一日ヨリ十日迄ヲ上澣トシ、其後ヲ中澣下澣トイフ。澣ハ澣ニ同ジ。

○伴讀 侍讀、侍講トイフガゴトシ。

○偕行 トモナヒ、ツレダチテユク。

○尾藤一洲 名ハ孝肇、字ハ志尹、二洲ハ其號、又約山ト號ス。通稱ハ良佐。伊豫川江ノ人、父舟ヲ操ルヲ業トス。大阪ニ來リ片山北海ニ學ビ、賴春水、中井竹山等ト交ル。寛政中、徳川幕府召シテ昌平黌教官トス。文化十年、六十九歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、素餐錄、稱謂私言、靜寄軒文集等アリ。

第三十一課 學問之要

○道 人道ナリ。人ノ人トシテ履ミユクベキ道。

○敦行 敦ハ敦厚、篤實、テアツシ。輕薄ノ反對。

○鮮矣 鮮ハ少ナリ。此「矣」ハ、少クナイノデアルノ「ノデアル」ニ當ル。正シクハ「スクナクアリ」「スクナカリ」ト讀ムベシ。

○學問思辨 中庸ニ、博學、審問、慎思、明辨、篤行トアリ。

○貝原益軒

名ハ篤信、字ハ子誠、益軒ハ其號、マタ損軒ト號ス。通稱ハ久兵衛、筑前福岡ノ人。兄存齋ニ學ビ、初メ陸王ノ學ヲ奉ジ、後朱氏ニ歸セシモ、晩年ニ至リ大疑録ヲ著ハシ、朱氏理氣ノ說ニ於テ補正スル所アリ。著書百餘種、多クハ通俗ヲ主トス。正徳四年、八十五歳ヲ以テ歿ス。

○益軒筆蹟

愛是溫和慈惠而不惡ニ於人ニ之心。敬是小心翼翼而不悟ニ於人ニ之心。二者孝親之本。凡悖ニ人倫ニ之道、皆以此爲本。落款ニ、貝原篤信、子誠之印トアリ。悟或ハ悟ニ作ル。抵悟、抵牾同ジ、逆フナリ。

第三十二課 深耕說

○空華叟

僧義堂、名ハ周信、別ニ空華道人ト號ス。土佐高岡ノ人。絶海(中津)ト共ニ五山文學ノ翹楚ト稱セラル。夢窓ノ會下ヨリ出デ、圓覺、建仁、南禪等ニ歴住ス。嘉慶二年、六十四歳ヲ以テ寂ス。著ハス所、空華集、日工集等アリ。叟ハ長老ノ稱。

○桑柘 柘音シヤ、又、ソ。山桑、野桑ナリ。

○諸 之乎ノ切。

○爲 所爲。

○所以 所由ナリ。

○肥碩 碩音セキ、大ナリ。碩果、碩儒、碩學、碩德ノ如シ。

○稼 穀物ノ植付。稼穡ト連用ス。穡ハ、カリトルコト。

○弗專 專注スルコトガデキヌ。

○中 中心、心中。

○端介然 端ハ、名ノ一字、介然ハ字號。信義堂、津絶海トイフガ如シ。

第三十三課 格言四則

○學而
 論語首章。卷頭ニ、津藩ニ傳へ來レル、菅公手寫本ノ影印ヲ掲ゲタリ。朱ヲ以テ袁乎止點ヲ施シアリ。卷一第四課參照。「學」ハ覺ナリ、效(ナラフ)ナリ。「而」ハ緩辭ナリ。

○時習之
 時ハ時時ナリ。習ハ禮記ノ月令篇ニ、鷹ノ子ガ飛ブ事ヲ「學習」ス、トアル「習」ニテ、羽ニ從ヒ、白ニ從フ。羽ハバタ／＼ト羽々、キスルナリ。白ハ古ノ鼻ノ字、鼻ヨリ氣ヲスウ／＼出シテ努力スルナリ。先ヅ學生ヲシテ鷹ノ子ノ學習ニ連想セシメ、次ノ有朋ニテ鳳凰ノ來ルニ連想セシメ、不知不識ノ中ニ學問ノ興味ヲ惹キ起サシム。是レ編纂ノ妙ヲ得タル所。

○不亦說乎
 說ハ悅ト通用。悅ハ古兌字、兌ハ内部ノヨロコバシキ氣ガ口ヨリ出ル象形。習ト相應ズ。中心ノ愉悅、次ノ「樂」ニ至リテハ、モト音樂ノ樂ト通用スルモノニテ、外部ニ舞蹈トナリテアラハル、様ニ喜ビタノシムコト。朋字ト相應ズ。「乎」ハ反語的疑問。

○有朋
 「有」ハ古本ニ「友」ト作レル如シ。友ハ古文、友ナリ。手ニ手ヲトツテ、トモダチトナル形ナリ。有ハ古文、有ナリ。右手ニテ肉ヲ高クサシ上ゲ、茲ニ食フベキ肉アリト示スナリ。又ト似テ寫シ誤レルナラントイフ。シカシ、今デハ「有」ト讀ミ置ク

モ可ナリ。朋ハ古文鳳凰ノ鳳ト同ジク、又鳥ニ作ル。鳳鳥天空ヲ翔レバ、羣鳥來リ從フモノヲ以テ數フトイフ。而シテ聖人大德者アル時出デ來ルトイフ。今道德ヲ修養シ、段段成就シユク者ニ向ツテ遠方ノモノ迄ガ志ヲ同ジクシテ慕ヒ親シミ來リテ、仲間入ヲスルニ至ルコト、鳳鳥ノ羣飛和鳴シテ來ルト同ジク、喜ビ樂シムベキタイフ。樂ハ鼓琴ナドノ臺上ニ見ユル象形ナリ。漢文ヲ讀ムモノハ、常ニ象形文字ノ視覺ノ印象ニ大關係アルヲ忽略ニスベカラズ。論語首章ノ如キ殊ニ然リトス。

○不愠
 愠ハ心中ニ鬱シテ、ムセ／＼ト不平ヲ抱クコトナリ。

○君子
 人格ノ完成、是レ學習ノ目的トスル所。故ニ論語ノ最末章ニモ、不知命無以爲君子也ト出シテ全體ノ總結トセリ。此章ト相應ズルモノニテ、「亦編者ノ用意周密ナルヲ見ルナリ。

○以思
 「以」ハ「ノデ」、「思」ハ 思索ナリ、思索スルナリ。

○謂
 言ノ意(オモヒ、意味)ヲ主トスルモノ。單ナル發言ニアラズ。心中ニオモフ、意味スル、意味シイフ、意ヲ傳ヘイフ、ナドノ場合ニ用キラル。

○亦不能學矣
 此「不」ハ「ジ」ト讀ムヲ可トス。「デキマイ」ナリ。「ザラン」トイフモ亦可。

第三十四課 訓點

○訓點 訓ハ訓點ナリ。點ヲ訓ズルナリ。點ハ又「故」ニ作ル。古語ナリ。訓ハ讀ナリ、解ナリ、釋ナリ。現代ノ通用語ヲ以テ、古代通用ノ言語ヲ讀解スルナリ。本邦古時訓讀ノ法、點圖ヲ用キタリ。後假名ヲ用ユルニ至ツテモ、猶ホ訓點トイフモ其實最早點ニハアラズ。左記ノ一文ハ、モト本課ノ後ニ附記セルモノナルモ、都合アリテ削除セルモノナリ。茲ニ載録シテ參考ニ供フ。

往昔漢文訓點之法、有^テ袁古刀點者。於^ニ字體四隅上下、施以^ニ諸種朱點、用爲^ニ氏爾乎波之符號。菅原、大江諸家所^レ傳點例、皆有^ニ同異。及^ニ後世片假名之用漸多、乃以^ニ送假名^ニ代^ニ朱點、又以^ニ返點^ニ加^ニ於^ニ一側、總稱爲^ニ訓點、又俗稱爲^ニ捨假名。自^レ是^レ一定之讀法、通行于世、而袁古刀點例遂廢矣。

本卷首ニ掲ゲタル菅公手寫本論語中ニ見ユル袁手刀點ニ就キテハ已ニ卷一第四課ニ説明シ置ケルガ、今尙念ノ爲メニ此ニ關係アルモノニテ、羣書類從ニ載セラレタル、經家點圖中ノ數種ヲ列記シテ參照ニ資セン。續々羣書類從ニ見ユル菅家點モ大體コレニ同ジ。紀傳家ハ別ニ又特種ノモノアリ。又佛家ニテハ、寺院ニヨリテ種々様々ナリ。

右六種中第五六ハ、菅家點ニテハ左ノ如クナレリ。

Diagram 1: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: アリ (top-left), ヨリ (top), ヘリ (top-right), タリ (right), セリ (right), ケリ (right), レリ (bottom).

Diagram 2: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: アリ (top-left), ヨリ (top), ヘリ (top-right), タリ (right), セリ (right), ケリ (right).

Diagram 3: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: ナ (top-left), ヌ (top), ツ (top-right), ス (right), ム (right), ト (right), ハ (right).

Diagram 4: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: ナ (top-left), ヌ (top), ツ (top-right), ス (right), ム (right), ト (right), ハ (right).

Diagram 5: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: ナ (top-left), ヌ (top), ツ (top-right), ス (right), ム (right), ト (right), ハ (right).

Diagram 6: Square frame with dots at corners and midpoints. Labels: ナ (top-left), ヌ (top), ツ (top-right), ス (right), ム (right), ト (right), ハ (right).

此等ハ大體ノ定式ナレド、實際ハ人ニヨリ、時ニヨリ多少變化アリシガゴトシ。

○人之 人此物ガ。

○邈

音バク、マク。モト邈ニ作ル。遙ナリ、遠ナリ。又、人ヲ輕視シ遠ザクル意ニモ用ユルコトアリ。藐ト通用。但シ藐ニハ眇ノ音義モアリ。

○將

此ノ字、欲然ヲ本義トス。「マサニ……セントスル」ト讀ミテ可ナルモ、上ノ文意ヲ翻ヘスガゴトキ場合ニ、「ハタ」トモ讀ム。「カク／＼デアルノニ」「カク／＼デナクバ」ナドイフ時ナリ。此時ハ其中ニ、「カク／＼ナラム」トノ意ヲ含ムモノト知ルベシ。

○焉

安ナリ。

○聖經賢傳

經ハ聖人(周公、孔子ノ如シ)ノ制定セルモノニテ古今ニ通ズル常法、傳ハ賢者(曾子、子思、孟子、荀子ノ如シ)ガ聖經ヲ解釋傳注セシモノ。

○待訓點

支那ニモ漢代ニ至リ訓點ノ學盛ニ起リシモ、此訓點ノ訓ハ、無論本邦語(支那語ノ本邦語トナリシモノヲ含ム)ヲ以テ訓讀スルコトナリ。

○始通

第十七課「始」條參照。

○寓

寄ナリ、屬ナリ、宿トリ居ルナリ。

○黃備公

吉備眞備。又眞備ハ眞吉備ニ作ル。本姓ハ下道朝臣、世々吉備國ニ居ル。吉或ハ黃ニ作ル。元正天皇靈龜二年、遣唐留學生トナル。時二年二十四。唐ニ在ルコ

ト十七年、經史ヲ研修シ衆藝ニ該涉ス。阿部仲磨呂ト共ニ名ヲ彼土ニ播ク。天平七年歸朝ス。孝謙天皇東宮ニ在リシ時、爲メニ禮記、漢書ヲ授ク。天平勝寶四年、遣唐副使トナリ再ビ唐ニ赴キ玄宗帝ニ謁シ、六年歸朝ス。眞備、文武ヨリ光仁ニ至ル七朝ニ歷仕シ、律令、武備、文藝、學術皆力ヲ盡サバハナク、大學釋奠ノ儀ノ如キモ、眞備ニ至リ始メテ大ニ備ハルトイフ。著ハス所、私教類聚三十八條アリ。寶龜六年、八十三歳ヲ以テ歿ス。片假名ハ眞備ノ作ル所ナリト傳ヘラル。物徂徠嘗テ曰ク、昔在遠古、吾東方之國、混混乎罔ニ知覺。有王仁氏、而後民始識字。有黃備氏、而後經藝始傳。有菅原氏、而後文史可誦。有惺窩氏、而後人人言則稱天、語聖。斯四君子者、雖世尸ニ祝乎學宮ニ可也。(與都三近書)ト。

○天縱

我がシタキコトヲホシイマ、ニシテヨイ様、天ガ自由ニサシテクレルコト。天ガ束縛ヲ加ヘズ、十分ニ才德ヲ發揮セシムルコト。論語子罕ニ、子貢ガ、吳ノ大宰ノ孔子ノ事ヲ問ヘルニ對ヘタル言ニ、固天縱之、將聖。又多能也トアリ。

○典雅

典ハ典型トナリ得ルコト、雅ハ正ナリ。

○粲然

鮮明ナル貌。粲ハ白米。然ハ「ソノ通りニ」。

○慶元

慶長、元和。

○偃武

武器ヲ伏セテ復ト用キヌコト。偃戈、偃甲、偃革トモイフ。

○惺窩 藤原惺窩、名ハ肅、字ハ欽夫、惺窩ハ其ノ號、又北肉山人ト號ス。播磨ノ人。初メ僧トナリ名ヲ薺トイヒ、妙壽院ト號セシモ、儒ニ歸シ、足利氏以後、文教地ヲ掃ヘル中ニ卓然トシテ獨リ聖道ヲ唱ヘ、遂ニ近世文學ノ祖トナル。元和五年、五十九歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、惺窩集アリ。

○羅山 林氏、名ハ忠、一名ハ信勝、字ハ子信、初メ又三郎ト稱シ、後道春ト改ム。平安ノ人。其先ハ加賀ノ人ナリ。惺窩ニ學ビ、徳川幕府ニ仕ヘ文教ヲ振起ス。子鶯峯(名ハ恕、一名春勝、稱春齋)孫鳳岡(名ハ信篤、別號整字)等世々朱氏ノ學ヲ傳フ。羅山明曆三年、七十五歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、羅山文集アリ。

○爲之訓點 宋儒ノ著書ニ和訓ヲ加ヘ始メシハ、五山時代ノ僧岐陽ヨリ桂庵ニ傳ヘ、薩摩ノ文之、更ニ承ケテ略ボ之ヲ整理ス(日本教育史資料、鹿兒島藩ノ部參考)。惺窩、羅山ノ和訓(所謂道春點)モ之ニ本ヅクトイフ。別ニ山崎闇齋ノ和訓、所謂闇齋點アリ。土佐ニ在リテ野中兼山等ト研究セシ所ナリ。

○爲之 「爲之……」ハ多クハ「爲」ヲ去聲ニ讀ミ「之ガ爲メニ」トスル方適當ナリ。「之」ヲ下ニ連ヌレバ、猶ホ「其」ノゴトシ。

○夫子 モト大夫ノ位ニ在ル者ノ稱呼ナリシモ、後孔子ノ特稱トナリ、又先生教師及ビ一般人ノ敬稱トナル。「夫」ノ字ハ、大人(大)ガ頭髮ニ笄(一)ヲ挿シタル意ヲ示セルモノニテ、冠ヲツケテ朝廷ニ出仕スル立派ナル人ヲ表ハス。「子」ノ字モ、人ノ尊稱トシテ用キラル。

○日尾鐸 日尾荆山ノ子。次條參照。

○訓點復古 日尾荆山ノ撰。荆山名ハ瑜、字ハ徳光、宗右衛門ト稱ス。武藏秩父ノ人、安政六年、七十一歳ヲ以テ歿ス。江戸谷中本通寺ニ葬ル。著ハス所、訓點復古ノ外、四書折衷辨斷、韻鏡往來反切私説等アリ。訓點復古ハ、貝原益軒ノ點例、太宰春臺ノ倭讀要領ト共ニ、漢文讀方集成(赤堀氏校訂、東洋社刊行)ニ收メラル。

○義 意義。

第三十五課 教學之變遷

○教學 教ハ教化、教育、文教。學ハ學術、學藝。

○金澤文庫 武藏金澤稱名寺内ニ在リ。建長文永間、金澤實時、顯時等ノ經營スル所ニ係ル。

○足利學校 下野足利郡ニ在リ。承和中、小野篁、國主タリシ時、創建スル所ナリト傳ヘラル。永享中、上杉憲實之ヲ修理シ、其後快元、九華、閑室(三要)等ノ緇徒此ニ居タリ。

○緇衣 僧衣、黒衣、スミゾメノ衣。僧侶ヲ緇徒緇流トイフ。披緇ハ、緇衣ヲノベマトヒテ僧トナルコト。

○尋 マモナク、オツツケ、ツイデ。モト、タヅネ追ヒカケルノ義。

○碩 第三十二課ニ見エタリ。

○焉 「ソコニ」ナリ。

○佈 布ト通用、徧クシキワタスナリ。

○蒸蒸 火氣水氣ナドノ上騰スル貌。雲蒸龍變トイフコトアリ。尙書堯典ニハ、以孝蒸蒸トアリ。

○爐 火爐、キロリ。又壇ニ作ル。第三十五課参照。

○每 戦フゴトイツデモ。「常」ヤ「恒」ト異ナリ。

第三十六課 松下村塾

○松下村塾

松下村ハ長州萩城ノ東郊護國山下ニアリ。吉田松陰ノ生地ナリ。村塾ノ名ハ松陰ノ叔父玉木文之進ヨリ用キラレ、松陰之ヲ襲グ。

○吉田松陰

名ハ矩方、字ハ義卿、初メ大次郎ト稱シ、後寅次郎ト改ム。松陰ハ其號、又二十一回猛士ト號ス。本姓杉氏、出デ、吉田氏ヲ嗣グ。年十一、藩侯ニ召サレテ山鹿素行ノ武教全書ヲ講ズ。嘉永二年、年十九、九州ニ遊ビ、平戸ニ山鹿氏ヲ訪ヒ、其兵學ヲ

受ク。二十、江戸ヨリ東北地方ニ遊ブ。嘉永六年米艦浦賀ニ來ル。天下騷然。松陰、佐久間象山ノ門ニ入りテ教ヲ受ケ、長崎ニテ露艦ニ乗ジ、外遊セントシテ果サズ。安政元年、下田ニテ米艦ニ乗ゼントシテ、又果サズ。罪ヲ獲、江戸ヨリ野山ニ送ラル。後赦サレ家ニ在リ。時勢論ヲ作り、再ビ獄ニ投ゼラレ、江戸ニ送ラレ、六年六月二十七日刑セラル、時二年三十。卷一第五課不掬糞水、卷三第四十一課士規七則参照。

松陰詠草ノ一二

かくすれば、かくなることゝ、しりながら、やむにやまれぬ、大和魂。

身はたとひ、武蔵の野邊に朽るとも、留め置かまし、大和魂。

親思ふ、心に勝る親心、今日のおとづれ、何と聞くらん。

○初 當初。

○家叔先生

右ノ玉木文之進ヲ指ス。松陰幼時之ニ師事ス。明治九年、前原一誠ノ亂ニ、門人數名之ニ黨シテ死傷アリ。文之進慨然トシテ曰ク、是我ガ平素ノ教育其ノ宜シキヲ得ザルノ致ス所ナリ。何ノ面目アリテカ、父兄ニ對シ且ツ子弟ヲ教ヘンヤト、先塋ノ側ニ自殺セリ。行年六十七。

○扁 字義ハ「ヒラタシ」ニテ、凡ソ門戸ニ掲グル門牌、標札ヤ、室内ニ掲グル扁額ナドヲ稱ス。

- 已而 ソウシテ居ル中ニマタ。第二課「既」字條參照。
- 外叔 母方ノ叔父。久保氏ヲ指ス。
- 邑 「村」ト通用スレド、村里ヨリハ多ク人ノ聚合セル所ヲ指ス。都ニ次グ所ナリ。
- 沿用 襲用。
- 頃 頃者、頃日トモイフ。コノゴロ、チカゴロ、比時ナリ。此字ハ、モト俄頃、頃刻ナドト用キ、ワヅカノ時間ヲ表ハスモノ。
- 學所以 「爲人」ノ下ニ、「之道者」ノ三字ヲ添ヘテ看ヨ。學所以爲人之道者也。
- 係 繫ニ同ジ。
- 孝悌忠信 孟梁惠王上ニ、壯者以暇日脩其孝悌忠信、入以事其父兄、出以事其長上トアリ。
- 係焉 焉ハ上文ノ塾ヲ受ク。
- 華夷 中華ト外夷。山鹿素行ノ中朝事實ニ、日本ヲ稱シテ中華トイフ。
- 六百餘年 鎌倉幕府政治創始以後ヲイフナラン。
- 遺 遺忘ナリ。第十七課ニ見エタリ。

- 勝區 勝ノ字ハ第六課ニ、區ノ字ハ卷一第三十三課ニ見エタリ。
- 西陲 音ソウ、シウ。慣用音スウ。隅ナリ。僻陲、邊陲。
- 奮發 奮起セシムルナリ。
- 春畝 博文伊藤侯ノ雅號。村塾ニ在リシ時ハ俊介トイヘリ。
- 倫 龍春切、眞。
- 德 多則切、職。
- 敍彝倫 尙書洪範篇ニ、彝倫攸叙トアリ。彝ハモト宗廟ニ備ヘ置ク鐘鼎ノ類ナレド、常道ノ義ニ用キラル。倫ハ倫理。敍ハ次序スル、整頓スルナリ。彝ハ或ハ誤リテ彝ニ作ラル。
- 精忠 純忠トイフガ如シ。
- 明神 明カナル神、周禮ノ司盟ニ見ユ。「漢代ニハヨク、「死シテハ明神トナル」ト言ハレタリ。
- 如今 タマイマ、現在。
- 廊廟 廊ハ廊廡デ、家屋ノヒサシ。廊廟ハヒサシノアル堂、オモテ御殿、政事ヲ執ル所、正殿、廟堂トモイフ。

○棟梁器

ムナギヤ、ウツバリナド、家屋構造上重要ナル材ノ如ク、一國ノ重任ニアタル器量。直ニ廊廟ノ器、廊廟ノ具トモイフ。

○多是

「是」ハ「デアル」ノ義、「爲」ト同意。伊藤、山縣、品川、井上等諸氏、維新ノ元勳、明治ノ宰相大臣タリ。

第三十七課 松下聯壁

○高杉晋作

文久元年擢ンデラレ長藩主世子ノ近侍トナル。翌年幕吏ニ從ヒ上海ニ航シ、海外ノ形勢ヲ窺フ。尋デ江戸ニ遊ビ、御殿山洋人ノ館ヲ燒カントシテ果サズ。通レテ京都ニ奔ル。遂ニ歸藩シ、自カラ松下村ニ幽居ス。藩主攘夷ノ舉ヲ謀リ、馬關ノ役、長軍利アラズ。晋作奇兵隊ヲ組織シ、自カラ隊長トナリテ之ヲ馭ス。既ニシテ亡ゲテ復タ京都ニ入り、久阪通武等ト勤王ヲ唱ヘントシ、成ラズシテ還リ、野山獄ニ下サル。外艦復タ來リテ馬關ヲ攻ム。晋作復タ起用セララル。藩内黨議ノ起ルヤ、晋作奇兵隊ヲ率キテ俗論黨ヲ破ル。徳川幕府大ニ問罪ノ師ヲ興シ、四境ヨリ來リ撃ツ。晋作、井上聞多、大村益次郎ト各地ニ轉戦シ、幕兵ヲ退ケ事ツヒニ平グ。偶、晋作病ヲ獲テ馬關ニ歿ス。時ニ慶應三年四月、行年二十九、或ハ曰ク三十餘歳ト。

○英邁 第二十四課ニ見エタリ。

○素 元來、以前ヨリ。

○久阪元瑞

初名ハ誠、後通武ト改ム。字ハ實甫、元瑞ハ其稱、後義助ト改ム。江月齋ト至ル。翌年再ビ江戸ニ遊ビ、芳野金陵ノ門ニ入りテ學ブ。是ヨリ東西ニ奔走シ大ニ勤王攘夷ノ論ヲ唱フ。元治元年討幕ノ舉ヲ謀リテ成ラズ。三條公以下七卿ヲ奉ジテ長門ニ還ル(第五十八課參照)。更ニ兵ヲ率キテ京都ニ入り、松平容保等ヲ殺サントシテ蛤御門ニ戦ヒ、創傷ヲ被リ、山崎ニ退キ、屠腹シテ死ス。時ニ二年二十六。著ハス所、江月齋遺稿アリ。其作七卿西下ノ歌ハ最モ有名ナリ。

○攻苦 攻ハ治ナリ。攻究ナリ。

○動 第三十課ニ詳ナリ。

○抑 抑制ナリ。

○適 第九課ニ見エタリ。

○岡本章庵

名ハ監輔、徳島藩士ナリ。美馬郡三谷村ニ生ル。文久三年、單身樺太ヲ探檢シ、大ニ其開拓ニカム。後、東京大學豫備門、第一高等中學校ノ教職ニ當リ、又徳島縣尋常中學校長タリ。明治三十七年歿ス。著ハス所、先覺志ノ外、窮北日記、儒學精彩、清國紀行、千島聞見録、北游吟草等アリ。

第三十八課 朋友箴

○方正學

明ノ方正學、名ハ孝孺、字ハ希直、一字ハ希古、正學ハ其書齋ノ號ナリ。寧海(浙江省)侯城ノ人ナリ。正學幼ニシテ警敏、讀書日ニ寸ニ盈ツ。鄉人目シテ小韓子(韓退之ヲ大韓トス)ト爲ス。長ジテ宋景濂ニ從ヒテ學ブ。恒ニ王道ヲ明ニシ太平ヲ致スヲ以テ己ガ任ト爲ス。惠帝ノ時翰林博士ト爲リ、侍講ニ遷ル。燕王兵ヲ起シ、南京ニ入り、帝自ラ焚ク。正學亦執ヘラレ、獄ニ下サル。燕王自立シテ皇帝ト稱シ、正學ヲ召シ、筆札ヲ授ケテ詔書ヲ草セシム。正學筆ヲ地ニ投ジ、且ツ哭シ且ツ罵ル。燕王怒リ、命ジテ之ヲ市ニ磔ス。時ニ年四十六。正學文章ヲ工ニシ、醇深雄邁ナリ。永樂中、其文ヲ藏スルモノハ、罪死ニ至ル。門人潛ニ錄シテ侯城集ト爲ス。因ツテ亡ビザルヲ得タリ。重野先生(見ニ第四十七課)嘗テ予ニ告ゲテ曰ク、正學ノ文、用語雅馴。下字穩當、尤モ學者作文ノ軌範トスルニ足ルト。(第五第八課 慧窩記參照)眞ニ然リ。

○箴

諸深切、**侵**針ナリ、鍼ナリ。病ニ鍼スルヨリ轉ジテ、イマシメトナリ、箴訓、規箴、箴砭(シンベン、砭ハ石バリ)ト用キラル。

○押韻

十一眞。

○損友

論語季氏篇ニ、孔子曰、益者三友、損者三友。友直、友諒、友多聞、益矣。友便辟、友善柔、友便佞、損矣トアリ。

○敬遠

論語雍也篇ニ、樊遲、知ヲ問フ、子曰ク、務ニ民之義、敬ニ鬼神ニ而遠之、可謂知矣トアリ。

○相親

論語學而篇ニ、汎愛衆而親仁トアリ。

○賢哲

賢ハ説文ニ多才也トアリ。玉篇ニハ、有ニ善行ニ也トアリ。又禮記ノ投壺篇ニハ、某賢ニ於某ト見エ、勝(マサル、スグル)ヲ以テ賢トセリ。哲ハ爾雅ニ、智也トアリ。尙書洪範ニハ、明作哲ト見ユ。古文ニハ轟ニ作ル。

○君子

有德者、人格高尚ナルモノ。

○淡如水

禮記ノ表記篇ニ、君子之交、淡如水。小人之交、甘如醴トアリ。

○眞

誠ナリ、實ナリ。

○甜如蜜

甜ハ徒兼切、又恬ニ作ル。甘ナリ、一美ナリ。蜜ハ蜂蜜、甜言如蜜トイフコトアリ。

○轉瞬

轉瞬ノゴトシ。速ナリ。

○仇人

仇ハ仇怨、仇視、仇敵、仇讎ナリ。此箴押韻十一眞。

第三十九課 君子五樂

○佐久間象山

卷一第五十課ニ見エタリ。此ノ一篇ニ象山ノ著、省譽録ニ見ユ。譽ハ愆ト子明、通稱ハ啓之助、後、修理ト改ム。信濃ノ人ナリ。松代藩ニ仕フ。松代ニ象山アリ。因ツテ以テ號ト爲ス。幼ニシテ穎悟、神童ノ稱アリ。十歳ニシテ能ク詩ヲ作ル。長ジテ江戸ニ遊學シ、漢學ノ傍、又蘭學ヲ修ス。天保中上書シテ海防八策ヲ論ズ。嘉永中米艦ノ來泊スルヤ、門人吉田松陰(第三十六課參照)ノ外遊ヲ贊シ、爲メニ旅費ヲ與ヘ、又送別ノ詩アリ。曰ク、之子有ニ靈骨。久厭ニ蹙蹙群。(アシナヘノ連中)。振衣萬里道。心事未語人。雖則未語人。村度或有因。送行出郭門。孤鶴橫秋旻。環海何茫茫。五洲自爲鄰。周流究形勢。一見超百聞。智者貴投機。歸來須及辰。不立非常功。身後誰能賓。松陰下田ニ於テ逮捕セラル。行李中ニ送別ノ詩アリシニ因リ、象山モ亦累リテ、共ニ江戸ノ獄ニ下サル。省譽録ハ即チ獄中ニ成ル所ナリ。後赦サレテ松代ニ還リテ閉居ス。其間高杉晉作來リ調シ、松陰ハ江戸ニ刑セラル。櫻賦ヲ作り、天覽ヲ被ムル。是時ニ當リ、攘夷ノ說盛ニ起ル。象山獨リ開港ノ說ヲ持ス。將軍徳川家茂、京師ニ徵シテ時務ヲ諮フ。水戸藩士、攘夷ノ詔ヲ請フニ至リ、象山爲メニ利害ヲ陳ゼントシ、疏ヲ袖ニシテ山階親王ノ邸ニ詣ル。途中木屋坊ニテ刺客ノ爲メニ殺サル。實ニ元治元年七月十一日ナリ。時ニ年五十四。象山人ト爲リ魁梧、面長クシテ軀幹八尺ニ及ビ、眼光人

ヲ射ル。人仰ギ視ル能ハザルモノ、如カリキトイフ。象山遭難後八日、長兵遂ニ蛤門ニ至リ、久阪等ノ戰死セシコト、第三十七課ニ見エシガ如シ。

○不與焉 焉ハ上ノ「五樂」ヲ受ク。

○骨肉 父子兄弟ノ間ノ親密ナル關係ヲイフ。

○罅隙 ナカチガヒ。罅ハ物ニアル、ヒビ、ワレメ、間隙。

○廉潔 第二十二課ニ見エタリ。

○妻孥 通俗ニ妻子ノコト、ス。實ハ孥ハ「奴」ニテ、昔罪人ヲバ沒收シテ奴婢ニ充テ、之ヲ「孥」トイヒシナリ。尙書ニ、孥戮トイフコトアルハ是ナリ。

○愧 心中ニ慙羞スルコト。

○作 ハヂテ、キマリワルク、顔色マデカハルコト。禮記ノ曲禮篇ニ、容毋作トアリ。

○聖學 聖人ノ人格、道德ヲ目標トスル學問。今ノ哲學ヤ、諸科學ト異ナリ。東洋ニ於テ特種ノ發達ヲナセル者。

○夷 平ナリ、易ナリ。

○生平 「乎」ハ「於」ト通用スレド、「乎」ハ單ニ「ニ」ノ訓ニ當ルノミナラズ、稍ヤ感動ノ意ヲ帶ビ、上ノ字(「生」ノ如シ)ニ餘勢ヲ添フル趣アリ。

○理窟 雜多ノ理義ノ旋纏シテ集マレル所。晋書ノ張憑傳ニ、勃窣爲ニ理窟トアリ。勃窣ハ又勃卒ニ作ル。韻會ニ旋放ノ貌トアリ。宋ノ張橫渠ニ理窟トイフ書アリ。

○啓 開ナリ、發ナリ。此ニハ西洋諸科學ノ理論ノ進歩ヲイフナリ。

○東洋道德 以下一節眞ニ千古ノ鐵案ナリ。

○藝術 工藝技術。

○精粗表裏

道德ハ東洋精ニシテ西洋粗。藝術ハ西洋精ニシテ東洋粗。藝ハ表面ノ形式、道德ハ裏面ノ精神。

○遺 遺失、ノコス、オトス。第十七課ニ見エタリ。

○兼該 該ハ兼備ナリ、兼通ナリ。

○因 第十五課參照。

○澤 惠ミ潤ス。澤潤、澤濡ナドイフ。

○民物 生民庶物。

○仰不愧天

孟子盡心上ニ、君子有ニ三樂。而王ニ天下ニ不ニ與ニ存焉。父母俱存、兄弟無故(他故ナリ)、一樂也。仰不愧於天、俯不作於人ニ二樂也。得ニ天下英才ニ而教ニ育之、三樂也トアリ。

○帑 金庫ナリ。又「孳」ニ通用ス。

○核 下革切。果實ノ心。核子トモイフ。タネ、サネナリ。其中ニ仁ヲ含ム。活字トシテハ、屢ニ通用シ、十分シラベ、明カニスルコト。綜ニ核名實トイフ。

○還 戸關切、剛。

第四十課 赤馬關

○灘 他丹切。急瀬ナリ。俗ニ「ナダ」ニ當ツ。

○行 ミチスガラ、ユクマ、ニ。ユク／＼ト讀ム。

○欲盡 「欲」ハ「將欲」ナリ。

○鎮西 九州。

○伊形靈雨

名ハ質、字ハ大素、莊助ト稱ス。父祖世々農ヲ業トス。靈雨ニ至リテ始メテ學ブ。人ト爲リ卓犖ニシテ豪才アリ、弱冠ニシテ熊本ノ學館ニ遊ブ。詩名尤モ高ク、藪孤山以テ李太白ノ再生ト爲セリ。天明七年、四十三歳ヲ以テ歿ス。此詩世多クハ孤山ノ作トセルハ謬レリ。樂洋集ハ孤山ノ編纂ニ係リ、熊本藩人ノ詩ヲ採録セリ。此一首ノ如キ、氣格高朗、眞ニ孤山ノ言ニ負カザルヲ覺ユ。宜シク生徒ヲシテ暗記諷誦セシムベシ。

○廣瀬淡窓 第十五課ニ見エタリ。

○天 他前切、**先**。

○伏敵門頭 箱崎神社ノ門頭、敵國降伏ノ勅額アルニヨリカクイフ。次課ヲ見ヨ。

○當時築石 王朝時代ヨリ、太宰府ニ海防ノ堡壘ヲ築ケリ。

○元兵没海 弘安四年五月、元兵十萬來寇、暴風忽チ起リテ皆玄海洋ニ沈没ス。生還者僅ニ三人。

○絃歌 絲竹トイフガ如シ。下ノ天下昇平ノ象ヲ示ス。

○昇平 日ノ昇ルガ如ク豊ニ榮エタル、泰平ノ世。

○有象 上ノ春浦月ニ城郭ノ影ノ靜ニ映ゼルコトヤ、暮洲ノ煙ニ絲竹ノ聲ガ微ニ聞エ居ルナドノ現象ヲ受ケ收ム。

○賈船 酒ヤ魚ナドノ物ヲ載セテ賣レル船。

第四十一課 箱崎祠

○丹碧 赤ヤミドリノ色ニテ、堂宇ナドヲ塗レルヲ指ス。

○莊麗 莊嚴美麗。

○額 ヒタイ(額)トイフ字ナレド、此處デハ扁額タイフ。第三十六課「扁」字條參照。

○延喜帝 醍醐天皇ノ御親筆紺紙金字三十七枚、今猶宮中ニ藏セラル。額面ノ字ハ其一枚ヲ廓大セシモノナリ。此敵國ハ、當時ノ新羅國ヲ指ス。

○蜿蜒 龍蛇ノウネリユク狀。

○碧環 環ハ輪狀ノ玉。第一課ニ見エタリ。

○州渚 州ハ洲ト通用。ス、シマ。爾雅ニ、水中可居曰洲トアリ。マタ爾雅ニ、小洲曰渚トアレド、渚ハ多ク水邊、水涯、ナギサ、ミギハ、ノ意ニ用キラル。

○淺沙 沙ハ砂ナレド、マタ水汀ノ砂ノアル所、水濱タイフ。

○澹濫 アツサリトシテ漂ヒ動ク、濫ノ字ハ第二十八課ニ見エタリ。

○白沙 此ノ沙ハ砂礫ナリ。

○機房 機械工場。

○街衢 街道巷衢、大通リト小路。

○輻湊 輻ハ車ノ「ヤ」、轂(コシキ)ト輪トサ、ヘル木。湊ハ又輳ニ作ル。車ノヤノ轂ニ集中スル如ク、物事ノ一所ニ集中シ來ルタイフ。湊ハ水ノ進ンデアツマルコト、第

○鹽谷宕陰 第十五課參照。

○語次 物語ノツイデニ。

○託孤寄命 次課ニ出ス。孤ハ此處デハ秀頼ヲ指ス。

○爾時 爾ハ「此」ナリ、「其」ナリ。

○何謂 謂ハ意味スルコト。第三十三課「謂」字條參照。

○乃者 サキツコロ、センダツテ、コノアイダ。秦策ニ、秦乃者過ニ柱山。史記曹相國世家及漢書曹參傳ニ、乃者我使諫君也トアリ。顏師古注ニ曰ク、乃者猶言曩者ト。「乃昔」ト同用。阮籍ノ勸晋王濂ニ、乃昔以來禮典舊章云云トアリ。要スルニ「乃者」ハ往時ニシテ、「往者」トイフガゴトキモ、其今ヲ去ル未ダ久シキヲ經ザル間ナリ。

○戎狄 西戎北狄。

第四十三課 格言三則

○松柏後凋

論語子罕篇。凋又彫ニ作ル。説文ニヨレバ、凋ハ半傷、彫ハ琢文ナレド、通用スレバ同ジ。淮南子俶眞訓ニ、大寒至、霜雪降、然後知ニ松柏之茂也トアリ。莊子讓王篇同ジ。中井履軒曰ク、後凋ハ不凋ナリ。春秋傳ニ、人ノ善ヲ稱シテ「後亡」ト

言フコト此ニ同ジト。何晏ノ注ニ、大寒之歲、衆木皆死、然後知ニ松柏小ニ彫傷トアリ。「小」ノ字ハ猶ホ「無」ノゴトキナリ。

○道理云々

藤田東湖ノ回天詩史ニ、東坡ノ此語ヲ引キテ曰ク、余深ク此語ニ服シ、亦擧ゲテ以テ子弟ヲ勵マス。以爲ラク蘇氏ノ斯ノ語、以テ孟子ノ浩然之氣ニ注スベキナリト。道理ノ理ハ義理ナリ。史記ノ鄒陽傳ニハ、德淪于骨髓トアリ。

○曾子曰 論語泰伯篇。

○六尺之孤

孔注ニ幼少之君、鄭注ニ、年十五以下トアリ。物徂徠曰ク、周ノ一尺ハ今ノ曲尺七寸二分ナレバ、六尺ハ四尺三寸二分ニ當ルト。

○寄 説文ニ託也トアリ。

○百里 諸侯ノ封國、百里ヲ過ギズ。

○命 其國內ノ政令ナリ、號令ナリ。

○大節 國ノ大事。

○奪 傾奪ナリ。人格ヲ失ヒ去ルコトナリ。

○君子人與

君子人ハ眞ニ卿大夫タルニ足ル人格アルモノ。「與」ハ「カ」ト讀ムトモ疑辭ニハアラズ。猶ホ「ヨ」トイフガゴトク、君子人デ「アロウヨ」ト推想スル

ナリ。「也」ハ「ダ」「ヂヤ」。

第四十四課 泊天草洋

○越 王伐切、**月**。一韻到底。古體。

○雲邪山邪

山陽ノ西遊スルヤ、携ヘテ韓蘇詩鈔アリ。舟中ニ筆ヲ援リテ間々批評ヲ加フ。此詩起手粉本ハ、東坡ノ書ニ王定國所藏烟江疊嶂圖ノ起手タル、江上愁心千疊山。浮空積翠如雲烟。山耶雲耶遠莫知。烟空雲散山依然。ノ四句ニ在ルヲ疑ハズ。

○水天 水ノ天ニ接スル際。

○髣髴 又彷彿ニ作ル。サモ似タリ。説文ニ若似ナリトアリ。

○青一髮 此語モ東坡ノ、青山一髮是中原ノ句ヨリ出デシナラン。

○萬里泊舟 杜少陵ノ絶句ニ、窻含西嶺千秋雪。門泊東吳萬里船トアリ。

○篷窻 篷ハ苫(トマ)ナリ。竹ヤ菅ヤ茅ナドヲ編ミ船車ヲ蔽フモノ。轉ジテ小舟ノ義ニ用ユ。

○瞥見 瞥ハ、説文ニ、過目也、一日財(纒ト通用)見也トアリ。徐氏注ニ曰ク、瞥然瞥見也ト。チラリト見ルナリ。

○太白 長庚星、金星、ヨヒノ明星、夕方西方ニ見ハル、星ナリ。

○識語 西遊舊作、書爲^ニ山内彈正公子。時己丑九月。去^ニ遊時己十二年矣。按ズルニ己丑文政十二年ニシテ山陽歿スル前三年ナリ。

此詩山陽西遊詩中ノ第一ト稱セラル。草書中、上ノ兩邪ハ下ノ耶ト通用、髣弗ノ弗ハ、髣又ハ佛ト通用。

第四十五課 西郷隆盛 其一

○魁偉 魁ハ、スグレテ大ナルコト。魁奇、魁岸トモイフ。

○島津齊彬 ^{オリアキヲ}島津氏二十八世ノ主。幼名邦丸、後、三郎ト改メ、薩摩守ト稱ス。將軍徳川家齊ノ諱字ヲ賜ハリ齊彬ト名ヅク。公識見深遠ニシテ、膽略勇決アリ。藩政ヲ革メ天朝ヲ尊奉シ幕府ヲ輔翼ス。安政五年、五十歳ヲ以テ歿ス。弟久光、後ヲ承ク。

○藤田東湖 卷一第十六課、二十六課及卷五第二課、三十六課参照。東湖名ハ彪、字ハ斌卿、虎之助ト稱ス。後誠之進ト改ム。常陸水戸藩ノ人ナリ。父名ハ一正、幽谷ト號ス。世々商ヲ業トス。一正ニ至リ始メテ學ヲ修メ、水戸藩ニ仕ヘ、彰考館ノ總裁ニ任ズ。東

湖天資英靈、容貌魁偉、眼光人ヲ射ル。文武ヲ兼修シ氣節ヲ砥勵ス。天保中郡宰タリ。藩主烈公(齊昭)(第五十六課参照)召シテ諸政ヲ諮フ。烈公、銃砲ヲ鑄造スルニ因リテ幕府ノ譴ニ遇

フヤ、東湖亦禁錮セラレ、正氣歌ヲ作ル。又回天詩史ヲ著ハス。後赦サレ、復タ烈公ヲ佐ケテ幕府海防ノ政ヲ議ス。當時天下ノ英傑ノ士、其風采ヲ望ミテ來リ謁スルモノ甚ダ多シ。東湖夙ニ外人ノ猖獗ヲ憤リ、持論或ハ時ト抵牾ス。乃チ詩ヲ賦シテ自カラ傷ム。曰ク寶刀難染洋夷血。却憶常陽舊草廬ト。讀者扼腕ス。安政二年江戸地大ニ震フ。東湖馳セテ烈公ノ燕室ニ至リ、促シテ庭上ニ出デントシ、屋梁忽チ破レ、壓セラレテ死ス。時ニ年五十、水戸城南常盤原ニ歸葬ス。訃京師ニ至ルヤ、天子震悼、人ヲ失フノ嘆アラセラレキトイフ。

○逮捕 逮ハオヨブ、追ナリ、及ナリ。追ヒカケルナリ。

○日州 日向。

○酒饌 饌ハ膳立ヲナシタル食物。具食ナリ。

○舩 フナバタ、船ノ兩邊。舩頭ハ舩端ナリ。

○流竄 島ナガシトスルコト。竄ハ、モト、隠ル、カクス、退ク、退クル、逃ル、ナドノ意アリ。第六十一課及卷一第五十二課參照。

○挿入南洲書詩 相約投淵無後先。豈圖波上再生緣。回頭十有餘年夢。空隔幽明一哭。墓前。月照和尚忌日賦。

○三條公 名ハ實美(サネトミ)、實萬(サネツム)ノ子。夙ニ幕府ノ專横ヲ惡ミ、薩長ノ藩士ト謀リテ攘夷ヲ實行セントス。適々朝議遽ニ變ジ、朝ニ在ルコトヲ得ズ。乃

チ東久世通禧等ト長州ニ奔リ(第三十七課久阪元瑞ノ條參照)福岡ニ移ル。慶應三年十月、罪ヲ宥サレテ京ニ還ル。爾來、議定、關東監察使、右大臣、太政大臣、内大臣等ノ顯職ヲ經、明治二十四年東京麻布ノ私邸ニ薨ズ。天子廢朝三日、國葬ヲ行ハセラル。

○營救 人ノ爲メニ辯護スルコト、救解ナリ。

○寢 息ナリ、止ナリ。

○紀元 始マリノ年、元年。

○扶翼 教育勸語ニ見ユ。

○俘囚 虜トナリテ、囚ハレ居ルモノ。

○勝安房 徳川幕府最後ノ政事家ナリ。初名ハ義邦、姓ハ物部、初メ麟太郎ト稱ス。安房ハ其居ル所ノ氷川ニ取ルナリ。幼ヨリ夙ニ馬術及劍道ニ達ス。安政七年咸臨丸ニ搭ジテ米國ニ航ス。歸朝ノ後大ニ海軍興起ノ急務ヲ論ズ。元治元年軍艦奉行トナリ、神戸操練局ヲ監シ、攝海ヲ警備ス。其時塾頭ヲ阪本龍馬トナス。江戸開城ニ及ビ、屢々暗殺ノ危險ヲ冒シ、引渡ヲ了スルヲ得タリ。維新後、樞密顧問官ニ至リ、明治三十二年、七十四歳ヲ以テ歿ス。著ハス所吹塵錄、氷川清話等アリ。

○慶喜 第五十八課、五十九課參照。

○恭順 朝廷ニ對シテイフ。

○大村益次郎

「次」又タ「二」ニ作ル。名ハ永敏、益次郎ハ其通稱ナリ。初メ村田藏六ト稱ス、後故アリテ大村ト改ム。周防吉敷郡錢司村ノ人。廣瀬淡窓、緒方洪庵等ニ學ブ。慶應二年、幕兵長藩ノ四境ニ逼ルヤ、益二郎兵ヲ率キテ北方一面ニ當リ、連戰皆勝ツ。(第三十七課高杉晋作ノ條參照)。維新後兵部大輔ニ任ズ。佛國式軍制ヲ採用セントシ、守舊徒ノ反對スル所トナリ遂ニ兇刃ニ斃ル。時ニ明治二年九月四日ナリ。行年四十六。靖國神社社頭ニ銅像ヲ建テラル。

第四十六課 西郷隆盛 其二

○岩倉右府

名ハ具視(トモミ)。右大臣タリ。明治十六年、五十九歳ヲ以テ薨ズ。

○木戸孝允

本姓ハ和田、小字ハ小五郎、幼ニシテ桂氏ニ養ハレ桂小五郎ト稱ス。後國政ヲ執ルニ及ビテ、木戸準一郎ト改ム。松菊ト號ス。吉田松陰ノ門ニ遊ビ、又江川英龍(太郎左衛門、坦庵)、勝海舟等ノ門ニ出入ス。松陰歿スルヤ、士皆松陰ニ事フル所ヲ以テ松菊ニ事フ。維新ノ際朝政ニ參畫スル所甚ダ多シ。明治十年五月、西南戰事中、京師ノ客

舎ニ歿ス。年四十四。東山ニ葬ル。

○大久保利通

小字ヲ正助トイフ。後一藏ト改ム。南洲ト郷ヲ同ジクシ、鹿兒島城下鍛冶所ナリ。後甲突川ノ東ニ移リ、甲東ノ號アリ。幼ヨリ沈重寡黙、容貌魁偉、羣之ヲ憚ルコト師父ニ過ギタリトイフ。慶應三年參與ニ任ジ、翌年遷都ノ議ヲ建テ、車駕遂ニ江戸ニ向ハル。明治七年臺灣事件ニヨリ清國ニ使ス。十年京都ニ在リテ專ラ西南征討ノ事ニ任ズ。翌年五月十四日、參朝ノ途、赤阪紀尾井阪ニ於テ島田一郎等ノ爲メニ刺サレテ薨ズ。年四十七。青山墓地ニ葬ル。

○持不可 持ハ執ナリ、主張ナリ。

○論奏 論議奏請ナリ。

○篠原國幹

シノハラ、クニモト。鹿兒島藩ノ人。人ト爲リ温厚篤實ニシテ沈勇アリ。尤モ軍略ニ達ス。南洲ノ大事機密ヲ談ズルヤ、必ズ國幹一人ニ諮ル。伏見、東叡山(今ノ上野公園)ノ役、皆其ノ指揮スル所。後陸軍少將ニ任ジ近衛兵長官タリ。征韓ノ議合ハザルニヨリ南洲等ト共ニ國ニ歸ル。後一隊ノ兵ヲ率キ、吉次越ニ出デ、戦ヒ、重傷ヲ負ヒテ死ス。

○投袂而起

左傳宣公十四年ニ、楚子聞之、投袂而起トアリ。投袂ハ袂ヲ前ニ投ゲ出シ振ハスコトニテ、腕扼奮起ノ狀ヲイフ。

○谷干城

幼名ハ申太郎、後守部ト改メ、又干城ト改ム。隈山ト號ス。谷秦山ノ後ナリ。人ト爲リ、剛直方正。安井息軒ノ門ニ學ビ、武市半平太等ト國事ニ奔走ス。藩學致道館助教ト爲リ、藩命ニヨリ長崎ヨリ上海ニ遊ビ、還リテ薩土ノ聯盟ヲ謀ル。奥羽ノ戰ニ功アリ。明治三年少將トナリ、四年熊本鎮臺司令長官トナル。十年ノ役重創ヲ蒙ムリシモ、後癒ユ。十一年中將ニ進ミ、十七年學習院長トナル。十九年農商務大臣ヲ以テ歐洲ニ遊ビ歸朝、時弊ヲ痛論シ、合ハズシテ職ヲ辭シ、「日本」新聞ヲ出シテ國粹保存主義ヲ唱フ。後貴族院議員トナリ、議院清議ヲ以テ顯ハル。四十四年、七十五歳ヲ以テ歿シ、土佐久萬山ニ葬ル。島内氏編スル所ノ遺稿アリ。

○襪

音チ。奪ナリ、脱ナリ。

○桐野利秋

鹿兒島ノ人。舊ト中村半次郎ト稱ス。幼ヨリ學ヲ修メズ。微々タル一兵士ニ過ギズ。人其名ヲ知ル無シ。常ニ京都ノ藩邸ニ在リテ窃ニ勤王ノ志ヲ抱クモ、南洲ト意合ハザルヲ以テ獨立事ニ從フ。伏見ノ役、東征ノ役、皆其先鋒タリ。會津若松ノ戰各功アリ。遂ニ累進シテ陸軍少將ト爲ル。征韓ノ議南洲ト一致シ、終ニ親交ヲ結ブ。其兵ヲ舉ゲルヤ南洲ニ代リテ軍事ヲ部署シ、肥薩日隅ノ間ニ轉戰シ、敗レテ鹿兒島ノ城山ニ入り、南洲ト俱ニ自刃ス。

○薄

セマリ、チカヅク。肉薄トイフコトアリ。見ニ卷一第十二課。

○竹輿

輿ハ、コシ。第一課ニ見エタリ。手輿、肩輿ナドアリ。

○唉

音キ、虛其切、**支**。歎聲。史記項羽本紀ニ、范增ガ歎ジテ、唉、豎子不_レ足ニ與謀トイヘリ。

○別府新助

薩摩ノ人、陸軍少佐タリ、征韓ノ論起リテヨリ郷ニ歸リ、區長トナリ、郷中ノ兵ト戦端ヲ開キ熊本城ニ薄リ、攻撃數十日、後復タ壯丁二千ヲ募リ、之ヲ率キテ八代ヲ襲ヒテ大ニ之ヲ破ル。身重傷ヲ負ヒ退キテ人吉ニ在リ。後鹿兒島ニ還リ、城山ニ入り、大ニ防戰ス。其敗ル、ヤ、自カラ南洲ノ首ヲ斫リ、之ヲ提ゲ大ニ呼ンデ曰ク、先生ト死ヲ同ジウスル者ハ皆此ニ來リ集レト。終ニ自刃シテ死ス。

○坑

地ニ掘レル穴。

○岩村通俊

土佐宿毛ノ人、高俊ノ兄。明治元年、軍監トナリ、東征ニ從フ。明治十年、鹿兒島縣令大山綱良、賊ニ與スルヲ以テ、通俊、京都行在ニ召サレテ、代リテ之ニ任ズ。鎮定ノ後職ニ在ルコト三年、治績アリ。二十二年農商務大臣トナリ、次デ宮中顧問官、官内省御料局長トナル。大正四年七十六歳ヲ以テ歿ス。

○墓表

表ハ標ナリ。シルシ、目標。挿圖墓表、南洲翁終焉之地。南洲翁ガ一生ヲ此處デ(外デハナイ)終ツテシマツタ其ノ(間違モナイ)地トイフ意アリ。

○兵兒 へこ。後ニ附スル山陽ノ兵兒歌中ノ健兒ヲ指ス。

○岡本韋庵 第三十七課ニ見エタリ。

○偶感 フト感ズル所アルナリ。

○堅 經天切、**先**。

○歷 狼狄切、**錫**。

○甄全 瓦全ナリ。甄ハ瓦ナリ、又璧(シキガハラ)ナリ。

○前兵兒謠

謠ハ歌ニ對スレバ、樂器ニ合サズシテ唱フル俗謠ナリ。山陽兵兒謠前後二篇アリ。前篇ハ素朴剛健ノ風ヲ言ヒ、後篇ハ反ツテ一面淫靡ノ俗ヲ寫シ、暗ニ諷刺スル所アルガゴトシ。後兵兒謠ニ曰ク、蕉衫如雪不受塵。長袖緩帶學都人。怪來健兒語言好。一操南音官長嘖。蜂黃落。蝶粉退。倡優巧。鐵劍鈍。以馬換妾。生肉。眉斧解剖壯士腹。

○胛 ハギ、スネ、脚脛ナリ。

○腕 テクビヨリ肘ニ至ル間。此レ腕腕(ウデマクリ)セル狀タイプ。

○腕 此詩、「腕」、「斷」、去聲十五翰、一韻。「馬」、「社」、上聲二十一馬、一韻。「酬」、「羞」、「頭」下平聲十一尤、一韻。

○秋水 刀ノ光ノ形容ヨリ轉ジテ刀ノ異名トナル。越絶書ニ、太阿之劍、其色如秋水トアリ。

○健兒 唐ノ天寶十四載、京師ニ十萬人ヲ召募シ、天寶健兒ト號ス。又德宗紀ニ、官健アリ。

州兵ニ衣糧ヲ給セル者タイフ。谷川氏ノ和訓ニ曰ク、「コンデイ」ハ健兒ノ轉音ナリ、日本紀ニハ「チカウビト」ト訓セリ。唐六典ニ、天下諸軍有健兒ト見ユ。日本ニモ其制ヲ用キラレタリ。平家物語ニ「コンデイワラハ」トイヘリ。今時武家ノ足輕ノ類ナリトゾ。下家集ニ、健兒所ハ中門ノ所居ナリト見エタリト。

○社 モト土地ノ神ナレド、コレヲ祭ルニ一地方人民ノ結合ヲ成スニヨリ、凡ソ人ノ同一目的ヲ以テ集合團結セルモノヲモ皆社ト稱スルニ至レリ。晋代ノ白蓮社、明代ノ復社ノゴトシ。維新以後、政治上ノ結社勃興セリ。高知ノ立志社、福岡ノ玄洋社ノ如シ。終ニ新聞社、某某會社ナドト使用セラレル、ニ至レリ。

○此客 此ノ九州ノ南端マデ、遙カ北方ヨリワザクヤツテ來テクレル人ガアルナラ。以下ハ殆ンド明治十年役ノ事ヲ豫言シタルノ感アリ。

○是 爲ナリ、デアアル。

○膳羞 供へ進メル食物、御馳走。周禮ノ天官ニ、膳夫ハ王ノ飲食膳羞ヲ掌ルトアリ。

○屬屨 十分ニ満足スル。左傳ノ昭公二十八年ニ、願以小人ノ腹爲君子之心、屬屨而已トアリ。馱ト屨ハ同ジク、アキタルナリ。

- 好 好下物（ヨイ酒ノサカナ）、ヒキテモノノ義。山陽自注ニ、好ハ好貨ナリトアリ。此ニハ活字トシテ用キタリ。彈丸硝藥ノ御馳走デ不足ナラバ、更ニ腰間ノ寶刀（上文ノ秋水）ヲ頭カラフレマヒ申サウトイフ。
- 渠 俗ニ他人ヲ渠儂トイフ。儂ハ我ヲイフコトアリ。
- 閒 古閑切、剛。
- 決皆 決ハ決裂ナリ。
- 鶻影 鶻ハ鷹ヤ隼（ハヤブサ）ノ類。東坡ノ赤壁賦ニ見ユ。

第四十七課 臺灣

- 多加沙古 高砂。
- 鄭氏 頭注ニ見ユ。母ハ日本人。
- 據 ヨリ保ツ、タテコモル。羣雄割據、據城ナドノ據ニ同ジ。
- 島蕃 蕃ハ、エビス、蠻夷ノ蠻ト通用。モトノ字義ハ、草本ノ繁茂スルコトナリ。
- 酋長 酋ハモト澄ンデ優レタ酒ヲイフ。因ツテ優レテ「カシラ」トナルモノヲモ酋トイフ。禮記ノ月令篇ニ、大酋トアルハ、酒ヲ司ルノ長官ナリ。野蠻人ノ部落ノ首領ヲ蠻酋

トイヒ、又酋長トイフ。

- 牡丹社 社ノ字義ハ前課ニ見エタリ。臺灣ニテハ、最下ノ行政區劃ニシテ、莊ノ次ニ位ス。所謂蕃社ナルモノ是ナリ。
- 兇頑 兇惡頑固。
- 償金 大久保利通、清國ニ赴キ、談判シテ之ヲ決ス。
- 班軍 班ハ別レル、離レルトイフ字ナレド、引申シテ還ヘス、ヒキモドス意トナル。班師振旅トモイフ。
- 懷 親ミ來ルナリ。
- 弭兵 弭ハ弓ノ末端、ユハズナリ、引申シテ活用シ、止トナリ、息トナル。左傳襄公二十五年ニ、自今以往、兵其少弭矣トアリ。母婢切、紙。
- 歸 歸入ナリ。
- 版圖 周禮ノ司會ニ見ユ。版ハ古、板ト通用、戶數人口等ヲ記載セルモノ、戶籍ナリ。圖ハ地圖。ヨリテ版圖ハ領分、領地ノ義トナル。
- 煥 音アウ。烏到切、號。甚ダ熱キナリ。又、音イク、乙六切、屋ハ溫暖ノ義トナル。
- 互 胡故切、遇。閉塞ナリ。凍リチマルナリ。

○太 多クハ太甚ト連用ス。毛詩小雅ニ、亦已太甚トアリ。甚ナリト訓ズレド、「アマリニ」ノ意ナリ。

○稠茂 稠ハ多ク密集スルナリ。

○甘蔗 砂糖キビ。

○打狗 今「高雄」ニ作ル。

○重野成齋

先生、名ハ安釋(ヤスツグ)、字ハ子德、成齋ト號ス。通稱ハ厚之丞薩摩藩士ナリ。藩學造士館ニ學ビ、昌平燮ニ入ル。嶄然トシテ頭角ヲ諸生ノ間ニ現ハシ、成齋七絶ノ稱アリ。即チ學問、詩、文、書、碁、鼓、風采是ナリ。藩ニ歸リ、造士館教授トナル。同儕ノ猜嫉ニヨリテ大島ニ謫流セラル。後救サレテ歸藩ス。西郷大久保諸人、就キテ諮議スル所多シ。維新後文部省、太政官ヲ經、修史局副長トナル。明治二十六年辭職シ、野史亭ヲ私邸ニ設ケ、自カラ編纂ニ從事シ、又文科大學教授タリ。四十年八十一歳ノ老軀ヲ以テ塊國維也納(キンナ)ノ萬國學士院會ニ臨ミ、西比利亞支那ヲ經テ歸朝ス。四十三年、八十四歳ヲ以テ歿シ、谷中ニ葬ル。著ハス所、成齋文初、二集、遺稿及史書數種アリ。

○爲一所

「爲」ハ去聲トシ、「タメニ」ト讀ミ、「所」ヲ受動トシテ「ラル」ト讀ムヲ可トス。下ノ「被」「見」モ「ラル」ト讀ミ習ハセドモ、各々其字ノ本義ニヨリテ考ヘ合ハサンコトヲ要ス。第五十六課見遺條參照。

第四十八課 長政入暹羅

○山田長政

或ハ曰ク、伊勢祠官ノ隸、或ハ曰ク、駿河ノ人ト。自カラ織田信長ノ孫ト稱ス。流落シテ駿府ニ寓ス。元和ノ初、天下始メテ定マリ、士ノ仕ヲ求ムル者、皆侯伯ニ歸ス。長政之ヲ屑シトセズシテ曰ク、此間功名ヲ立ツルノ處ナシ。唯海外ニ遊ベバ、或ハ以テ吾ガ志ヲ展ブベキノミト。時ニ海ニ禁ナシ。府ニ行商二人アリ。曰ク瀧佐右衛門、曰ク太田治衛門。元和中將ニ海ニ航シテ臺灣ニ貿易セントシ、船ヲ大阪ニ艤ス。長政其艤間ニ潛匿シテ發シ、遂ニ臺灣ニ到ルヲ得タリ。時ニ年二十七。居ルコト幾ナラズ、更ニ蠻船ニ附シテ西ノ方暹羅國ニ至ル。會々邦内騷亂、四鄰交々侵ス。而シテ六昆最モ強シ。暹國王師ヲ出シテ之ヲ禦グ。長政其軍ヲ行ルヲ見ルニ、紀律ナシ。私ニ其ノ必ズ敗レンコトヲ言フ。已ニシテ果シテ然リ。國王之ヲ聞キ、長政ヲ召見ス。長政指畫シテ策ヲ陳ブ。(以下事蹟略ボ本課ノ文ニ讓リテ省ク。但本文ニ所謂暍普羅ハ一説ニ諸侯ノ義ニシテ、長政ハ大諸侯ニ封セラレ、王位ニ即キシニハアラズトイフ。)後、瀧、太田二人暹羅ニ至ルヤ、長政大ニ之ヲ款待ス。是ヨリ本邦商旅ノ此地ニ行クモノ多ク、長政爲メニ特ニ貿易ノ地ヲ授ケ、名ケテ日本街トイフ。國王死シ、王朝亂ル。長政之ヲ救ハントシテ毒殺セラレ。時ニ寛永十年ナリ。

○倜儻

音テキタウ。説文ニ、倜儻、不羈也トアリ。儻モ、人ニ秀デ、志ノ大ナルコト。故ニ倜儻トハ、獨立シテ束縛サレズ、志ノ大ナルヲイフ。

○揚言 颺言トモイフ。聲ヲ張リアゲテイフ。

○賈 買フ、アガナヒ求ムル。

○羽倉簡堂

名ハ用九、字ハ士乾、通稱外記、簡堂ハ其號、別ニ天則トイヒマタ可也トイフ。晩ニ又蓬翁ト號ス。古賀精里ニ學ブ。幕命ヲ奉ジ、伊豆七島、大阪生野等ヲ巡視ス。後閑居讀書ス。文久二年歿ス。三田正泉寺ニ葬ル。著ハス所不盡岳志、蠶測篇等アリ。

第四十九課 川中島遊記

○青山延壽

水戸藩儒臣青山節齋(名ハ延于、第四課參照)ノ季子、晩翠(名ハ延光、晩翠ハ其號、又佩弦齋ト號ス)ノ弟ナリ。鐵槍ト號シ、槍術ニ達ス。藤田東湖ニ學ビ、弘道館ニ教ユ。全國ヲ漫遊シ、大八洲遊記ヲ著ハス。明治三十九年、八十七歳ヲ以テ東京ノ寓所ニ歿シ、水戸ニ葬ル。

○蘆葦

通ジテイハ、蘆葦トモニ皆「アシ」ナリ。「アシ」ハ一名「ヨシ」トモイフ、異稱同物ナリ。分ケテイハ、蘆ハ葦ノ未ダ穂ヲ出サザル中ノモノヲイフ。別ニ荻アリ。此ハ葦ノ一種ニシテ「チギ」トイフ。

○憩

本ト憫ニ作ル。俗ニ或ハ憩ニ作り、又憩ニ作ル。毛詩召南ニ、召伯所「憩」トアリ。去計切。休息ナリ。

○度

渡ト通用。

○沮洳

ミヅチ、低濕ノ地。毛詩ノ魏風ニ、彼汾、沮洳トアリ。沮ハ水ノクヒトメラル、コト。洳ハ水ノズツトホリテ、ヒタリウルホフコト。

○竟

此字ハ「終」ノ字トスルガ適切ナルニ似タリ。竟ハ、ド、ノツマリ、究竟ノ意ニシテ、此處ハ上文ニ應ジテ始終ノ「終」ガ穩當ナラン。

○聚落

二字皆人ノアツマレル部落、村落、里落ノナルガ、分ケテ字義ヨリイハ、聚ハ其ノ「アツマル」ノ義、落ハ落チツク、落チアフノ意。

○累累

累ハ疊ト通用ス。第二十六課ニハ、古墓累累ト見エタリ。分テイハ、累ハ「カサナリアフ」、疊ハ、「ツナガリアフ」ナリ。累卵、累土、累代、累積ナド皆累ヲ用キテ疊ヲ用キズ。毛詩周南ノ葛藟^{マツ}之ハ、累ヲ用キザルガ如シ。

○沙洲

第四十一課ニ見エタリ。

○町

音テイ、チャウ、他頂切、廻。田地ノ區畫、アゼ。町畦トイフ。本邦ニテハ多ク市街ト同義ニ用キ、又距離、地積ノ單位ニモ用ユ。

○城址

址ハ第六課ニ見エタリ。

○坊市

坊ハ、特ニ一區畫ヲナセル、マチ、チマタ(巷)、イチ、邑里ナリ。又僧舍、僧寺ヲ坊ト稱シ、活字トシテハ防ト通用ス。

○舍車 舍ハ捨ト通用。

○尤高 「尤」ノ字、第十一課ニ見エタリ。

○牙營

牙ハ「キバ」ナルガ、象牙ヲ以テ飾レル、天子及將軍ノ旗ヲ牙旗又ハ大牙トイヒ、牙旗ヲ立テタル陣屋即チ本營ヲ牙營トイヒ、大本營ヲ牙森（森ハ大將大元帥ノ旗）トイヒ、門ヲ牙門、城ヲ牙城トイフ。牙城ハ即チ本丸ナリ。王暉ノ詩ニ、角聲催日上、牙城トアリ。

○山觜 山端。

○距 距リ離ル。

○招魂社

社ハ神社。招魂ノ禮ハ儀禮（既夕篇）ニ見ユ。屈原ノ楚辭ニ招魂篇アリ。死者ノ魂ヲ招キ還シ、之ヲ慰メマツル。

○眺矚

眺ハ遠ク見ワタス。眺望ナリ。第二十八課ニ見エタリ。矚ハ目ヲツケル、見ツメルナリ。

○角逐

角ハ較ナリ。互ニ相比較シ、競ヒテ勝敗ヲ争フコトトナル。角力、角抵（抵ハ、ブツツカリアタル）ナドイフ。逐ハ、オヒカケル。

○雲散鳥沒

雲鳥ハ形狀詞ト看ル。

○山趾

趾ハ址ト通用スレド、使用ノ場合ニヨリテ義ヲ異ニス。城址、陣址ナドノ址ハ故址、遺址ノ義トナリ、山趾ノ趾ハ、足趾、林趾、巖趾ナドノ趾ニテ、アシモト、麓ノ義トナル。「趾」ノ字第六課ニ見エタリ。若シ城趾、遺趾トセバ、前ノ城址ナド、同義トモナレド、城趾ハマタ城ノドダイ、基礎トモナル。後篇日本外史抄、楠氏（四）節ノ「城趾」参照。

第五十課 甲越二將

○俄

俄ト通用シ、斜ニナルノ意アリ。ジツト靜ニ立テルモノガ傾キカケル様ニ、態度傾向ヲ變ジテ急ニ他ニ轉ズル意。故ニ「頓」（第十八課参照）ヤ、「遽」（アハタ、シク）ヤ、「驟」（馳セ來ル如ク疾速）ヤ、「暴」（爆發スル如ク急）ヤ、卒（卒然ノ卒、「猝」ト通用、猝ハ説文ニ、犬從、草暴出逐、人也トアリ。不意ニ、思ヒガケナク、出シヌケニ）ナド、少シツ、異ナル所アリ。列子ニ、俄而季梁之疾自瘳、漢書外戚班婕妤傳ニ、選入後宮、始爲少使、蛾（俄ト通用）而大幸爲三婕妤トアリ。如淳ノ注ニ、蛾ハ無幾之頃也トアル如ク、「俄頃」トイフ語モアリ。少時、暫時ト訓ズ。然シ、「俄」トナルマデガ、暫時ニテ、「俄」ガ暫時ナルニハアラス。但「俄」ハ以前ノ態度ノ傾斜ヨリジリノト起ルモノナルガ故ニ、必ズ暫時ノ間ヲ經ルモノナリ。故ニ「卒」ヤ「頓」ナドノ如ク、突然不用意ニ出ヅルモノニアラス。此處ノ「俄」ニテモ、謙信ガ敵ニ向ヘル態度ノ變化ニ注視スベキナリ。假ニ若シ之ニ代フルニ「遽」ノ字ヤ「卒」ノ字ナドヲ用キタリ

トセバ、其意如何ニナルベキヤ。失當知ルベキノミ。

○殊死 命ヲ捨テ、カ、ル。決死ノ覺悟デ。史記ノ淮陰侯傳ニ、軍皆殊死戰、不可敗トアリ。殊ハ絶ナリ、タヤシツクスナリ。左傳昭公二十三年ニ、斷ニ其後之木ニ而弗殊トアリ。引申シテ、最後ノ極限決定ナドノ意トナリ、「殊絶」トイヘバ、タチホロボス義トモナリ、他ニ勝レタル意トモナル。

○每 上ノ「戰」ノ字ヲ受ク。毎戰ナリ。

○奏 モト上進(ノボシス、ムル)ノ義。君王ニ言上スルナドニ用ユ。(第四十課ニ見ユ)。又「奏樂」トモイフ。引申シテ奏功、奏效ナド、アラハス(見)ノ意ニ用キラル。已見ニ第十三課。

○奇功 奇勝トイフコトモアリ。

○申明 述べ明シ、十分ニ告ゲ知ラスコト。

○罷 音ハイ。廢ナリ、ヤメルナリ。

○輒 輒ニ作レルハ俗字。グズムト引ツバツテ居ラヌコトヲ示ス。第九課ニ見エタリ。

○軍機 普通、軍事上ノ機密ノ義ニ用ユルモ、此處デハ、機ハ、機能ノ意ト看ルガ適切ナラシ。

○竟 此「竟」モ「終」ニ作ルガ適切ナルニ似タリ。

○精勁 スグレテツヨキコト。

○無匹 匹ハ匹偶、相手ナリ。

○中村栗園 第七課、日本智囊條參照。

○肅肅 嚴急ナル貌。毛詩召南ニ、肅肅宵征トアリ。

○過河 過ハ通過ナリ、過度ナリ。過度ハ過渡ニ同ジ。然ラバ此處ハ何故ニ「渡河」トセザルカ。曰ク、此詩首句第二字「聲」、平字ヲ以テ起ル。第六字モ平字タラザルベカラズ。而ルニ「渡」ハ獨故ノ切、**遇**ノ字ナリ。此處ニ用ユベカラズ。是レ「渡」ニ最モ近キ平字タル「過」ヲ用キテ「ワタル」ト讀マシムル所以ナリ。「過」ニハ平仄兩用アリ。超過ヤ過失ヤ譴責ナドノ場合ハ古臥切、**箇**ナリ。通過、過去ノ場合ハ古禾切、**歌**ナリ。平仄ニ無頓着ナル教師、此義ヲ明ニセザルガ爲メニ、生徒ノ質問ニ遇ヒテ、往往、曖昧模糊ノ答ヲナス。折角ノ研求心ヲ殺ゲヤ大。

○擁 護持スルナリ。

○大牙 將軍旗。第四十九課、牙營ノ條參照。

○遺恨 此二字、逸長蛇ニ管到シ、十字一意。

○十年 長年月間。唐ノ賈島ノ詩ニ、十年磨一劍。霜刃未嘗試トアリ。

○流星光底 流星ハ、ハシリボシ。此處デハ振りアゲタ、磨ケル劍ノ光ノ流星ニ似タルヲイフ。楊炯ノ詩ニ、赤土流星劍トアリ。底ハ下ノ方ナリ。

○逸 逸失ナリ、ニガスナリ、逸走セシムルナリ。

○長蛇 英傑ヲ大蛇ニ比シタルナリ。陣形ニ長蛇陣アリ。陣ヲ人ニ轉用セシナリ。

第五十一課 日光山

○王紫詮 名ハ頼、字ハ雙(頼ト通用)園、江蘇、長洲(即蘇州)ノ人。官ヲ罷メ、遊歴著述ヲ事トス。西洋遊記、普法戰紀、遼窟調言等ノ書アリ。明治十一年、本邦ニ來遊シ、扶桑遊記ヲ著ス。岡鹿門(千仞)ノ觀光紀游ト東西並觀スベシ。

○竹輿 第四十七課ニ見エタリ。

○擬 將欲ナリ、爲サントカマヘルナリ、豫定ナリ。

○自餘 猶ホ「爾餘」ノゴトシ。「自後」ノ「爾後」ニ於ケルニ同ジ。

○潺湲 音センクワン。水ノ流レル聲。潺ハ鋤山切、剛、サン、セン。

○殊

殊勝、殊絶、絶殊、殊甚ナドト、連用シテ其意明ナルゴトク、殊ニハ、「コトニスグレテ」、「コトニハナハダシク」ノ意ヲ含ム。「絶」ハ、「甚ダスグレテ」ナリ。「特」ハ、一ツ

○聽

傾聽ナリ。第八課ニ、信長隔壁傾聽トアリ。傳聞、風聞ノ「聞」ト異ナリ。然シ往往ニシテ通用スルコトアリ、拘泥スベカラズ。

○可町許

「可」ハ第二十六課ニ「可一里」ト見エタリ。此處ニハマタ、下ニ「許」ノ字ヲ添ユ。「許」ハ「所」ノ字ヲ用ユルコトアリ。第三十課ニテ言及セルガ如シ。今

序ヲ以テ、此等ヲ總ベテ其用法ヲ例示シ置クコト左ノ如シ。

- (一) 可。第二十六課ニ舉ゲシ如シ。
- (二) 如。出如食頃、秦追果至關(史記、孟嘗君傳)
- (三) 所。今度已死十年所(史記、倉公傳)
- (四) 可。所。受讀解驗之、可一年所(同右)
- (五) 約。所。遂自驛西、南出、過平臯、約二里所(宋濂、遊瑯邪山記)
- (六) 許。署置百官、三十許年(後漢書董卓傳)

仁祖是勝我許人(世説)
又世説ニ、保而用之、可作諸許物(諸許ハ、ソコバクノ、イクラカノ)トアリ。玄度才情、故未易多有許(此「許」ハ、ホド、バカリ、クライノ意。若シ「許」ノ字ガ句首ニアレバ

「多分ハ」「恐クバ」ナドノ意トナリ、専ラ白話體文ニ用キラル。又「許」ハ其處ナ邊、ソノモト、ノ義ニ用キ「許」ト通用スルコトアリ。

○觀者僅見

「觀」ハ觀覽、觀察、觀望ナリ。「見」ハ發見、目ニ入レル、見ツケル、見出スナリ。

○險仄

仄ハ古文仄ニ作ル、崖ノ下ノ狹キ處ニ人ガ身ヲソバダテ、居ル形ニテ、側ト通用ス。(側ハ第十八課ニ見ユ。)丸ノ字ハ古文引ニテ、仄ノ字ノ裏返トナリタルモノニテ、仄ダテル人ガ、ゴロリト轉ガリ落ツル形。

○阪路險仄、輿夫艱於步

此處デハ「於」ノ字ハ修辭上ノ必要ヨリ置ク。若シ此ノ一字ヲ去ランカ、前後二句四字ツ、一、二、三、四。一、二、三、四ト步調ヲ齊ヘテ踏ミ出ス故、此二句ダケデハ收マラヌ勢ヲ成ス。ソレヲタゞ此二句ダケデ、一段ノ纏マリヲツケテ行カウトスルニヨリ、後句ノ中ニ「於」ノ字ヲチヨト點入シテ、此句ヲ引延バシ、以テ語勢ヲ緩メテ落付カシメタルナリ。語勢既ニ緩ミテ落付ケルガ故、次ニ頭緒ヲ更メテ由ニ觀背瀑ト一轉シテ別ノコトヘ遷リテモ、「步」ト「由」ノ間ハ判然トシテ一劃セラレ、紛糾ヲ招ク虞ナキヲ得ルナリ。然ルニ既ニ「於」ノ字ヲ添ヘシ以上ハ、「艱於步」ハ「艱步」トハ、字數ノ多少、語勢ノ長短ノ別アルニ止マラズ、其中ニ含ム語意ニモ多少ノ相違ナキ能ハズ、即チ「艱步」ハ單ニ步ヲナヤマスナレド、「艱於步」ハ、艱ミダシタ、ソレハ步行上ニ、トノ意トナルナリ。

○由 從ナリ。

○回 引キ還ス。

○殘破 殘ハ傷(ソコナフ)ナリ、壞(コハレル)ナリ。

○荒涼 涼ハ「涼」ノ俗字。スゞシ、ウスシ、ナドノ義ヨリ引申シテ、サビシク悲シキサマトナル。

○日午 正午、マヒル、ウマノ刻。マタ亭午トモイフ。亭ハ丁(アタル)ナリ。

○回馬 ウマガヘシ。回ハ回還ナリ。

○啜 ス、ル、嘗メル。

○茗 俗ニ茶ト同物異名トセルモ、分テイハバ、茶ノ芽、又ハ茶ノ晩取シタモノ(晩茶)ヲ指シテ茗トイフ。

○險巖 巖ハ、ケハシク危キコト。

○及行 行イテミルト。實地ニ步行スルコトニナルト。

○路亦 此路モ、通常ノモノトカハラズ。

○崎嶇 ケハシク、サガシ。

○聒 古活切。喧聒ナリ、喧聒ナリ。

○羊腸

山路ノ、羊ノ腸ノ、曲リクネレル如ク險阻ナルヲイフ。モトハ地名ニテ、史記ノ魏世家ニ、魏伐趙、斷羊腸、拔閼與トアリ。羊腸ニ似タル語ニ、「羊角」アリ。莊子ニ見ユ。ツムジ風ヲ指シテイフ。羊ノ角ノグルク曲ツタ様ニ吹クニヨル。

○疑於 「於」字ノ用法、略ボ上文ノ「艱於」ニ同ジ。

○大日堂 大日如來ノ佛堂。

○一若

「一」ハ、「不二」ナリ、「完全」ナリ。故ニ「モツバラ」、「ヒタスラ」、「ヒトヘニ」、ナド訓ズベク、又、引申シテ、「全ク」トモ訓ズベシ。又「丸デ」トイツテヨキ場合アリ。

○斯山

カ、ル山、此ノ如キ大ニ奇拔ナル山。「斯人」、「斯文」、「斯道」ナドノ「斯」ト同ジ。第十七課「斯人」條參照。

○贅

莊子ニ、附贅(コブ)縣疣(イボ)ト見ユ。無用之長物、蛇足ナド、略ボ同義ニ用ユ。

○奇詭

詭ノ字、第二十八課ニ見エタリ。

○巨觀

大觀。觀ハ「ミモノ」、「ミエ」、「スガタ」ナリ。卷一第十七課ニ「水之奇觀」アリ。

○晃山

晃ハ明ナリ、光ナリ。本邦ニテ日光山ノ日光ノ二字ヲ合シテ、「晃」ヲ用ユ。音クワウ。

○名勝

第六課ニ見エタリ。

○甲天下

蘇東坡ノ表忠觀碑ニ、富甲ニ於天下トアリ。第一番ナリ。「最」ト略ボ同義ニ用ユルモ、分テバ稍ヤ異ナリ。「最」ハ澤山アル中ノ最上、最優ナリ。甲ハ甲、乙、丙、丁ト並列セル次第ノ第一番ナリ。カシラナリ。第十一課「尤」字條下參照。

或ハ問ヒテ曰ハン。此ノ「甲天下」ハ「甲於天下」トシテハ何如ト。答ヘテ曰ハン。此ハ「晃山」ヨリ「天下」ニ至ル間ヲ一句トスルカ二句トスルカ、孰レガ適當ナルカヲ決スルニヨリテ解決セラルベシ。若シ「甲」ノ下ニ「於」ヲ用ユレバ、勢晃山名勝ノ「勝」ニテ句讀點ヲ切ラザルベカラズ。「勝」ニテ切レバ、勢上下二句ノ形トナル。カクスレバ内容ノ割合ニ形式ガ整ヒ過ギ、緩漫無力ヲ患フ。全部ヲ括約シテ一句トシテ敏速ニカタヅケ、勢ヲ殘シテ、スグ「而尤以」ト、下ノ句ニ突進スルニ若カザルナリ。

○迸出

迸、音ハウ、比諍切、敬。ホトバシル、奔迸ナリ。別ニ「へい」ノ音アリ。蒲明切、古、屏ト通用、シリゾクナリ。大學ニ、迸諸四夷トアリ。

○奔騰

騰ハ上昇ナリ。卷一第五十三課ニ見エタリ。

○澎湃

水ヤ波ノ相擊ツ音。司馬相如ノ上林賦ニ、沸乎暴怒、洶涌澎湃トアリ。

○濺雪

ソ、グ、灌注スルナリ。

○華嚴法界

佛教ノ華嚴經ニ、天上ニ於ケル種々ノ法界ヲ説ケリ。法界ハ佛法ノ世界ナリ。瀑布ノ名ニ因ミテカクイヘルナリ。

○迂道 迂ハ迂回ナリ、遠マハリスルナリ。

○抵 第二課ニ見エタリ。

○徑 小徑、徑路、コミチ。

○泥濘 濘ハ泥ノ深キトコロ。

○乃 今迄ノ通りデハ行ケナイノデ、「乃」トナル。

○浩渺 標渺トモイフ。第二十八課參照。浩ハ水ノ盛ニヒロクトセル貌。

○匯 音クワイ、エ、胡罪切。マタ滙ニ作ル。水ノ回旋シ、廻流スルコト。マタ、ウヅマクコト。

○伯仲 猶ホ、兄弟トイフガ如シ。伯仲叔季。

○殊冷 此文中三「殊」アリ。彼此玩索スベシ。

○暢適 暢神適意。氣ガノビクシテ、工合ノヨキコト。

第五十二課 白虎隊

○戊辰 元年。

○白虎 天ニ、四神アリ。東方ヲ守ルテ青龍、南方ヲ守ルテ朱雀、西方ヲ守ルテ白虎、北方ヲ守ルテ玄武トイフ。皆動物ニ象リテ其活潑剛猛ヲ表ハス。

○邀戰 邀ハ待チウケル。第二課參照。

○先是 「是」ハ、「ソレ」ト上文ヲクルメテザツト受ク。「前」此「トスル場合ノ「此」ハ明ニ「此時」ト指示スルモノニシテ用法異ナリ。例ヘバ、其解釋之詳而備、前此諸書所不及ノ如シ。第五十九課「至是」參照。

○迴 音ケイ。遙ナリ、遠ナリ。第九課ニ見エタリ。

○軼 音イツ。古「逸」ト通用ス。スギコスナリ。ヌケルナリ。又音「テツ」ノ場合ハ、「迭」ト通用シ、「タガヒニ」ト訓ジ、又轍トモナル。

○撒 音サツ、桑葛切、曷。散ト通用。撒水、撒布ナドイフ。此處デハ散兵ナリ。

○唯號令之從 第十課ノ「唯學之耽」參照。

○走還 其處カラ後ヘ走リテ引キカヘス。還ハ歸ト異ナリ。第十五課參照。

○榛荆

榛ハ第二課ニ見エタリ。モト「ハシバミ」トイフ木ノ名、荆ハ「イバラ」ナレド、
榛荆、榛莽、榛蕪、榛叢ナドイフトキハ、生ヒ茂レル雜木林ザラキバヤシチイフ。

○跋涉

跋ハ、フミツケルコト。跋涉トイヘバ、陸地ヲ歩ミ、水ヲ渡ルコトトナル、拔ニ涉
山川トイフ。

○尾撃

尾ハ追尾、オヒカケルナリ。又見ニ後篇日本外史抄楠氏(十一)節。

○雨下

第四十九課「雲散鳥没」參照。

○即入

即ハ、デキ、ソノマ、ナリ。

○少頃

少焉トモイフ。暫時ナリ。頃ハ頃刻ナリ。第三十六課「頃」字條參照。

○瞰視

瞰ハ第十課ニ見エタリ。下瞰ナリ。視ハ注視ナリ、目ヲツケテ見ルナリ。卷一第五
課ニ見エタリ。

○礮

砲ノ正字。

○與其

第二十一課「孰若」條參照。此例ハ論語ニ徴スル最モ好シ。

○爲敵所辱

コレ俗讀ニ從ヒテ「爲」ヲ平聲ノ「ナル」トセルモ(平、去ニ聲ノ別ハ第二
十九課ノ「爲人」ノ條參照)、實ハ去聲ノ「タメ」ト讀ミ、「所」ノ字ヲ「ラル」
トヨム方ヨロシ。第五十七課「見遺」條下十「爲」參照。

○畢矣

序ニ「オハル」ト訓ズル諸字ヲ列舉對照シ置カン。此中ニテ「ツイニ」トモ訓ゼラ
ル、モノハ、第十五課「卒」字、第九課「遂」字ノ條參照ノコト。

(一) 卒

スル事ノ、其ノ仕舞フナリ、果テルナリ。

(二) 畢

サツバリ、ボント、皆スマシテ、ノケルナリ。

(三) 終

始カラツ、イテ結末ヲツケル。

(四) 了

サラリト、ラナ埒ガ明イテシマツタ。

(五) 竟

イツマデモヤツテ、トウ／＼仕上ゲル。

(六) 訖

ソコマデ行キツク。

(七) 已

其時ニ其事ガ止マル。

○環坐

環ハ第一課ニ見エタリ。

○屠腹

屠ハ割ナリ。

○選、撰

選ハ選擇。撰ハ選ト通用スルコトモアレド、分テイヘバ、撰ハモト、物ヲ陳列ス
ルナリ。因ツテ陳述、著述ナドノ義トナル。論語ノ、異ニ乎三子者之撰ノ撰ハ即
チ此陳列ノ義ナリ。周易繫辭傳ノ、體ニ天地之撰ノ撰ハ撰擇ノ選ニテ、抽象ノ形相ヲ指ス。體
ハ此ヲ具體化シテ見ルナリ。

第五十三課 近藤守重巡視蝦夷

○近藤守重

通稱ハ重藏、正齋ト號ス。爲人、精敏勁悍、好シテ書ヲ讀ム。寛政四年試ニ應ジ、褒詞ヲ賜フ。七年長崎奉行手附ト爲ル。十年、國後、擇捉、野附等ヲ巡視シ、十一年得撫ニ至ラントシテ江戸ニ召還サレ、三月再ビ根室ヲ經テ國後ニ航シ、七月高田屋嘉兵衛トトモニ擇捉ニ再航シ、沙耶河ニ溯リ、十二年又嘉兵衛ト三タビ擇捉ニ渡リ、露人建ツル所ノ標榜及十字架ヲ撤シ、「從是大日本領」ノ標柱ヲ建テテ還ル。享和申又該地ヲ巡按ス。文化四年西蝦夷ニ至リ、利尻島ニ赴キ露人跳梁ノ跡ヲ視察シ、天鹽、石狩ヲ經テ江戸ニ還ル。五年書物奉行ト爲ル。七年自己戎裝ノ石像ヲ駒込西善寺ニ建ツ。幕府命ジテ之ヲ除カシム(今瀧ノ川ニ在リ)。守重既ニ書物奉行トナリ、楓山(文庫)ノ秘書閣セザルナシ。其家亦藏書ニ富ミ、擁書城ト名ヅク。林述齋、市河寬齋、龜田鵬齋等ノ徒皆往テ遊ブ。安政二年、執政沼津侯ト合ハズ、大阪弓矢奉行ニ遷サレ、大鹽平八郎ト交ル。文政六年子富藏、人ヲ殺スニヨリテ遠流ニ處セラレシモ、分部左京亮光寧ニ救ハレ、其采地、近江大溝ニ赴キ藩政ニ參與シ、子弟ニ教授ス。十二年、五十九歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、右文故事、外蕃通書、邊境分界圖考等凡四十種、今圖書刊行會編スル所ノ全集アリ。

○備歷

備ハ備悉、備具、備盡ナドイハル。ツブサニ、十分ニ。

○會

第二課ニ見エタリ。参照スベシ。

○俄

第五十課ニ見エタリ。参照スベシ。

○撰甲

撰ハ甲冑ヲ著クルコト。

○何爲

ナンスレゾト讀ミ習ハセド、實ハ「ナンガタメニ」ト、「爲」ヲ去聲ト看ルガヨロシ。但シ、何爲ニ此屑屑ニナドノ場合ハ無論平聲タルベシ。

○重甲

重ニ三聲アリ。柱用切、**宋**。備用切、**麗**。二聲仄字トナリ。輕重ノ重ナリ。マタ、直容切、**冬**。重複ナリ。此處デハ平聲ニ用キラル。

○分必死

分ニ二聲アリ。府文切、**文**。ハ、分別ノ分。符問切、**問**。ハ、分限、本分、區分、及ビ度量ノ分。此處デハ、本分ノ分ニ當リ去聲ニ屬ス。

○羈屬

羈ハ羈ノ俗字ナリ。羈束、羈絆ナリ。羈ノ字ハ兩(音ア、覆ナリ)ニ從フモ、俗ニ又兩(音モウ、網ナリ)ニ從ヒテ羈ニ作ル。羈ノ字モ兩ニ從ヘル故ニ、兩ニ從ヘル羈(羈旅、羈寓、孤羈ノ羈ナリ)トハ全ク別字ナリ。要スルニ、羈(又ハ羈、又ハ羈)ト羈トハ全ク區別スベキモノナリ。而ノ屬ニ要、覆、覈ナドアリ。(羈音ハ、羈ノ俗字)。四(兩)ノ屬ニ、野、罰、罷、羅ナドアリ。

○化外

王化ノ及ブ範圍外。外國。宋史ノ太祖紀ニ、禁銅錢、無出化外トアリ。

○視之

クラ(比)ベミル、ナゾラヘル。ミナス。孟子ノ萬章篇ニ、子受地、視侯トアリ。

○魯國

今ノ露國、モト魯國ニ作ル。其國人ノ魯ノ魯鈍ノ魯タルヲ忌ムニヨリテ、今ノ露ニ改ムトイフ。

○駸駸

馬ノ走ル貌。毛詩ノ小雅ニ、載驟載駸トアリ。

○既至

全ク行キ着イテシマツタ上デ。第二課「既出」條參照。

○按

オサヘル、ナデサスル、トイフ本義ヨリ引申シテ、トリシラベル（按驗、討按、按察）意トナル。又「案」ト通用シ、考按トイフ。マタ「以古按今」トイフガ如シ。

○相

木ト目ニ從フ。木ヲ隔テ、相見ル。見合ハス、見立テル。

○佃漁

佃、音テン、デン、田ヲ治メ耕ス義ナレド、畝ト通用シ、狩獵トナル。

○斥逐

排斥驅逐。

○播

播布ナリ。

○尋

第二十五課ニ見エタリ。

○轄

管轄（カツ）ナリ。モト車軸ノ端ノ孔ニサシコミ、車輪ヲ軸ヨリ拔ケ離レシメザル、「クサビ」ナルガ、引申シテ物事ヲ統轄スル義トナル。

○居多焉

焉ハ「ソコニ」、「其中ニ」ナリ。

○鹽谷青山

先生、名ハ時敬。父ハ實山、宕陰ノ弟ナリ。先生、家學ヲ受ケ文ヲ能クシ、最モ書道及劍術ニ達ス。第一高等學校教授タルコト三十餘年、又文科大學講師タリ。大正十四年、七十一歳ヲ以テ礫川莊菁我園ニ歿ス。著ハス所青山文鈔アリ。嗣名温、號節山、現爲文科大學教授。

○城塞—閉塞

上ノ塞ハ防塞、音サイ、先代切、下ノ塞ハ充塞、音ソク、悉側切。然シ「サイ」ハ「ソク」ノ一聲ノ轉ノミ。「サイ」ノ中ニヤハリ「ソク」ノ意ヲ含ム。

○潮

馳遙切、蕭。

○海城

海上（海邊）ノ城廓。

○寒柝

冬ノ夜ノ警戒ノ擊柝（拍子木）ノ聲。

○北辰

北極星。

○建銅標

後漢ノ馬援、交趾ニ至リ、銅標ヲ立テ、漢ノ極界ト爲シタリトイフ。（後漢書馬援傳ニ引ク所ノ廣州記ニ見ユ）。

第五十四課 西山公

○德川光圀 第二十三課參照。

○既老 前ノ五十三課ノ「守重既至」ト同例。位ヲ兄ノ子ニ譲リテ隱居ス。

○營居 經ニ營寓居ニ也。

○於西山

義公夙ニ伯夷叔齊ノ爲人ヲ慕ヒ、彼等ノ登リタリトイフ山名ヲ用ユ。「於」ハ藩主ノ居城カラ、此ノ「方」ヘノ意ヲ表ハス。

○衡門茅屋

カブキモン。隱者ノ居宅ナドニアル門。毛詩ノ陳風ニ、衡門之下、可_レ以棲遲トアリ。衡ハ「横」ト通用シ、横木ヲイフ。白樂天ノ詩ニ、吾亦忘_レ青雲。

衡茅足_レ容_レ膝トアリ。

○墻垣

墻ハ牆ノ俗字。音シャウ、慈良切、陽。垣ハ音エン、兩元切、元。通ジテイハバ、イヅレモ、「カキ」ナリ。分ケテイハバ、牆ハ障ナリ。障蔽スル所以ナリ。丹ニ從フハ、析木片版ノ意。說文ニ、牆ハ垣ノ蔽ナリトアリ。段玉裁曰ク、垣ハ其ノ大ナルモノヨリ言ヒ、牆ハ其ノ高キモノヨリ言フト、是ナリ。

○老癯

癯ハ、力中切、マタ癯ニ作ル。疲レヤム、老イテ病ムナリ。

○麤食

麤ハ、粗、嶋、疏ト通用。麤食、麤飯トイフ。但、疏食ハ、食ノ字ヲ食物トスルトキ(卷一第二十課ニ見ユ)ト、飯トスルトキ(此時ハ音シ、卷一第二十四課ニ見ユ)トアリ。

○澣衣

北史ノ魏孝文帝紀ニ、常服_ニ澣濯之衣トアリ。質素ナル生活ブリタイフ。澣ハ、ス、ギアラフナリ。第三十課ニ見エタリ。

○晏如

晏ハ「燕」ト通用ス。晏如ハ、晏然ト同ジク、ヤスラカニ、ウチクツロゲル貌。

○行脚

僧侶ノ諸國ヲ巡歴シテ佛法ヲ修行スルコト。又頭陀(梵語ノツダ)トモ、抖擻(トソウ、ツダノ轉訛)トモ、托鉢遊行トモイフ。

○遇

偶ト訓ゼラル、如ク、期セズシテ途中ニフト相見ルナリ。「偶」ハ第二課「會」字條第九課「適」字條參照ノコト。ナホ序ヲ以テ、「アフ」ト讀ム字ヲ列舉シ置カン。

(一) 遇

期セズシテ、フト、折ヨク又ハ折アシク行キアフ。

(二) 逢

雙方カラアヒアタリツク。(逢著)

(三) 值

チヨウドソコニ相當スル。方今値_ニ扈運之會。

(四) 遭

メグリテ一緒ニ引キカ、リアフ。君子遭_ニ亂世。

(五) 會

ツキアツテ見ル。慮勝而會、是畏_ニ三軍一者也。(孟子)

(六) 覲

「會」ヲ、タマ_レト用ユルハ、唐代ヨリ以後ノ俗語ナリト、東涯イヘリ。

(七) 邂逅

見ツケアフコト(希覲)計ラズモ、ヨソデアフ。

ナホ「姤」「媾」「離」ナドニ就キテハ、松本愚山ノ譯文須知ヲ參照スベシ。

○乃與 「乃」ハ、其行脚ノ道筋ヲ轉ジテナリ。

○既至 上ノ既老ト同例。

○墟 同爐。墟ハ第三十五課ニ見エタリ。

○晤語 又晤言、晤語トモイフ。相對シテ談話スルナリ。晤ハ遇ナリ、對ナリ。

○引僧 引ハ案内スルナリ。

○書架 書棚。

○縹帙 縹ノ字ハ第五課ニ見エタリ。淡藍色ノ本ヅツミ。轉ジテ書物ノ意ニ用ユ。

○黃門 モト宮城ノ禁門ノ稱ニテ、宮中ノ官ヲモ指ス。光圀中納言タリシニヨリ此稱アリ。

○頓首 第八課參照。

○青山延于 第四課ニ見エタリ。

○甫 第十九課、卷一第二十四課ニ見エタリ。玉篇ニ、甫、始也トアリ。

○從容 第八課ニ、一徹從容入室トアリ。

○踰 蹈ミ越ユ。

第五十五課 格言三則

○尙書

偽古文大禹謨。此語本ヅク所、周易謙卦象傳ニアリ。曰ク、天道虧盈而益謙ト。孝經ニハ、制節謹度、滿而不溢トアリ。周易ノ地山謙 ䷎ ハ、地中ニ山アリ。自カラ卑クシテ益々大ヲ成スノ象アリ。

○讓 謙讓ナリ。

○興仁 論語ニハ、君子厚於親、則民興ニ於仁トアリ。

第五十六課 種梅記

○種 種樹、種藝ナド、イヒ、草木ヲ植エツケルコト。

○少 二聲ニ義ニ分ル。(一)書沼切、篠、多少ノ少ナリ。(二)式照切、嘯、老少ノ少。此處デハ去聲ナリ。「少」ハマタ「少小」トモイフ。老大ニ對スルナリ。若シ「少少」ハ些少、瑣小ノ意、「稍稍」ト同義。

○植 從木從直。立ノ義アリ。論語ニ植ニ其杖ニ而芸トアリ。草木ノ地上ニ立テルヲ植物トイフ。植種、植樹ナド、連用シテ、草木ヲウエツケルコト、ナル。

○天保癸巳 天保四年。

○就國 封國ニ赴クナリ。

○南上 江戸幕府ニ朝覲スルコト。

○輸 音シウ、送ナリ。

○借樂園

孟子ニ、文王ノ園囿ノ事ヲ舉ゲテ曰ク、古之人、與民借樂。故能樂也ト。借ハ相トモナヒテ、イツシヨニナリ。

○今茲

今年ニ同ジ。孟子滕文公上ニ、今茲未能、請輕之以待來年、然後已トアリ。「茲」ノ「年」タル、左傳、史記ナドニモ其例アリ。呂氏春秋ニハ、今茲美禾、來茲美麥トアリ。茲ノ字艸ニ從フ。此ニ似タル「茲」ノ字モ同ジク音「シ」ナルモ玄ニ從フ。黒ナリ濁ナリ。艸ニ從フノ「茲」ハ、モト蓐席ノ義ナルモ、「此」ト通用シ、「コレ」、「コノ」、「コ」、「コ、ニ」トナル。又「滋」ト通用スルユトアリ。滋ハ益ナリ。

○庚子 十一年。

○適會

第九課「適」字、第二課「會」字條參照。此會ハ、矢張タマノノ意ニテ、第五十四課ニ出セル「會見」ノ會トハ異ナリ。此處ハ「チヨウド、タマノ」ト讀メバ適切ナル譯ナリ。然シ、今ノ俗讀ニ從ヒテ「會ス」トスルモ誤レルニハアラズ。

○乃植 上ノ成林ノモノヲ、ソノマ、ニハ置カズシテ。

○夫 「彼」ナリ。卷一第五十四課參照。

○先春 「梅花先春」ハ、ヨク詩題ニ見ユ。

○風騷

猶ホ風雅ノゴトク、風流韻事ノ遊ヲサス。然ルニ「風」ハモト毛詩ノ風雅頌ノ風ニ本ヅキ、歌謠ノ意、騷ハ屈原ノ離騷ニ本ヅキ、楚辭ノ如キ詩歌ノ變調ナルモノヲイフ。南史ノ庾肩吾ノ傳ニ、既殊ニ比興ニ（毛詩ニ比賦興アリ）。更背ニ風騷トアリ。

○文葩 葩音ハ、華ナリ。「ハナ」ナリ。文葩ハ猶ホ美花トイフガゴトキナリ。

○軍儲 儲ハ貯、タクバヘ、ナリ。軍需品ノ貯蓄。

○七年之病

孟子ノ離婁上ニ、今之欲王者、猶七年之病、求三年之艾也、苟爲不畜、終身不得トアリ。原義ハ、王タルコトノ易キコト、七年ノ長キ病ノ中ニ三年位乾カセル「モグサ」ヲ求ムルガゴトキモ、三年位トオモヒテ早ク畜ヘネバイツマデモ得ラレヌトイフ意ナルモ、今本文ハ朱晦庵ノ註ニ從ヒ、病已ニ深キトキ、猝ニ乾久ノ艾ヲ求メントスルモ辨ジガタシトノ意ニ用キタリ。

○德川齊昭

水戸藩主ナリ。字ハ子信、景山ト號ス。爲人剛明英毅、屢幕府ノ爲メニ國家ノ大計ヲ陳ズ。萬延元年、六十一歳ヲ以テ歿ス。私ニ烈公ト諡ス。第四十五課藤田東湖條、及卷五第一課弘道館記條參照。

○无 音ブ、ム。「無」「亡」、ト通用ス。周易ニテハ、「無」ハスベテ「无」ニ作ル。此字ハ説文ニヨレバモト「天」ノ字ノ變化シタルモノニテ、即チ天ガ西北ニ遠ク見エヌ様ニナリユク形ナリトイフ。无ナリ。

○星 先青切、**青**。

○晴雪 降り止ンダ時ノ雪。

○可憐 容姿ノヤサシク可愛キタイフ。李太白ノ清平調詞ニ、一枝濃艶露凝^{カアイ}香。雲雨巫山枉斷腸。借問漢宮誰得^{カアイ}似。可憐飛燕倚^{カアイ}新粧トアリ。

○金鏡 月ノ異名。杜牧ノ詩ニ、仙桂茂時金鏡曉トアリ。

○玉房 花房（フサ）タイフ。

第五十七課 與梅聖俞書

○書 書簡。

○修 宋ノ歐陽修、字ハ永叔、廬陵ト號ス。一代ノ文宗タリ。

○啓 開ナリ。申シ述ベルナリ。本邦書簡文ニテ「申上候」ニアタル。又啓上、拜啓トモイフ。啓ハ陳述ノ義ナルニ、俗文ニ「拜啓、陳者」トイフハ重複ノ嫌アリ。

○百步許 許ハ第五十一課ニ見エタリ。

○遂往 遂ノ字、第九課参照。

○乃一山谷中 ドンナヨイ處カト思ツテ往キシニ、往ツテ見レバ、「乃」、實ハコレ、コレ、ダケノモノニスギズ。

○乃天生一好景 「ダガソレガカヘツテ」自然的ナ特種ノ好景色ヂヤ。

○遂 ドウシヨウカ、コウシヨウカト考ヘテ居ツタガ、一意ヲ遂行シテ、コウスルコトニナツタ。上ノ「遂」ト同例。

○乃馮延魯 コノ石ハ、尋常ノ石トハチガツテ「乃」。

○因移 ソレチソツクリソノマ、デ持テ來テ。文中三「因」字アリ。上ノ「因飲」ハ因由ナリ。下ノ「因便」ハ因依ナリ。此「因移」ハ「因襲」「襲用」ナリ。第十五課「因」字條参照。

○見遺 「遺」ニハ二音二義アリ。遺忘、遺落、遺棄、遺留ナドノ場合（第十七課、第二十一課参照）ハ、以追切、**支**、贈遺（オクル）ノ場合（即チ本課ノ如キ）ハ、以醉切、

真ナリ。「見」ハ此處ニ受動ノ「ラル」ト訓ズ。凡ソ「ラル」ト訓ズル字ニツキテハ大典之ヲ説キテ最モ詳ナリ。参考ノ爲メニ左ニ列舉シ置カン。

（一）受

(二)被蒙取獲(三)取獲(四)獲取(五)遇獲(六)遭(七)見

以上七種ハ字ノ本義ニヨリテ自カラ明ナリ。

此ハ我が出アフコトヲ主トシテイフ。以物見贈、某見過ナド、彼ヲ主トスル「奉」ノ反對ナリ。マタ仁見親、義見悅(司馬法)。信而見疑、忠而被謗(屈原傳)。今日見教(相如傳)ノ如シ。マタ「所見」「爲見」「見受」ナド、連用スルコトアリ。

(九)所

此ハ彼ガシテクル事ヲ主トスルナリ。「爲」ト、語ヲ狭ミテ用キラル、ガ常ナレド、一字ニテ用キラル、コトアリ。又「爲所」トツヅケ用キルコトアリ。

(十)爲

大典ハ平聲トスレド、矢張去聲トスルガヨシ。(九)ノ「所」ト、語ヲ狭ミテ用キラル、ヲ常トスレド、又一字ニテ用キラル、場合アリ。「爲人推許」ノ如シ。第五十二課「爲人所敵」條、及第二十九課「爲人」條參照。

○亦植

上ノ移石ニ對ス。

○其側

石側。

○勝記

第六課ノ「勝數」條參照。

○一徑

徑ハ第五十一課ニ見エタリ。

○竹篠

篠音セウ、小竹。第二十七課ニ見エタリ。

○蒙密

カブサリツンデ居ルコト。

○豁然

ヒロク、カツト開ケタ貌。豁ノ字ガ、モト、ヒラケタル谷タイプナリ。

○遂得

ドウナルカト思ツテ居タラ、矢張我が意中ヲ遂ゲ達シテコンナ物ヲ得ルコトガデキタ。

○三因三遂三乃三亦七

是レ一短篇文ニ過ギザルニ、中ニ此等特殊ノ文字ヲ前後ニ反復點竄シテ、一進一轉、紆紆曲折、蜿蜒トシテ蛇ノ

○已作

ヤガチ一先ヅ作ルダケノコトハシタガ。「已」ハ「既」ヨリ輕シ。

○未曾

未嘗ト異ナレリ。未曾ハ「未曾經」ニテ、「マダ一向ハコバレナイ」トノ意。「未曾」トセバ、「マダ一度モナイ」トノ意トナル。卷一第四十八課參照。

○一篇

梅聖俞ノ文。

○因便

好便ノアリ次第。

(二)被 (三)蒙 (四)取 (五)獲 (六)遇 (七)遭 (八)見

以上七種ハ字ノ本義ニヨリテ自カラ明ナリ。

此ハ我が出アフコトヲ主トシテイフ。以_レ物見_レ贈、某見_レ過ナド、彼ヲ主トスル「奉」ノ反對ナリ。マタ仁見_レ親、義見_レ悅(司馬法)。信而見_レ疑、忠而被_レ謗(屈原傳)。今日見_レ教(相如傳)ノ如シ。マタ「所見」「爲見」「見受」ナド、連用スルコトアリ。

(九)所

此ハ彼ガシテクル事ヲ主トスルナリ。「爲」ト、語ヲ狹ミテ用キラル、ガ常ナレド、一字ニテ用キラル、コトアリ。又「爲所」トツマケ用キルコトアリ。

(十)爲

大典ハ平聲トスレド、矢張去聲トスルガヨシ。(九)ノ「所」ト、語ヲ狹ミテ用キラル、ヲ常トスレド、又一字ニテ用キラル、場合アリ。「爲人推許」ノ如シ。第五十二課「爲人所敵」條、及第二十九課「爲人」條參照。

○亦植

上ノ移石ニ對ス。

○其側

石側。

○勝記

第六課ノ「勝數」條參照。

○一徑

徑ハ第五十一課ニ見エタリ。

○竹篠

篠音セウ、小竹。第二十七課ニ見エタリ。

○蒙密

カブサリツンデ居ルコト。

○豁然

ヒロク、カツト開ケタ貌。豁ノ字ガ、モト、ヒラケタル谷ヲイフナリ。

○遂得

ドウナルカト思ツテ居タラ、矢張我が意中ヲ遂ゲ達シテコンナ物ヲ得ルコトガデキタ。

○三因、三遂、三乃、三亦、七一

是レ一短篇文ニ過ギザルニ、中ニ此等特殊ノ文字ヲ前後ニ反復點竄シテ、一進一轉、紆紆曲折、蜿蜒トシテ蛇ノ

叢林中ヲ行クガ如シ。是レ實ニ廬陵ノ擅場ナリ。

○已作

ヤガチ一先ヅ作ルダケノコトハシタガ。「已」ハ「既」ヨリ輕シ。

○未曾

未嘗ト異ナレリ。未曾ハ「未曾經」ニテ、「マダ一向ハコバレナイ」トノ意。「未嘗」トセバ、「マダ一度モナイ」トノ意トナル。卷一第四十八課參照。

○一篇

梅聖俞ノ文。

○因便

好便ノアリ次第。

- 望示及 何卒御届被下度。
- 千萬千萬 奉悃願候。

第五十八課 王政復古 其一

- 允 允許ト連用ス。允ハ信ナリ、實ナレバ、マコトニ、モツトモダトシテ聽キトケルナリ。
- 初 當初、邇及ノ辭ナリ。
- 始 創始、開端ノ辭ナリ。第十七課「始」字條參照。
- 政柄 又政權トモイフ。政治ヲ執リ行フ權力。柄ハ器物ノ握リ所、「エ」(トツテ)。杷ナリ、欄ナリ。
- 相踵 接踵トモイフ。續々ノ意。踵ハ跟(キビス)ナリ。引申シテ「至」「接」「續」ナドノ義トナル。
- 執 執行ナリ。領取ノ取、採擇ノ採ナド、區別スベシ。
- 王綱解紐 王綱ハ猶ホ王法ノゴトシ。解紐ハ、シバレルヒモノ弛ムコト。猶ホ廢弛トイフガゴトシ。干寶ノ晉紀總論ニ、名實反錯、天綱解紐トアリ。

○擁虛器

後漢書ノ和熹鄧后紀ニ見ユ。君主ノ名ノミアリテ、實權ハ臣下ニ握ラレタルコト。虛器ノ器ハ、モト天子ノ制定セル治世ノ具、禮樂ナドニツキテイフ。

○西舶

西ハ西洋、舶ハ渡海ノ大船ナリ。

○措置

措辨ナリ、處分ナリ。

○不慊

慊ニ二音アリ、(一)音ケン、古覃切、**揆**。アキタラズ、恨ナリ、不快ナリ、不満足ナリ。孟子ノ公孫丑篇ニ、吾何慊哉トアリ。(二)音ケフ、カフ、詰叶切、**葉**。アキタル、厭足ナリ、快足ナリ。大學ニ、如惡ニ惡臭、如好ニ好色。此之謂自謙トアリ。此ノ「謙」ノ字ハ「慊」ト讀マル。尙此外「慊」ハ嫌疑ノ「嫌」ト通用スルコトアリ。マタ「慊焉」ハ「何慊」ト同ジク、反語ニテ、アキタルコトナリ。故ニ俗ニ「慊焉タラズ」トイフハ、アキタラズトイフ意ニナルナリ。此處ノ「不慊其事」ノ「慊」ハ音「カフ」トスベシ。

○湊集

湊ハアツマル、湊合ナリ。輻湊(見第四十一課)ナリ。今ノ「ツ」(津)ハ、古ハ「湊」ノ字ヲ用キタリ。

○遊說

史記ノ蘇秦傳ニ、遊說六國トアリ。說音ゼイ、輪芮切、**贅**。人ヲ說キサトシテ、己ノ意見ニ服從セシムルコト。「說」ノ字ハ此外、セツ(說述)、エツ(悅ト通用、不亦說乎)、ダツ(脫ト通用、用說三桎梏)ノ三音三義アリ。

○詢

諮詢ナリ。

- 不肯 説文ニ、肯、可也トアリ。
- 諧 和ナリ、調ナリ。
- 因請 因ハ、上來ノ次第ニ基キテ、ナリ。
- 准 「準」ノ俗字。モト平準、準則ノ義ナルモ、引申シテ「キメル」、「ユルス」ナドノ意ニ用ユ。「批准」トイフガ如シ。又照會文ナドニハ「接受」ノ意ニモ用キラル。
- 互市 「互」ハ相互、「市」ハ賣買。
- 促 催促ナリ。
- 彈正尹 彈正ハ惡ヲ指彈匡正スル役。今ノ警察ノゴトシ。尹（カミ）ハ猶ホ「守」ノゴトシ。正ナリ、治ナリ、長官ナリ。「又」ト「ノ」トヨリ成ル。手ニ指揮スルモノヲ持ツ形。「君」ノ字之ニ從フ。
- 權 音ゴン。正ニ對スル副ナリ。マター一時ノ假設ナリ。卷一第十八課ニ「權大納言」トアリ。尙書堯典（今ノ偽古文ニテハ舜典）ニ、堯、龍ニ命ジテ「納言」ノ官職ニ就カシム。上下ノ言ヲ出納疏通スル役ナリ。我國ノ納言ニハ、大中小アリ。
- 中納言
- 七人去赴長門 第三十六課、久阪元瑞條參照。
- 襖 見第四十六課。

- 重野成齋 見第四十七課。
- 篡 俗ニ又篡ニ作ル。取ルベカラザルモノヲ強奪スルコト。篡位、篡立ナド、専ラ君位ヲウバフコトニ用ユ。孟子ノ萬章篇ニ、是篡也。非天與也トアリ。
- 第五十九課 王政復古 其二
- 宮門 蛤門ノ變ヲイフ。第三十七課久阪元瑞條參照。
- 尋 見第三十六課及五十三課。
- 因請 前課ニ見エタリ。
- 朝裁 朝廷ノ裁決。
- 錮 禁錮、閉門不出ナリ。
- 觀望 傍觀遠望、手ヲ觸レヌコト。
- 威望 威光ト人望ナリ。又俗ニ所謂權威ト人氣ナリ。
- 會 第二課參照。
- 薨於 「於」ハ下ノ大阪城ノ「方デ」ノ意ヲ表ハス。元來京都ニ居リシモノガ、此時大阪ノ方ヘ行キ居リシ故。

○踐祚 第三課ノ「登極」ト同意。踐ハ履ミ上ル。祚ハ大幸福ニテ、君位ヲイフ。

○齊昭 烈公ト諡ス。第四十五課「藤田東湖」ノ條下參照。

○名望 名譽人望。

○周旋 見第十八課

○至是 上述ノ事ヲウケ、「コウナツテ」トイフ。「先是」「是以」「以是」ナド、同類ナリ。第五十二課「先是」條參照。

○然後及 「及」字、第四十二課「不及」條參照。此處ハ「處置シ及ボス」「取扱フコト、スル」ノ意。

○宥 第九課ニ見エタリ。

○當是時 此ノ「是」モ「此」トセルモノヨリハ輕シ。「此」トセバ、シツカリト、「此ノ時」ト、外ノ時ト區別シテ指定明示スルナリ。

○負荷 負擔ト同意。但シ、擔ハモト背ニ物ヲ負フコト。擔、米ノゴトシ。荷ハ肩ノ上ニ物ヲ載セルコト。論語ニ、有下荷、蕢（アジカ、土籠）而過、孔氏之門者ト見ユ。然ルニ多クハ二字通用セリ。皆「ニナフ」トヨム。

○山内豊信 土佐藩主ナリ。幼字ハ輝衛、後、兵庫助ト稱シ、容堂ト改ム。大宗ノ豊悖病アリ、容堂ヲ養ヒ封ヲ讓ル。容堂勵精政ヲ爲ス。常ニ皇室ノ衰微ヲ患ヒ竊ニ

興復ノ志アリ。江戸ニ在ルニ及ビ、建議シテ屢々幕府ニ忤フ。萬延四年京師ニ朝シ、朝議ニ參ス。慶應三年其重臣ヲ遣ハシ、幕府ヲシテ大權ヲ朝廷ニ奉還セシム。又立憲議會ノ説ヲ立ツ。明治元年議定官ニ任ズ。維新中興ノ舉多ク、容堂ノ首議ニ基クトイフ。明治五年、四十六歳ヲ以テ歿ス。著ハス所、詩集アリ。課後ニ附ケテ其詩一首アリ。

○後藤象次郎 名ハ元暉、字ハ日華、陽谷ト號ス。象次郎ハソノ通稱ナリ。吉田東洋ニ學ブ。阪本龍馬ト王政復古ノ案ヲ建テ、藩主容堂公ヲ經テ幕府ニ上書ス。本

課ニ象次郎等トアルハ、象次郎ノ外、寺村左膳、福岡藤次（孝悌）及ビ神山左多衛ノ三人ナリ。是レ慶應三年ノ事ナリ。遂ニ是歲十月三日、徳川將軍慶喜、諸藩士ト二條城ノ會見トナリ、十四日將軍ノ參内、政權奉還ノ奏聞トナリ、翌十五日聽許トナリ、十二月九日、維新大號令ノ煥發トナル。是ニ於テ鎌倉幕府以來數百年武門ニ歸セル政權ハ、無事ノ間ニ全ク王朝ニ復スルヲ得タリ。象次郎維新後參議ニ任ズ。征韓ノ議容レラレズシテ野ニ下リ、板垣退助等ト民選議院設立ノ議ヲ建ツ。後大同團結ヲ唱ヘ、復タ内閣ニ入り、遞信、農商務二省ヲ經タリ。三十年、六十歳ヲ以テ歿ス。

○小松清廉 字ハ帶刀、元治元年蛤門ノ變ニ薩兵ヲ率キ、長兵ヲ討ツテコレヲ走ラス。後、參與トナル。明治三年歿ス。或ハ曰ク、薩藩士ニシテ陽谷上書ノ議ニ贊セシ

ハ、小松氏一人ノミニテ、甲東ハ南洲等トトモニ、寧口之ニ反對セル方ナリト。

○安藝藩士 辻將曹ナリ。

○憇憑 音シヨウヨウ。誘勸ナリ。

○斜 徐遮切、**麻**。

○甲東 利通ノ號。第四十六課「大久保利通」條參照。

○營 兵營。余傾切、**庚**。

○喇叭 音ラツバ。正字通ニ、喇叭、軍中吹器、俗呼ニ號筒トアリ。

第六十課 宮 城

○距 隔ナリ、去ナリ。第六課ニ見エタリ。

○上杉氏 世、鎌倉扇谷ニ居ル。

○太田持資 太田道灌、初名ハ資長トイフ（卷一第十一課及第三十三課參照）。少時、上杉持朝ヨリ其諱字ヲ賜ヒテ持資ト稱セリ。

○修築 修ハ修治、修理ナリ。

○天主閣 織田氏ノ頃ヨリ牙城（ホンマル）ノ異名トナル。「牙城」ハ第四十九課「牙營」條參照。天主ハ或ハ天守ニ作り、國守ノ城ニ殿主ト書ケルヨリ轉ゼシナラントイフ。

或ハマタ織田信長ノ安土城ニ在ルヤ、天主教ヲ信ジタレバ、之ヲ祀ル所トシテ呼ビシナラントモイフ。既ニ閣トイヘバ、城ノ本丸トハイヘド、實ハ本丸ノ中ニ、特ニ高ク設ケタル望樓（物見櫓）ヲ稱スルニテ、多クハ三階五階ノ層樓ヲ成ス。名古屋、姫路ナドニ殘レルガ如シ。

○高臺 臺ハ直立、第二十七課參照。

○雲霄 霄ハ、ソラ、天空。卷一第四十二課ニ宵夜ノ「宵」字ト對照シ、又第五十課ニ「不霄霄壤」ト見ユ。青霄、層霄、九霄ナドイフ。九霄ハ、孫子ノ軍形篇ニハ、善攻者、動ニ于九重之上トアリ、最モ高キ所ヲイフナリ。雲ハ猶ホ「河漢」ノ「漢」ヲ雲漢トイフガゴトシ。「霄壤不霄」トハ、事物ノ差異懸隔ノ甚ダシキヲイフナリ。

○數 四音四義アリ。(一)數フ、數ヘ責ムト動詞ニ用キル時ハ音シユ、ス、所矩切、**慶**。(二)數量、術數ナド、名詞ニ用キル時ハ、音ソウ、ス、雙遇切、**遇**。(三)數營不_レ入_ニ滂池（孟子梁惠上）ナド、細密ノ意ニ用キル時ハ、音ソク、趨玉切、**沃**。(四)ニハ此處ニ使ハレタル如ク「シバく」（驥）ト訓ズル時ハ、音サク、色角切、**覺**ニテ、論語里仁篇ニモ、事君數斯辱矣トアリ。

○燼 焚燼、燼滅ナリ。後篇日本外史抄楠氏（十）四條畷戰ニ餘燼ト見ユ。

○車駕 第六課ニ見エタリ。

○起功於 「於」ノ字ハ、「從」(カラ)ノ意アリ。下ノ「竣於」ノ「於」ハ「迄」「至」ノ意ヲ示ス。

○災 災ノ俗字。《ハ川ノ流レノ塞ガリ溢ル、ワザハヒ。此ニ火ヲ添ヘタル災ハ、水火共通ノワザハヒナレド、左傳ナドニ「有災」トアルハ皆火事ナリ。此處モ同例。

○焉 コ、ニ、ソコニ。

○疊見 疊ハ重疊ナリ。

○鬢鬚 音アイタイ。雲ノ盛ニタゞヨフ貌、タナビク。

○可以…矣 此三字ハ、響キガ弱ク聞ユ。僭越ナガラ、「可以」ノ二字ヲ「殊」或ハ「尤」ノ一字ニ換ヘ、「矣」ノ字ヲ刪リテハ如何。

○樓閣臺榭 樓ハ重屋、二階建、閣モ樓ト連用シテ同意ニ用キルモ、分テイヘバ、閣ハモト文書物品類ヲ藏スル棚ニテ、此ヲ具フル家、秘閣・内閣、史閣ナドニ用キ、佛閣、禪閣ナドニ及ブ。臺榭(ダイシヤ)モ通ジテイハ、ウテナト訓ズルモ、分テイハ、臺ハ土ヲ高ク盛リタル物見臺、榭ハ、其ノ木ヲ以テ造ラレタルモノ。

○細莎 莎ハ「ハマスゲ」。

○茵 シトネ、蓐席ナリ。芳茵、花茵、錦茵ナドイフ。

- 楠中將 正成公。銅像見後篇日本外史、楠氏(一節)。
- 基 猶ホ臺トイフガ如シ。
- 依田學海 見第三課。

第六十一課 皇軍陷旅順

○奥保鞏 福岡縣小倉ノ人。後元帥ト爲ル。今隱居セリ。

○乃木希典 山口藩士ナリ。幕府末年、松陰門下ヨリ出デ、高杉晋作ニ從ヒ國事ニ奔走シ、戊辰ノ役、東北ニ戦功アリ。明治四年陸軍少佐ト爲ル。十年西南ノ役起ルヤ、軍ニ從ヒ連戦功アリ。一日敵ト激戦シ、其聯隊旗ヲ奪ハル。希典是ヲ以テ終生ノ恨ト爲ス。(第六十三課、雙殉行、参照)。十八年少將ニ進ミ、二十五年東京第一旅團長ト爲ル。二十七年日清战役ニハ、中將山地元治ニ從ヒテ出征シ、遼東半島ニ戦ヒ、殊ニ混成旅團長トシテ蓋平ヲ陷ル。己ニシテ中將ニ任ジ、第二師團長ト爲リ臺灣ヲ征服ス。二十九年臺灣總督ニ任ジ、三十一年善通寺第十一師團長ニ補シ三十五年休職ト爲ル。栃木縣那須郡狩野村石林ニ退居シ、石林子ト號シ、躬ミヅカラ耒耜ヲ採リテ菜蔬ヲ培フ。三十七年日露战役ノ起ルヤ、留守近衛師團長ニ補シ、尋デ陸軍大將ニ任ジ、第三軍司令長官ト爲リ旅順ヲ攻ム。敵將ステツセル克ク防ギ、數月之ヲ拔

ク能ハズ。二子勝典保典(挿畫アリ)俱ニ討官ヲ以テ軍ニ從フ。勝典南山ニ戰死ス。希典曰ク、兒能ク國ニ殉ズ。不日一家三棺ヲ出スヲ待ツテ葬ヲ行ハント。一軍之ヲ傳聞シテ、士氣大ニ振フ。已ニシテ保典亦陣亡ス。希典毫モ愁容ヲ顯サズ。自若トシテ軍ヲ指揮シ、屍山血河ノ苦闘ヲ經テ、遂ニ旅順ヲ陷ル。尋デ第三軍ヲ以テ奉天ノ戰ニ露軍ノ退路ヲ遮斷シテ偉功ヲ奏ス。後功一級伯爵ニ陞叙ス。四十年總習院長ニ任ゼラル。四十四年歐米ヲ歴遊ス。四十五年七月天皇不豫、希典大ニ之ヲ憂フ。已ニシテ天皇崩ズルヤ、希典哀悼殆ンド絶セントシ、毎夜殯殿ニ參籠ス。九月十三日(改元大正元年)大葬ノ行ハル、ヤ、希典家ニ在リ。午後八時靈輦出門ノ號砲ヲ聞キ、之ニ殉死ス。時ニ年六十四。人之ヲ稱シテ古武士ノ典型又ハ武士道ノ權化ト爲ス。妻靜子ハ鹿兒島藩士湯池氏ノ女、亦希典ト共ニ之ニ殉ズ。年五十四。共ニ青山ニ葬ル。關都送葬者數十萬人ニ及ブ。朝廷其後ナキヲ憐ミ、大正三年子爵毛利元雄ノ弟元智ヲシテ乃木氏ヲ繼ガシメ、之ニ伯爵ヲ授ク。

○方此時 「方」ハ猶ホ「當」ノゴトシ。

○逸 逸出ナリ。第五十課ニ「逸長蛇」ト見エタリ。

○十餘隻 之石切。ヒトツ、單ナリ。カタワレ、奇ナリ。一對、一雙ノ半分ナリ。軍艦ナドヲ數ヘル數詞トシテ用キラル。隻手、隻眼、隻影ナド、皆一ツ又ハ片方ノ意ニ用ユルナリ。

○逆 此方ヨリ逆ニ迎ヘルナリ。

○午下 午後ナリ。下午トモイフ。午前ハ上午。

○一點鐘 一時(イチジ)ナリ。

○遂大潰 色々ヤツテ居タガ、トウ／＼一方潰レル方ヘ進ンデシマツタ。

○竄 逃竄、竄入ナリ。第四十五課ニハ流竄トアリ。卷一第五十二課ニ竄匿ト見エタリ。

○穹窿 音キユウ、カウ。穹ハ穹窿ト連用ス。弓形ニテ、屋根ナドノ彎形ニ作ラレタルモノ「アーチ」形ヲイフ。穹ハ地中ヲ掘ツテ作レルアナ倉ナリ。

○叢射 叢ハ群ガリ集ムルコト。

○黑鳩 「クロバトキン」ノコト。

○爾靈山 二〇三高地ノコト。見ニ卷一第五十七課。

○制死命 死命ハ死ヌルイノチ。此ヲ制ストイヘバ、急所ヲ抑ヘルノ意ナリ。

○悉 知悉ナリ。

○殲 ミナゴロシニスル、ツクス、殲滅スルナリ。殲滅ト連用スルコト、下文ニ見ユルガ如シ。殲ハ殲ノ俗字。見ニ卷一第五十七課。

○牙營 見第四十九課。

○不勝枚舉 第六課ニ「不可勝數」ト同意。枚舉ハ、一一數ヘアグルコト。枚ハモト木ノミキ、條枚ナリ。引申シテ、劍幾枚、紙幾枚、銀幾枚ナドイフ。

○重鎮 重キオサヘ。鎮ハシヅメオサヘルコト。鎮壓、鎮守トイフ。

○戮力 カヲ合セテ一ニスル。戮ノ字ハ第十三課ニ斬戮ト用キラレタルモ、又「勳」ト通用シ、カヲ合ス義トナル。

○克 克服、克勝ナド、用キラル、字ニテ、十分其事ニ打チ勝ツテ爲シ終ヘル意アリ。「能」ノ字ヨリハ重シ。

○嘉 ヨミス、ヨシトスル。善ナリ、美ナリ。嘉獎トイヘバ、ヨミシテホメス、メルナリ。又嘉稱トモイフ。見三卷一第六課。

○爾 汝ナリ。教育勸語參照。

○奏功 見第五十課。

○轉 轉ハ旋轉、轉進、轉益ナドノ義アルヨリ、ウタ、イヨク、イトド、イヤマシニ、ナドノ訓アリ。

○荒涼 見第五十一課。

○涼 涼ノ俗字。龍張切、陽。

○川 昌緣切、先。

○十里 詩中ニ、稍ヤ路ノ遠キタイヒ、其間ニ物ノ長ク連續セルヲ示ス。十里青嵐、十里白沙ナドノ如シ。

○不前 不進ナリ。此句第四字平字ナルヲ要ス。而シテ「進」ハ仄字ナルニヨリ、避ケテ平字ノ「前」トセルナリ。

第六十二課 橘中佐

○長崎縣人 有明灣 千々岩村ノ人。大日本人名辭書ニ長野縣人ニ作ルハ誤レリ。

○第五聯隊 青森。

○恪勤 恪ハ、ツ、シム、謹ナリ。恪謹トモイフ。勤ハ勤勉ナリ。

○歩兵聯隊 明治三十七年、中佐ハ名古屋幼年學校長タリシガ、切ニ請ヒテ出征ヲ許サレ、名古屋第三師團靜岡第三十四聯隊大隊長トシテ從軍セリ。

○扼 扼ト同ジ。抑ヘツケル、トリヒシグ、ナリ。第六十一課ノ「制死命」ノコト、ナル。扼喉トイフコトアリ。又扼腕トハ、イキゴミテウヂヲオサヘルナリ。第四十一課ニ「要

扼之地」トアリ。

○大島中將 名ハ義昌。山口縣人ナリ。後關東都督ト爲ル。大正十四五年ノ交ニ歿ス。

○關谷聯隊長 名ハ銘次郎、千葉縣人ナリ。當時第三師團歩兵第三十四聯隊長タリ。三十七年八月三十一日、遼陽附近ノ大戰ニ激闘シテ歿ス。

○二鼓 夜ヲ五更ニ區分ス。初更(八時)、二更(十時)、三更(十二時)、四更(二時)、五更(四時)是ナリ。各更鼓ヲ以テ報ズ故ニ此稱アリ。

○黎明 夜明ケガタ。昧爽トイフト同ジ。黎ハ黧ト同ジク黑色ナリ。故ニ黎明ハ、夜ノマダクラキ中ニ明ルクナリカケルコトナリ。

○窘急 窮迫ナリ。窘巨隕切。

○裹 古火切。ツ、ム。此處デハ纏裹ナリ。

○儼立 「儼」字、見第十八課。

○叱咤 大聲ヲ發シテシカル(叱呵)。見卷一第二十六課。

○盍 何不ナリ。前見。

○纒 ヤット斯ウシタバカリナルニ。

○旋 カヘツテ、マタ。モト戻旋、旋轉ノ旋ナリ。字ノ本義ニツキテ考フベシ。

○畢矣 見第五十二課。

○且起且仆 第十八課ニ、且立且坐トアリ。

○外史氏 外史ハ周禮ニ見ユ。モト官府以外ノ事實ヲ記録スル官ナルガ、轉ジテ、凡ソ身史官ニアラズシテ私ニ事ヲ記スルモノ、又ハ其手ニ成レル記録ヲモイフ。山陽

ノ日本外史ノ若キハ別ニ、日本以外ノ史トノ意ヲ寓シ、霸者ヲ排斥シタルモノナリトノ説アリ。

○輒 見第九課。

○拉 音ラフ。落合切、**合**引クナリ、捕ヘ引キ來ルナリ。

○瞻并 瞻字見第三十課。

○土屋鳳洲 攝津岸和田藩ノ儒者、文章ヲ以テ著ハル。晚晴樓文鈔アリ。

第六十三課 雙殉行

○雙殉 明治天皇崩御ノ爲メ、乃木將軍夫妻兩人俱ニ之ニ殉ゼル事、第六十一課乃木希典參照。

○行 此處デハ、胡岡切、**陽**ニテ、歌行ノ行、詩ノ一體タリ。モト行列ノ意ヨリ來ル。

○換韵

此詩六節ヨリ成リ。節ヲ追ヒテ意ヲ轉ズルトトモニ、平仄換韵ス。内容形式俱ニ整齊シ、シカモ壯烈悲哀ノ情全篇ヲ蔽フ。筆力ノ雄健充實セル、誠ニ題目ト相稱フヲ覺ユ。此ノ一篇ノ始メテ國民新聞ニ見ハル、ヤ、將軍死後二三日間ノ事ナリシト記憶セリ。詩ヲ説クニ臨ミテ、先ヅ作者ノ何人タルヤヲ知ラザルベカラズ。

○竹添井井

名ハ漸、字ハ光鴻、肥前天草郡上村ノ人。熊本ノ儒者木下犀潭ニ學ビ、才學、井上梧陰(毅)ト並稱セラル。戊辰ノ役、熊本藩ノ參謀タリ。明治八年、天津領事トナリ、尋デ北京公使館書記官ニ轉ズ。支那内地ヲ漫遊シ、棲雲峽雨日記ヲ著ハス。後朝鮮ニ辦理公使ト爲リ、十七年京城ノ變ニ其畫策當路ノ意ニ滿タズ、乃チ職ヲ退キ東京帝國大學ニ講師タリ。二十八年之ヲ辭シ、相州小田原ニ閑居シ、専ラ著作ニ從事ス。左氏會箋ヲ著ハセルニ因リ大正三年學士會員賞ヲ受ケ、且ツ文學博士ヲ授ケラル。別ニ著ハス所、毛詩會箋、論語會箋、孟子論文、獨抱樓詩文稿等アリ。大正六年、七十六歳ヲ以テ歿ス。

○第一節

壤、古怪切、**卦**。先ヅ十年役熊本城ノ失敗、遺恨忘ルベカラザリシ事ヲ記シ出ス。第六十一課乃木希典條參照。

○戰雲壓城

薩軍ニ攻メテラレタル熊本城ノ光景ヲ畫ク。李長吉ノ雁門太守行ノ詩ニ、黑雲壓城欲摧。甲光向日金鱗開。ト打出セルニ倣ヒシガゴトシ。

○第二節

轟、呼宏切、**庚**。次ニ旅順攻撃ニ轉ズ。

○吾何面目

卷一第五十七課、將軍ノ自作ノ詩ニ、愧我何顔看父老。凱歌今日幾日還トアリ。

○第三節

闕、祛月切、**月**。次ニ明治天皇大葬ノ事トナル。

○青山

明治四十五年七月三十日崩御、九月十三日夜靈輜宮城ヨリ青山御葬場ニ徙ラル。此ハ其御道中ノ事ヲ述ブ。翌十四日午前〇時ヲ合圖トシテ全國一齊ニ奉弔ス。二時ニ靈柩車桃山ニ向ハセ給ヘリ。

○馳道

天子又ハ貴人通行ノ道筋、オナリミチ、輦道、史記ノ秦始皇紀ニ、治馳道トアリ。漢書ニ、秦爲馳道于天下。道廣五十步。樹以青松トアリ。唐ノ岑參ノ慈恩寺ノ詩ニ、青松夾馳道。宮觀何玲瓏。トアリ。

○朱闕

丹漆ニテ塗レル門、御所ノ門、禁門。朱ハ上ノ青山ノ「青」ト反映セシム。

○萬國衣冠

世界各國使臣等ノ來リテ御送葬式ニ列スル者ヲ指ス。

○第四節

終、之戎切、**東**。第五十二課第六十二課トモニ皆臣事畢ト「畢」ノ字ヲ用キタルモ、此處ハ「東」韵ニ合ハサンガタメ「終」トセルナリ。此節其死狀ノ悲壯ニシテ、而モ落付ケルヲ示ス。

○從容

見ニ第八課及第四十六課。先ヅ腹部ヲ二度切りシモ死ナレヌ故、布ニテ包ミ置キ、次デ首筋ノ大動脈ヲ切斷セリトイフ。

○蛾眉

毛詩ノ衛風ニ、蛾首（ナツゼミノ額ノ白キニタトフ）蛾眉（鬢ノ觸鬚ニ似タル美シキ眉）トアリ。轉ジテ美人ヲ指シテイフ。

○三刺

婦人ノ事ニテ、此様ナ事ニハ不案内ナリシガ爲メ、三刺ニマデモ及ビシナリ。

○織手

織ハ織ノ俗字、織細、織毫ナドイヒ、微細ナルコト。又織弱、織柔ナドイヒ、タラヤカ、シナヤカナルコトニ用ユ。

○第五節

溼、俗ニ濕ニ作ル。音シフ、又促音シツト讀ム。矢入切、**緝**。次デ死後ノ遺書（石黒忠惠氏ナドニ宛テタルモノ）ノ事ニ及ブ。

○神恫

恫音トウ、ドウ。イタム。恫痛、駭恫ナドイフ。

○第六節

堅、經天切、**先**。最後ニ夫婦ノ德操ヲ稱シ、終ニ雙殉ノ本志ニ歸シ、天皇ノ御陵ヲ以テ之ヲ結ブ。

○舍生

孟子ノ告子上ニ、生亦我所欲也。義亦我所欲也。二者不可得兼。舍生而取義者也。トアリ。

後篇

日本外史鈔

源平氏

(一) 赤旗

○教授要旨

本篇ハ略ボ歴史のニ卷一後篇ノ國史略鈔ノ後ヲ承クルモノナリ。其教授法ハ問ヲ待ツテ之テ行フカ、然ラズハ教師ヨリ指點シテ注意ヲ喚起スベシ。間々字句ノ講解ヲ要スルモノハ、生徒ノ質自カラ其字義ニ通ジ、文氣文情ヲ味ハシムルヲ以テ上乘ト爲ス。尙教師ハ必ズ自カラ一部ノ日本外史全本ヲ備ヘ、彼此對照シテ鈔本ニ缺略セル所ニ就キ其聯絡ヲ圖リ、又其卷頭卷尾ニ附セル山陽ノ諸論文ノ若キハ豫メ熟讀復誦シテ、作者心血ノ注グ所ヲ體認シ、必ズ作者ノ心胸ヲ以テ我ノ心胸トナシ、自カラ能ク作者ニ代リテ其精神ヲ傳ヘ得ルニ至リ、然ル後教場ニ臨マバ、庶幾ク巴眞ノ外史教授者タルニ愧ヂザラン。參考書トシテハ明治十八年刊行ノ長瀬寛二編輯、日本外史便蒙八冊アリ。最モ便利ナルモノナリ。是非各自ニ一部ヲ備ヘラレンコトヲ望ム。

○天皇

下文ノ「武臣」ノ字ト對觀スベシ。源平氏以下政權ヲ掌握スルモノ、皇室ヨリ分派シ出デシモノタリト雖モ、既ニ君臣ノ分アリテ儼然トシテ其間ニ存ス。正朝ノ別豈ニ曖昧ニ付スルヲ許サンヤ。是レ開卷第一ニ先ヅ明明白白ニナシ置カザルベカラザルモノナリ。

○夫人

キサキ、女官ノ稱。正后外ノ御妻ニシテ、五位以上ニ居ル。

○多治比莫宗

參議高野ノ女。莫宗ハ或ハ莫真ニ作ル。

○親王

天子ノ皇子、宣下アリテ親王ノ號ヲ賜フ。

○鑒

鑒戒トス。

○四品

本邦位階ノ制、親王ニハ品ト稱シ、凡ソ四品アリ。諸王諸臣ニハ位ト稱シ、凡ソ三十階アリ。官ニハ任ト云ヒ、位ニハ叙トイフ。

○式部卿

式部省ハ内外文官ノ進退法式等ヲ掌ル。卿ハ其ノ長官ナリ。

○拜

拜命ナリ。ヤクニイヒツカルコト。

○介

國守ノ次官。タスケ役ナリ。

(二) 白旗

○宮

御女中。

○王氏

三代實錄ニヨレバ、貞觀十五年、親王八人ニ源氏ヲ賜フ。皇子貞純親王ノ母ハ、王子中務大輔棟貞ノ女ナリ。

○桃園

一條ノ大宮ニ在リ。其ノ居ル所ニ就キテ稱ス。

○經基

源氏ノ祖タリ。

○武幹

武術ノ才能。

○六孫王

第六ノ皇子ノ子ニテ、天子ノ孫王タルコト。

○天慶

朱雀天皇ノ朝。

○鎮守府將軍

府ハ陸奥ニアリ。東夷ノ防ト爲ス。將軍ハ其長官ナリ。

(三) 重盛諫言 其一

○仁安

六條帝ノ年號、此一節已見卷一第十八課。

○内大臣

孝德帝ノ朝中臣鎌子連ヲ以テ始メテ内臣ト爲シ、天智帝ノ朝、舉ゲテ内大臣ト爲ス。其位左右大臣ノ上ニ在リ。後此官久シク絶ユ。光仁帝ノ朝ニ至リ、復タ

此號アリ。左右大臣ニ亞グ。

○陞

段々ト昇進スルコト。

○太政大臣

天智ノ始メテ之ヲ置ク。一人(天子)ニ師範シ、四海ニ儀刑タルモノ。

○隨身兵仗

卷一第十八課參照。武器ヲ持テル者ヲ身ニ隨ヘテ參内スル資格。凡ソ文官ハ攝關タリトモ、免許ナクバ、參内ニ劍ヲ帶ビ兵ヲ執ルコトナラズ。今ハ特殊ノ禮ヲ許サルナリ。

○輦車

テグルマ。牛馬ヲ用キズ。手ニテ推ス車。

○采邑

領地、地行所、又采地トモイフ。采ハ事ナリ、官職ナリ。官職事功ニヨリテ邑ヲ食ムヲ得タルモノ、此ヲ采邑トイフ。見ニ卷一第十八課。

○淨海

大日本史ニハ淨海ニ作ル。

○別第

シモヤシキ。

○西八條

洛外ニ在リ。

○權大納言

第五十八課參照。以下高倉帝治承年間ノ事ニ屬ス。

○法皇

後白河法皇。

○執事

白河院廳ノ長官。

○西光

藤原師光髮ヲ削リテ西光ト稱ス。

○藏人

クラウド。嵯峨帝ノ時ヨリ置カレタル、奏問ヲ掌ル官ナリ。

○院勅

上皇、法皇ノ勅ヲ院勅トイフ。此ハ後白河法皇ノ勅命ヲサシテイフ。

○將率

大將元帥、率ハ帥ニ同ジ。

○冑

冑ハ長ナリ、後ナリ。家ノ總領スヂテイフ。

○殊功

格別ナルテガラ。

○自度

度ハ計度ナリ、考慮ナリ。

○竟

究竟ナリ。ドボノツマリ、到底ナリ。

○自首

自ラ役所ニ出頭シテ、名乗り出デ、罪ヲ待ツコト。

○拷掠

音カウリヤク。拷ハ拷問ノ拷、白狀サスルタメニ打ツコト。掠ハ財物ヲ略奪スルコト。

○宗族

一先祖ヨリ分出セル家スヂ。一家一門。

○新院

崇徳上皇。

○覆育

モリタテソダテル。

○故院

鳥羽法皇。

- 克平 克ハ克服ナリ。平ハ平定ナリ。
- 亂逆 源爲義爲朝等ヲ指ス。
- 猖獗 猖狂ニ同ジ。タケリクルヒ、アバレルコト。
- 自愛 愛ハ生命ヲ惜ムナリ。
- 夷滅 夷ハ平ナリ。
- 經宗、惟方 清盛藤原經宗、藤原惟方二人ヲ執ヘテ流ニ處ス。
- 族滅 一族舉ツテ絶ヤサル。
- 即母 「即」ハ「モシ」ト訓ズ。モシ此ノ通りニナツテシマフナラバトイフ時ニ用ユ。「母」ハ「ナカランニハ」ノ意。
- 細人 小人ナリ、賤人ナリ。
- 宣 院宣ナリ。
- 移之 之ハ法皇ヲ指ス。
- 鳥羽宮 京城ノ南ニアリ。
- 於此 己ノ邸。

- 北面奴輩 白河帝讓位ノ後、武勇ノ士ヲ擇ビ、院中ニ候セシム。此ヲ北面ノ武士トイヒ、上北面、下北面アリ。奴輩ハ「ヤツバラ」ナリ。
- 扞 扞禦ナリ。
- 亟戒將士 首尾一樣ノ語句ヲ用ユ。

(四) 重盛諫言 其二

- 主馬 東宮ノ官ニテ、乘馬鞍具ノ屬ヲ供進スルヲ掌ル。
- 命駕 車ニ馬ヲツケサスコト。
- 第門 屋敷ノ門。
- 擲 著ケル、見ニ第五十三課。
- 烏帽 エボシ。
- 直衣 ナホシ。略ボ袍(束帶用ノ上著)ニ似タリ。大臣以上ノ用ユルモノナルモ、四位以上ノ者モ勅免ヲ得バ之ヲ著クルコトヲ得。
- 叩 手ヲツケテ引キ止ム。

○大臣大將 内大臣、左大將タリ。

○闕 禁門。

○表 上ヘカケル。

○呿 開ナリ。

○甲見

見ハ「アラハル」ナリ。原文ニハ「覩」ニ作レルモ、覩ハ睹ト同ジク、音ト。「ハツキリト、ミトゞケル」トイフ字。東涯ハ、此字ハ「ミユ」トハ用キラレズトイヘリ。「甲見」トスル方妥當ナルニ似タリ。故ニ今改修シ置ク。周易乾卦文言傳ニ、聖人作而萬物覩トアリ。又韓退之ノ答劉正夫書ニ、夫百物朝外所見者、人皆不注視也、及レ覩ニ其異者、則共觀而言之トアリ。見視觀四字ノ用法以テ見ルベキナリ。

○狀 白狀ノカキツケ。

○間 問者トモ用ユ、頃者ト同ジ。左傳成公十六年ニ、間以君之靈トアリ。

○羣小 多クノ小人。

○彙進 類ヲ以テ相集マリテ進ミ來ル。

○覩觀 見第一課。

○不已 不止ナリ。

○御 御シ使フナリ。

○且請 且ハ苟且、姑且ト連用サル。マアノ、コンナコトニシテイツテトイフ意。

○一邊 一方ノ邊鄙（カタイナカ）。

○久之 猶ホ「久焉」ノゴトシ。「之」ハ「其狀態デ」ナリ。

○四恩 華嚴經ニ、天地、國王、父母、衆生ノ恩ヲ四恩トス。又一ニ國王、父母、師友、檀越（ダンチャツ）ノ恩トスルモノアリ。

○抑 上述ノ事ハ、シバラク抑ヘテ置イテ、別ノ事ニ轉ジテ申セバトノ意。

○胤 後胤。

○降爲人臣 四字特筆大書、篇首ノ世爲武臣ノ四字ト相呼應ス。

○平將軍之功 平貞盛、平將門ヲ討チシ功。

○國守 陸奥守。

○内昇殿 昇殿ニ内昇殿ト院昇殿ノニアリ。内ハ今上ノ御所、院ハ上皇法皇ノ居所。

○反唇 護ルコト。反ハ翻ナリ。

○不肖 肖ハ似ナリ。賢、父ニ若カザルヲ不肖トイフ。又廣ク凡ソカクアルベキ人、即チ君子人ニ及バザルモノヲ不肖トイフコトアリ。

○且辱 且ハ尙且ナリ。「ソレデモ矢張り」ナリ。辱ハ、我が其職官ニ恥辱ヲ與ヘルニ足ルノニ、ソレデモ此ニ居ルヲ得ルヨリ、「カタジケナシ」ト訓ジ、「アリガタキ」意ニ讀ム。

○駢植 音ベンシヨク。並立ナリ。駢ハモト車馬ノ二頭ニイフ。

○叨 音タウ。濫ナリ、貪ナリ。

○艾 音カイ。絶ナリ、盡ナリ。

○既獲 「既」ハ下ノ「宜」ト呼應ス。獲ラレテシマツタ以上ハ、宜シク……ナリ。

○則公家 「則」ハ「如此則」ニ同ジ。「サスレバ」ト譯スベシ。

○公家 オカミ。君家。

○霽威 「威」ハ御立腹トイフガゴトシ。御怒リナリ。唐書ノ魏徵ノ傳ニ、上爲之霽威トアリ。御機嫌ヲナホサル、コト。

○何必草草爲也 草草ハ亂離不整ノ貌。又「匆匆」トモ通ジ急忙ナル貌トナル。此句ハ「何必爲此草草也」又ハ「何必草草」ニテモ意義同ジク通ズルモ、「爲也」ノ二字ヲ句末ニ搖曳セシメ、語意ヲシテ急迫ナラザラシム。尤モ重盛幾諫ノ心情ヲ表現スルニ足ルヲ覺ユ。

○較著 較ハ明ナリ顯ナリ。漢書孔光傳ニ、較然其明トアリ。史記伯夷傳ニハ、此其尤大彰明較著者也トアリ。

○三公 太政大臣、左右大臣ヲ以テ三公トス。太政大臣ナキトキハ、内大臣ヲ置キテ三公トス。

○沐浴 受恩ノ深厚ナルヲ濯髮洒身ニ比ス。

○嚮背 君ニムカヒ、父ニ背クコト。

○在焉 焉ハ重盛自身ヲ指ス。

○撫循 イタハリナツケル。

○六條判官 六條ハ爲義ノ居第ノ在ル所。檢非違使尉ハ常ニ官名ヲ稱セズ、一タゞ判官トイフノミ。

○大逆無道 見三卷一後篇、國史略鈔、「和氣清麻呂」條。

○睹 同レ親。

○靚 目ニアフ。兩方ヨリ見アフトイフニ用ユ。

○感 憂感ナリ。

○然後發 結語短促、憂然トシテ止ム、復タ上文ノ緩舒ナルニ似ズ。是レ行文ノ變化ナリ。

(五) 重盛諫言 其三

- 徒 何デモナイ、タゞ此ンナコトデ。第十七課「但」字條參照。
- 乃以爲 「乃」ハ上ノ次第ナルニ、ソノマ、ニ承認シナイデ、カヘツテ……トノ意。此「好」ハソウスルガ「ヨイ」、ソウシナ「サイ」トイフ意。「宜」或ハ「可」ノ字ニ當ル。(第八課「雲横」條下「好收」參照)。
- 好計之
- 讓 責ナリ。「ユヅル」ハ「攘」ノ字ナリ。今「讓」ヲ假リテ「攘」トスルコト多シ。
- 縱令 ユルシテ斯クノセシムルトノ義。
- 愆憑 見第五十九課。
- 勅將士 勅ハ戒ナリ。
- 乃還 「乃」ハ其マ、ニ居ラズ、一轉スル。
- 既夜 モー全ク夜ニナツテシマツテカラ……………。
- 措 其マ、ニステ置ク。
- 必有由也 「必」ノ下ニアル「也」ハ常ニ推定トナル。「ナラム」ナリ。
- 赴之 「之」ハ上文ノ小松第ヲ受ク。

- 院宣内府 院ハ崇徳上皇、内府ハ重盛。
- 自急 自カラ誅ヲ恐レテ、イソギアハテ、自害デモシタマハンカト心配シテ。
- 前途已迫 餘命少キタイフ。
- 不復事事 モウ何事モカマハヌ。
- 唯卿令之 ソナタノ、サシヅ次第。
- 漣然 涙ノサメムトコボレル貌。泣然、潜然、漣如ナドイフニ同ジ。
- 親臨 臨ハ兵ノ集マレル場處ニユクコト。
- 勞 骨折タイタハル。
- 眞不負平生 マコトニ、平素ノイヒツケヲ忘レヌトイフモノダ。負ハ孤ナリ、背ナリ。
- 謬傳 マチガツタウワサ。
- 緩急 緩ハ帶言ノミ。教育勅語及第四十二課參照。
- 毋狃焉 イツモ、コンナ事カト、ナレテ油斷シテ、事ニオクル、ナ。「狃」ハ習ナリ。
- 使人 人ハ法皇自カラ指ス。

(六) 賴朝破平氏

- 治承四年 高倉帝ノ年號、此年平治ノ亂ヲ距ルコト十七年。
- 賴朝 義朝ノ第三子鬼武者ト稱ス。平治ノ亂ニ年十三、此ニ至リテ三十一歳ニ及ベリ。
- 以仁王 後白河法皇ノ次子、高倉宮ト稱ス。源三位賴政之ニ説キテ兵ヲ舉グ。
- 伊豆 配所蛭島。
- 戰敗 相模石橋山ニ於テ大庭景親、首藤經俊等ニ破ラル。
- 航海 箱根ヲ出デ相模眞鶴崎ヨリ舟ニ上ル。土肥實平、岡崎義實二人之ニ從フノミ。
- 走安房 三浦氏ニ依ルナリ。
- 嚮導 郷ハ鶴ニ同ジ。又其郷土ニ於ケル案内者トモ解セララル。
- 徇 號令ヲトナヘテ服後セシムルコト。
- 廣常 平廣常。
- 濟河 河ハ隅田河ナリ。
- 相告 互ニ知ラセアツテ。

- 幕府 大將ノ役所。
- 部署 手分ケスル。
- 逆擊 ムカヘウツ。
- 比 コロ、コロホヒ、オヨビ。比近比及ノ意。比ニ其至、比レ及ニ三年、比レ來ナドイフ。
- 無際 際ハ際涯、際限ナリ。
- 實盛 武藏ノ長井莊ノ人ナレバ、ヨク東事ヲ知レルナリ。
- 挽強 ツヨ弓ヲヒク。
- 五箇力 五人バリノ弓。
- 十五拳 箭ノ長サ十五束(ツカミ)。一束ヲ一拳トイフ。矢ノ長サヲ計ルニハ拳ヲ以テス。
- 甲七札 ヨロヒノ七襲(カサネ)。札ハ甲葉ナリ。
- 斗量帚掃 マスデハカリ、ハ、キデハクホドアル。
- 斗量帚掃 帚音シウ、サウ。第五課ニ見エタリ。
- 么麼厖弱 么麼ハ細小、厖弱ハ、ヨワミソ、跛弱ナリ。